

大分県文化財調査報告第88輯

大分空港道路建設に伴う埋蔵
文化財発掘調査報告書Ⅱ

成 田 尾 遺 跡

今 村 遺 跡

馬 場 尾 遺 跡

1992年3月

大分県教育委員会

大分空港道路建設に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書Ⅱ

成 田 尾 遺 跡

今 村 遺 跡

馬 場 尾 遺 跡

序 文

国東半島の基部、別府湾北岸一帯の日出・杵築地方は、早水台遺跡や七双子古墳群をはじめとする学史的に貴重な遺跡が多数所在するところとして知られています。

大分県では年々利用客の増大する大分空港へのアクセス道路の整備を図るため、国道10号線と空港とを結ぶ空港道路の建設を実施し、昨年11月、開通致しました。

県教育委員会ではこれに先立ち、昭和58年から路線内の分布調査、試掘調査を行い、その内、6個所の重要な遺跡の発掘調査を実施してまいりました。これらの発掘調査の成果につきましては、その一部を既に「大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ」として刊行しております。

今回の調査報告書は、日出町に所在する弥生時代中期の集落跡の成田尾遺跡、古墳時代の集落跡の今村遺跡と、杵築市に所在する中世の墓地群の馬場尾遺跡の3遺跡の成果を収録したものです。

これ等の遺跡は、いずれも県内の歴史を考えるうえでの貴重な資料であります。本書が今後の学術研究ならびに文化財の保護、啓発に役立てば幸いです。

最後に、この発掘調査に多大な御協力をいただいた関係各位に対して、衷心より感謝申し上げます。

平成4年3月

大分県教育委員会教育長

宮 本 高 志

例 言

- 1、本書は、昭和63年度、平成元年度に実施した空港道路建設に伴う、成田尾遺跡（日出町）、今村遺跡（日出町）、馬場尾遺跡（杵築市）の発掘調査報告書である。
- 2、成田尾遺跡、今村遺跡の遺構の実測は主に調査員、調査補助員が行い、遺物の実測、製図は栗田勝弘の他、一部を西村しのぶ（県文化課整理作業）が担当した。
- 3、馬場尾遺跡の遺構の実測は主に調査員、調査補助員が行い、遺物の実測、製図は清水宗昭、猪薫が担当した。
- 4、本書の執筆はⅠ・調査に至る経過を清水宗昭、Ⅱ・成田尾遺跡を栗田勝弘、Ⅲ・今村遺跡を栗田勝弘、Ⅵ・馬場尾遺跡を清水宗昭・吉田寛が担当した。
- 5、本書の編集は成田尾遺跡と今村遺跡を栗田勝弘、馬場尾遺跡を清水宗昭がそれぞれ担当した。

大分空港道路建設に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書Ⅱ

I 調査に至る経過	1
II 成田尾遺跡	3
III 今村遺跡	165
IV 馬場尾遺跡	183

I 調査に至る経過

I. 調査に至る経過

国東半島の東岸にある大分空港と別府市・大分市の主要都市を結ぶ大分空港道路整備事業のうち、国道213号安岐バイパス建設工事に係る安岐城跡の発掘調査は、昭和58年9月から昭和61年3月まで3次にわたって実施した。その結果は、すでに『安岐城跡・下原古墳』（大分県文化財調査報告第76輯）として刊行されている。

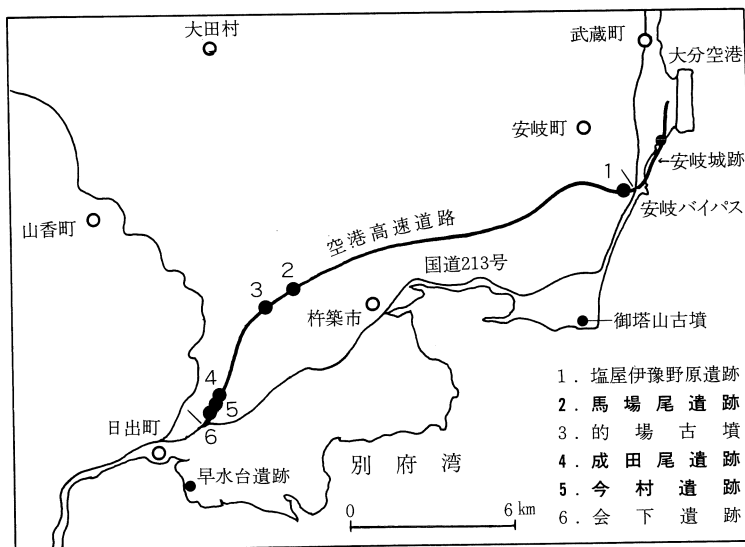
一方、国道10号と国道213号の分岐点近くの日出町会下と安岐バイパスを結ぶ大分空港高速道については、新設工事であるため、大分県教育委員会は路線内の文化財の取扱いについて県土木建築部及び大分県道路公社と協議を重ねてきた。それをもとに、県教委は昭和58年度に全予定路線の遺跡分布調査を実施し、14ヶ所の散布地等を確認した。これらの遺跡については、その後の用地買収状況にあわせて昭和62年5月から試掘調査を開始した。その結果、安岐町塩屋地区で縄文時代早期を主とする複合遺跡、日出町会下地区で奈良時代柱穴群を確認した。また、杵築市馬場尾地区のうち1基の一部が橋脚部にかかることが明らかになった。これに、日出町成田尾遺跡と杵築市馬場尾地区を加えた5ヶ所について本調査が必要と判断されたので、県土木建築部の委託を受け、昭和62年～平成元年度の3年次にわたって本調査実施した。

このうち、安岐町塩屋伊豫野原遺跡については、昭和62年10月から63年2月末まで発掘調査を実施した。昭和63年5月からは、日出町会下遺跡と杵築市馬場尾遺跡の本調査を実施した。

その結果については、昨年度『大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』（大分県文化財調査報告書第83集）として刊行されている。

平成元年度は会下遺跡の北方にある弥生中期の集落遺跡である成田尾遺跡、古墳時代の今村

遺跡、中・近世の墳墓遺構である馬場尾遺跡の本調査を実施した。



第1図 大分空港道路関係遺跡位置図

Ⅱ. 別府湾北岸の歴史的環境

国東半島の南部は、瀬戸内海の一角を占める別府湾の北岸にあたり、南岸に対して屈曲のある海岸線を有している。その内陸部は、北部に杵築山地、南部に日出丘陵という比較的なだらかな地形に占められており、その中間を東部の鹿鳴越山地を源流とする八坂川が、湾入の深い守江湾に注いでいる。また気候も温暖な瀬戸内型に属し、適度の気温と降水に恵まれている。

こうした自然条件をもつこの地域は、先史時代から近世に至るまでの遺跡と史跡に富み、学史的にも重要な役割を果たしてきたと云える。南部の日出丘陵には、旧石器時代と縄文時代早期の早水台遺跡、弥生中期の大津遺跡等がある。古代中世には大神荘が成立していたところであり、近世には、城下町日出藩が形成されている。北部の杵築地方も、縄文早期の稲荷山遺跡等の先史遺跡があるが、ここでは古墳時代の古墳の発達が著しく、県下における重要な首長層をもつグループとして注目されている。とくに古墳時代前半期には、国東半島の東南端部の美濃崎地区の丘陵頂部に小熊山前方後円墳と御塔山円墳という県下最大級の首長墳が築造されている。また後期には七双子古墳をはじめとする横穴石室墳がとくに八坂川下流域に集中して造られている。古墳時におけるこの地域の半島及び別府湾岸における重要性を如実に語るものである。

守江湾の最奥部、八坂川の河口には近世に半島の大半を所領とする城下町杵築が形成された。日出といい杵築といい小藩であるが、この地域に近接した城下町がつくられたことは、この地域が地政学上きわめて重要な地点であったことを物語るものである。

Ⅲ. 遺跡の概要

速見郡日出町大字藤原の丘陵上に立地する成田尾遺跡は、弥生時代後期初頭の著名な大津遺跡に近接する位置にあり、下城式土器を主体とする弥生時代中期の集落跡である。ここでは円形の竪穴住居跡、小児カメ棺等の遺構が検出されている。

今村遺跡は成田尾遺跡が立地する丘陵の南側斜面に位置し、5世紀代の方形竪穴住居跡3基が発掘された。このうちの1基には、カマドが附設されており、この時期のものとしては注目されるものである。

馬場尾遺跡は高山川に臨む丘陵上にある中～近世の墳墓であるが内部主体が明確なものは少なく、五輪塔類が多く散在した状態のものである。その中で方柱状の板碑(?)は重厚な造りであり、石造品としても優品とみられる。

Ⅱ 成田尾遺跡

目 次

第Ⅰ章 調査経過と調査団の構成	3
1. 調査経過	3
2. 調査団の構成	3
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4
第Ⅲ章 調査の概要	6
第Ⅳ章 検出遺構と遺物	8
1号、4号竪穴（第4・5図）	8
2号竪穴（第27図）	35
5号竪穴（第34図）	41
6号竪穴（第35図）	43
1号小児土器棺墓（第39図）	47
2号小児土器棺墓（第41図）	49
4号小児土器棺墓（第44図）	51
1号土坑	53
5号土坑	55
6号土坑（第52図）	58
8号土坑	58
9号土坑（第55図）	60
10号土坑（第56図）	60
11号土坑（第57図）	60
12号土坑（第58図）	62
13号土坑（第60図）	62
15号土坑（第62図）	63
16号土坑（第63図）	64
17号土坑（第65図）	65
19号土坑（第68図）	69
28号土坑（第71図）	71
36号土坑（第71図）	71
29号土坑（第74図）	74
30号土坑（第76図）	75
33号土坑	75

34号土坑（第79図）	76
ピット内出土遺物（第85～95図）	84
包含層出土遺物（第96～114図）	95
第V章 まとめ	116

挿図目次

第1図 成田尾遺跡と周辺の主要遺跡位置図	5
第2図 成田尾遺跡と周辺地形図(1/3000)	7
第3図 成田尾遺跡遺構配置図(1/500)	9
第4図 成田尾遺跡1号、4号竪穴実測図(1/80)	12
第5図 成田尾遺跡1号竪穴張り出し部(18号土坑実測図)(1/40)	13
第6図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	14
第7図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	15
第8図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	16
第9図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	17
第10図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	18
第11図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	19
第12図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	20
第13図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	21
第14図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)	22
第15図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3・2/3)	23
第16図 成田尾遺跡1号竪穴張り出し部(18号土坑)出土遺物実測図(1/3・2/3)	24
第17図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	25
第18図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	26
第19図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	27
第20図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	28
第21図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	29
第22図 成田尾遺跡4 a (23)、4 b 竪穴(24)出土遺物実測図(1/4・1/3)	30
第23図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	31
第24図 成田尾遺跡4 a 竪穴出土遺物実測図(1/3)	32
第25図 成田尾遺跡4 b 竪穴及び4号一括出土遺物実測図(1/3)	33
第26図 成田尾遺跡4号竪穴出土遺物実測図(2/3・1/3)	34
第27図 成田尾遺跡2号竪穴実測図(1/80)	36

第28図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(1/3)	37
第29図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(1/3)	38
第30図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(1/3)	39
第31図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(1/4)	40
第32図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(2/3・1/3)	40
第33図	成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図(1/3)	41
第34図	成田尾遺跡 5号豎穴実測図(1/80)	42
第35図	成田尾遺跡 6号豎穴実測図(1/80)	43
第36図	成田尾遺跡 6号豎穴出土遺物実測図(1/3)	44
第37図	成田尾遺跡 6号豎穴出土遺物実測図(1/3)	45
第38図	成田尾遺跡 6号豎穴出土遺物実測図(2/3・1/3)	46
第39図	成田尾遺跡 1号小児土器棺墓実測図(1/20)	47
第40図	成田尾遺跡 1号小児土器棺墓土器棺実測図(1/3)	48
第41図	成田尾遺跡 2号小児土器棺墓実測図(1/20)	49
第42図	成田尾遺跡 2号小児土器棺墓土器棺実測図(1/3)	50
第43図	成田尾遺跡 2号小児土器棺墓土器棺実測図(1/3)	51
第44図	成田尾遺跡 4号小児土器棺墓実測図(1/20)	52
第45図	成田尾遺跡 4号小児土器棺墓土器棺実測図(1/3)	52
第46図	成田尾遺跡 1号土坑実測図(1/30)	53
第47図	成田尾遺跡 1号土坑出土遺物実測図(1/3)	54
第48図	成田尾遺跡 1号土坑出土遺物実測図(1/3)	55
第49図	成田尾遺跡 5号土坑実測図(1/30)	56
第50図	成田尾遺跡 5号土坑出土遺物実測図(1/3)	57
第51図	成田尾遺跡 5号土坑出土遺物実測図(1/3)	58
第52図	成田尾遺跡 6号土坑実測図(1/30)	59
第53図	成田尾遺跡 6号土坑出土遺物実測図(1/3)	59
第54図	成田尾遺跡 8号土坑出土遺物実測図(1/3)	59
第55図	成田尾遺跡 9号土坑実測図(1/30)	60
第56図	成田尾遺跡10号土坑実測図(1/30)	61
第57図	成田尾遺跡11号土坑実測図(1/30)	61
第58図	成田尾遺跡12号土坑実測図(1/30)	62
第59図	成田尾遺跡12号土坑出土遺物実測図(2/3)	62
第60図	成田尾遺跡13号土坑実測図(1/30)	63

第61図	成田尾遺跡13号土坑出土遺物実測図(1/3)	63
第62図	成田尾遺跡15号土坑実測図(1/30)	64
第63図	成田尾遺跡16号土坑実測図(1/30)	64
第64図	成田尾遺跡16号土坑出土遺物実測図(2/3)	65
第65図	成田尾遺跡17 a、17 b、17 c号土坑実測図(1/30)	66
第66図	成田尾遺跡17 a、17 b号土坑出土遺物実測図(1/3)	67
第67図	成田尾遺跡17 a、17 b号土坑出土遺物実測図(1/3)	68
第68図	成田尾遺跡19号土坑実測図(1/30)	69
第69図	成田尾遺跡19号土坑出土遺物実測図(1/3)	70
第70図	成田尾遺跡19号土坑出土遺物実測図(1/3)	71
第71図	成田尾遺跡28号、36号土坑実測図(1/30)	72
第72図	成田尾遺跡36号土坑出土遺物実測図(2/3)	72
第73図	成田尾遺跡28号土坑出土遺物実測図(1/3)	73
第74図	成田尾遺跡29号土坑実測図(1/30)	74
第75図	成田尾遺跡29号土坑出土遺物実測図(1/3)	74
第76図	成田尾遺跡30号土坑実測図(1/30)	75
第77図	成田尾遺跡30号土坑出土遺物実測図(1/3)	75
第78図	成田尾遺跡33号土坑出土遺物実測図(2/3)	76
第79図	成田尾遺跡34号土坑実測図(1/30)	76
第80図	成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図(1/3)	77
第81図	成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図(1/3)	78
第82図	成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図(1/3)	79
第83図	成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図(1/3)	80
第84図	成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図(1/3)	81
第85図	成田尾遺跡Pit内遺物出土位置図(1/500)	83・84
第86図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	85
第87図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	86
第88図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	87
第89図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	88
第90図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	89
第91図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	90
第92図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	91
第93図	成田尾遺跡Pit内出土遺物実測図(1/3)	92

第94図	成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図(1/3・2/3)	93
第95図	成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図(1/3)	94
第96図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	97
第97図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	98
第98図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	99
第99図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	100
第100図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	101
第101図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	102
第102図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	103
第103図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	104
第104図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	105
第105図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	106
第106図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	107
第107図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	108
第108図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(2/3)	109
第109図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(2/3)	110
第110図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(2/3)	111
第111図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	112
第112図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	113
第113図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	114
第114図	成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(1/3)	115

図版目次

図版 1	成田尾遺跡発掘風景(西側より)……………	118
図版 2	成田尾遺跡発掘状態(東側より)……………	118
図版 3	成田尾遺跡遺物出土状態……………	119
図版 4	成田尾遺跡遺物出土状態……………	119
図版 5	成田尾遺跡遺物出土状態……………	120
図版 6	成田尾遺跡遺物出土状態……………	120
図版 7	成田尾遺跡 1号竪穴(東側より)……………	121
図版 8	成田尾遺跡 1号竪穴(東側より)……………	121
図版 9	成田尾遺跡 2号竪穴(北側より)……………	122
図版10	成田尾遺跡 2号竪穴(南側より)……………	122
図版11	成田尾遺跡 5号竪穴発掘状態(東側より)……………	123
図版12	成田尾遺跡 5号竪穴発掘状態(西側より)……………	123
図版13	成田尾遺跡 6号竪穴(北側より)……………	124
図版14	成田尾遺跡 1号小児土器棺墓(北側より)……………	124
図版15	成田尾遺跡 1号小児土器棺墓(北側より)……………	125
図版16	成田尾遺跡 2号小児土器棺墓(南側より)……………	125
図版17	成田尾遺跡 4号小児土器棺墓(南側より)……………	126
図版18	成田尾遺跡 1号土坑(東側より)……………	126
図版19	成田尾遺跡 5号土坑(東側より)……………	127
図版20	成田尾遺跡 5号土坑(東側より)……………	127
図版21	成田尾遺跡 6号土坑(南側より)……………	128
図版22	成田尾遺跡 9号土坑(東側より)……………	128
図版23	成田尾遺跡11号土坑(南側より)……………	129
図版24	成田尾遺跡12号土坑(南側より)……………	129
図版25	成田尾遺跡13号土坑(北側より)……………	130
図版26	成田尾遺跡15号土坑(南側より)……………	130
図版27	成田尾遺跡17号土坑(北側より)……………	131
図版28	成田尾遺跡17 a号土坑(北側より)……………	131
図版29	成田尾17 b、17 c号土坑(北側より)……………	132
図版30	成田尾遺跡19号土坑(北側より)……………	132
図版31	成田尾遺跡28号土坑(南側より)……………	133

図版32	成田尾遺跡29号土坑(南側より)……………	133
図版33	成田尾遺跡30号土坑(南側より)……………	134
図版34	成田尾遺跡34号土坑(南側より)……………	134
図版35	成田尾遺跡1号竪穴出土遺物……………	135
図版36	成田尾遺跡1号竪穴出土遺物……………	136
図版37	成田尾遺跡1号竪穴出土遺物……………	137
図版38	成田尾遺跡1号竪穴出土遺物……………	138
図版39	成田尾遺跡2号竪穴出土遺物……………	139
図版40	成田尾遺跡2号竪穴出土遺物……………	140
図版41	成田尾遺跡4号竪穴出土遺物……………	141
図版42	成田尾遺跡4号竪穴出土遺物……………	142
図版43	成田尾遺跡4号竪穴出土遺物……………	143
図版44	成田尾遺跡4号竪穴出土遺物……………	144
図版45	成田尾遺跡4号竪穴出土遺物……………	145
図版46	成田尾遺跡6号竪穴出土遺物……………	146
図版47	成田尾遺跡1号小児土器棺墓土器棺……………	147
図版48	成田尾遺跡2号小児土器棺墓土器棺……………	148
図版49	成田尾遺跡4号小児土器棺墓土器棺(1)、1号土坑(3.5)出土遺物……………	149
図版50	成田尾遺跡5号土坑出土遺物……………	150
図版51	成田尾遺跡8号土坑(左上1)、13号土坑(右上1)、17号土坑(1~3.5.6)出土遺物……………	151
図版52	成田尾遺跡19号土坑出土遺物……………	152
図版53	成田尾遺跡28号土坑(1~4.6)、29号土坑(左下1)、30号土坑(右下1)出土遺物……………	153
図版54	成田尾遺跡34号土坑出土遺物……………	154
図版55	成田尾遺跡34号土坑出土遺物……………	155
図版56	成田尾遺跡34号土坑出土遺物……………	156
図版57	成田尾遺跡34号土坑出土遺物……………	157
図版58	成田尾遺跡Pit内出土遺物……………	158
図版59	成田尾遺跡Pit内出土遺物……………	159
図版60	成田尾遺跡Pit内出土遺物……………	160
図版61	成田尾遺跡Pit内出土遺物……………	161
図版62	成田尾遺跡包含層出土遺物……………	162
図版63	成田尾遺跡包含層出土遺物……………	163
図版64	成田尾遺跡包含層出土遺物……………	164



空中写真（○が日出町成田尾遺跡）

第 I 章 調査経過と調査団の構成

1、調査経過

大分空港道路は国東半島の南端基部の日出町大字大神字会下から、安岐町の大分空港までの204kmの区間であり、平成3年11月にすでに開通している。大分県教育委員会では道路建設に先立って、昭和58年に計画区内の分布調査を行い、同62年には遺跡のありそうなNO.1地点からNO.14地点の試掘調査を実施し、当該地に6箇所遺跡を確認している。

日出町の成田尾遺跡はNO.3地点に相当し、昭和63年度から平成元年度にかけて、道路造成幅約60m、長さ約150m、約9000㎡の発掘調査が実施されている。

その結果、成田尾遺跡は弥生時代中期の土器、石器を主体とした遺跡であり、少なくとも6基以上の円形竪穴住居跡と多数の土坑群からなる集落跡であることが判明している。なかでも、竪穴住居跡に隣接して配置されている小児棺墓等は、当時の墓制や送葬儀礼を考えるうえで興味深い。

2、調査団の構成

成田尾遺跡における、昭和63年度、平成元年度の調査団の構成は次のとおりである。

調査主体 大分県教育委員会

調査指導 賀川光夫(別府大学教授・大分県文化財保護審議会委員)

下條信行(愛媛大学教授)

調査員 清水宗昭(大分県教育庁文化課文化財調査第一係長・現主幹兼文化財調査第一係長)

栗田勝弘(大分県教育庁文化課主任・現主査)

丸山啓子(大分県教育庁文化課・現安岐町教育委員会)

平川信哉(大分県教育庁文化課・現杵築市教育委員会)

猪 薫(大分県教育庁文化課・現三光中学校)

調査事務 今永一成(大分県教育庁文化課庶務係長・現中津教育事務所課長)

西 哲弘(大分県教育庁文化課主任・現主査)

調査補助員 新宅信久(別府大学卒業生・現福岡県糟屋町教育委員会)、七森寛子、中須賀真美、

相原洋子(別府大学学生)

調査作業員 諸富安子、荒巻富子、長谷川純子、諸富ミツ、阿部トヨ、木戸由美子、笠置一枝、

笠置エツ子、笠置トヨ子、藤本孝子、森本薫、畔上清子、阿南アヤ子、山本久子、

河野一子、八坂久子、八坂マル子、藤田厚子、中野カズコ、中村夫美子、川野ヤ

スエ、岩崎シゲ子、北村千代子、長野キミ子、長野キクエ、青柳カズコ、野上富

士美、小田盛栄、芝尾シゲ子、芝尾マツエ、赤尾マスヨ、阿部恵美子、長谷川太

郎、伊藤俊一郎

調査整理作業員 坂本 洋子

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

成田尾遺跡は日出町大字藤原字成田尾に位置する弥生中期を主体とする竪穴住居跡群、土坑群、小児墓群からなる集落跡である。

日出町は国東半島南端の付け根部に相当し、学史的には古くから、早水台遺跡や大津遺跡等の著名な遺跡が数多く遺存している。成田尾遺跡は、標高43m～52mの小高い緩丘陵の南斜面部に位置する。遺構内から出土した遺物は、弥生前期末～中期後葉までの時期が考えられるが、下城式土器の甕と重弧文の壺形土器のセット、下城式土器の甕と鋤先状口縁を持つ壺形土器とのセットは注目できる。また、姫島産黒曜石製の石鏃等は数量とも豊富であり、当該期の石器文化を特徴づけている。

日出町内に遺存する著名な遺跡を時代別に瞥見してみる。成田尾遺跡の南方3.5kmには眼下に別府湾を望む早水台遺跡（第1図32）がある。ローム層下の石英脈岩、石英粗面岩を素材とした石器群が前期旧石器とされ、学史的に顕名な前期旧石器論争の舞台となった。また、早水台遺跡は縄文早期の尖底押型文土器を大量出土した大規模な遺跡でもあり、早水台式土器の標式遺跡として、学史的にも著名である。

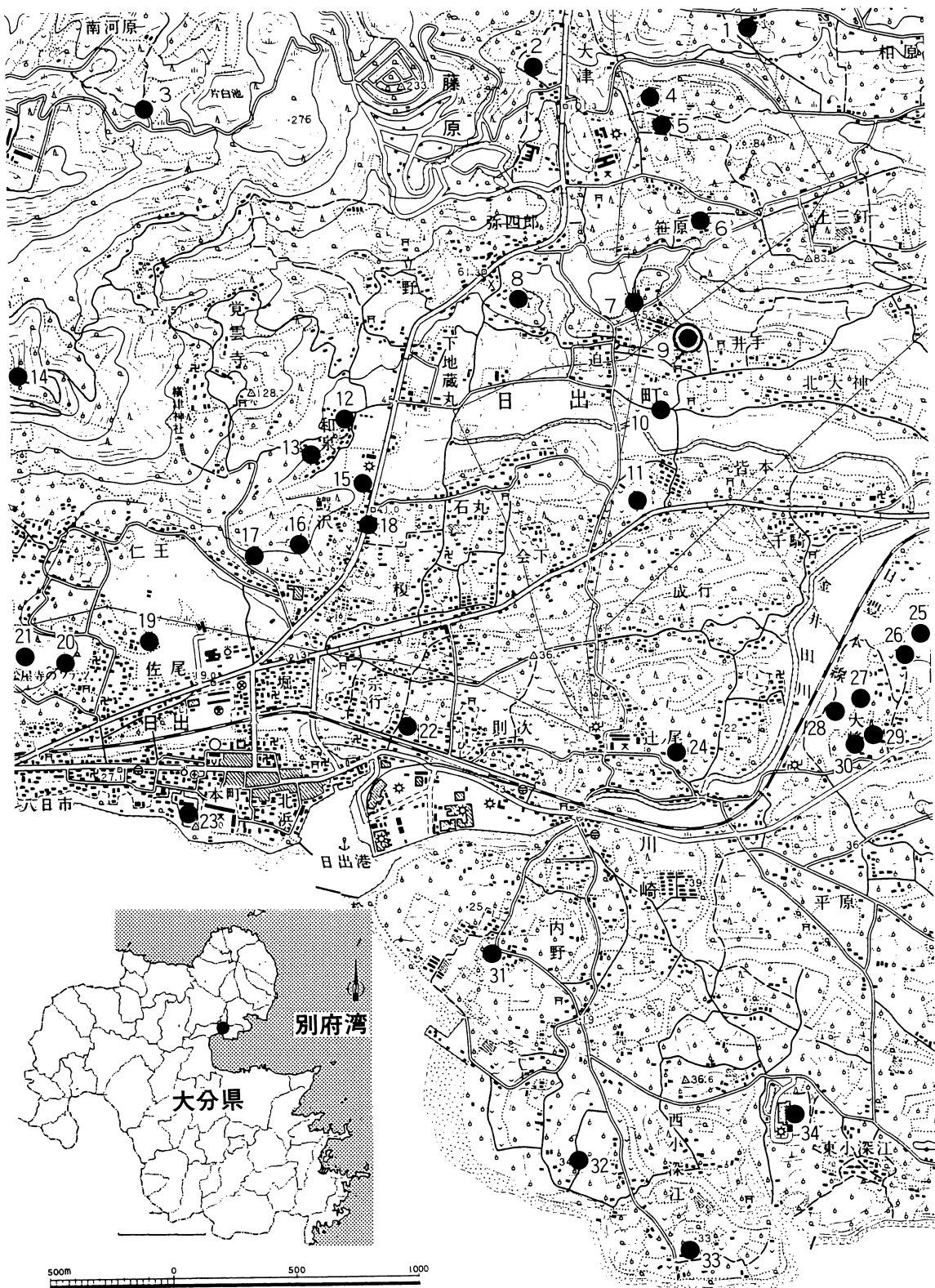
縄文後期では磨消縄文土器を出土する橋詰遺跡（第1図22）が調査されているが詳細は明らかではない。

一方、弥生時代では成田尾遺跡の北方、約1kmに大津下野遺跡（第1図5）がある。弥生前期末～後期初頭の土器群を主体とし、かつて大津式土器として位置付けられている。大津下野の支石墓からは二本の中広銅戈が発見されている。

また、成田尾遺跡の東約2.5kmの真那井中原では弥生中期の甕や壺、土製勾玉等が出土しており、近くからは組合式石棺等も発見されている。一方、真那井浮島神社には7本の広形銅鉾が所蔵されていたという。これ等は伝尾首山出土と伝えられる。

古墳時代の遺跡としては成田尾遺跡の南約200mの空港道路の延長線上で今村遺跡（第1図10）が調査されている。墳墓としては成田尾遺跡の南西2kmに、直弧文を施す鹿角製刀装具を出土した鰐沢古墳群（第1図15～17）がある。また、成田尾遺跡の西約700mには横穴式石室の穴観音古墳があり、南東約2kmには伊勢森古墳群（第1図25～30）が群集している。

日出町大字豊岡には全長約172m前後の亀峰山があり、遺物が発見されているといわれているが、亀峰山の調査も実測図もない状態であり、古墳かどうかの認定も含めて難しく見解の分かれるところである。



第1図 成田尾遺跡と周辺の主要遺跡位置図 (国土地理院の1/25,000の地形図による)

- | | | | | |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 1 相原遺跡(弥生) | 8 穴観音古墳(古墳) | 15 鰐沢古墳2号(古墳) | 22 橋詰遺跡(縄文) | 29 伊勢森1号墳(古墳) |
| 2 鹿趾遺跡(歴史) | 9 成田尾遺跡(弥生) | 16 鰐沢古墳1号(古墳) | 23 賜谷城跡(歴史) | 30 伊勢森4号墳(古墳) |
| 3 天提遺跡(旧石器) | 10 今村遺跡(弥生) | 17 鰐沢古墳3号(古墳) | 24 青津遺跡(弥生) | 31 内野遺跡(縄文) |
| 4 上荒平遺跡(縄文) | 11 会下遺跡(歴史) | 18 カネトイ遺跡(弥生) | 25 伊勢森6号墳(古墳) | 32 早水台遺跡A(縄文) |
| 5 大津下野遺跡(弥生) | 12 和泉遺跡II(歴史) | 19 赤山遺跡(弥生) | 26 伊勢森5号墳(古墳) | 33 早水台遺跡B(縄文) |
| 6 笹原遺跡(弥生) | 13 和泉遺跡I(歴史) | 20 狐塚遺跡(弥生) | 27 伊勢森3号墳(古墳) | 34 高尾山遺跡(旧石器) |
| 7 迫遺跡(弥生) | 14 真獄城跡(歴史) | 21 狐塚古墳(古墳) | 28 伊勢森2号墳(古墳) | |

第Ⅲ章 調査の概要

成田尾遺跡は日出町大字藤原字成田尾に位置し、弥生時代の中期を主体とした円形竪穴住居跡群と土坑群からなる集落跡である。

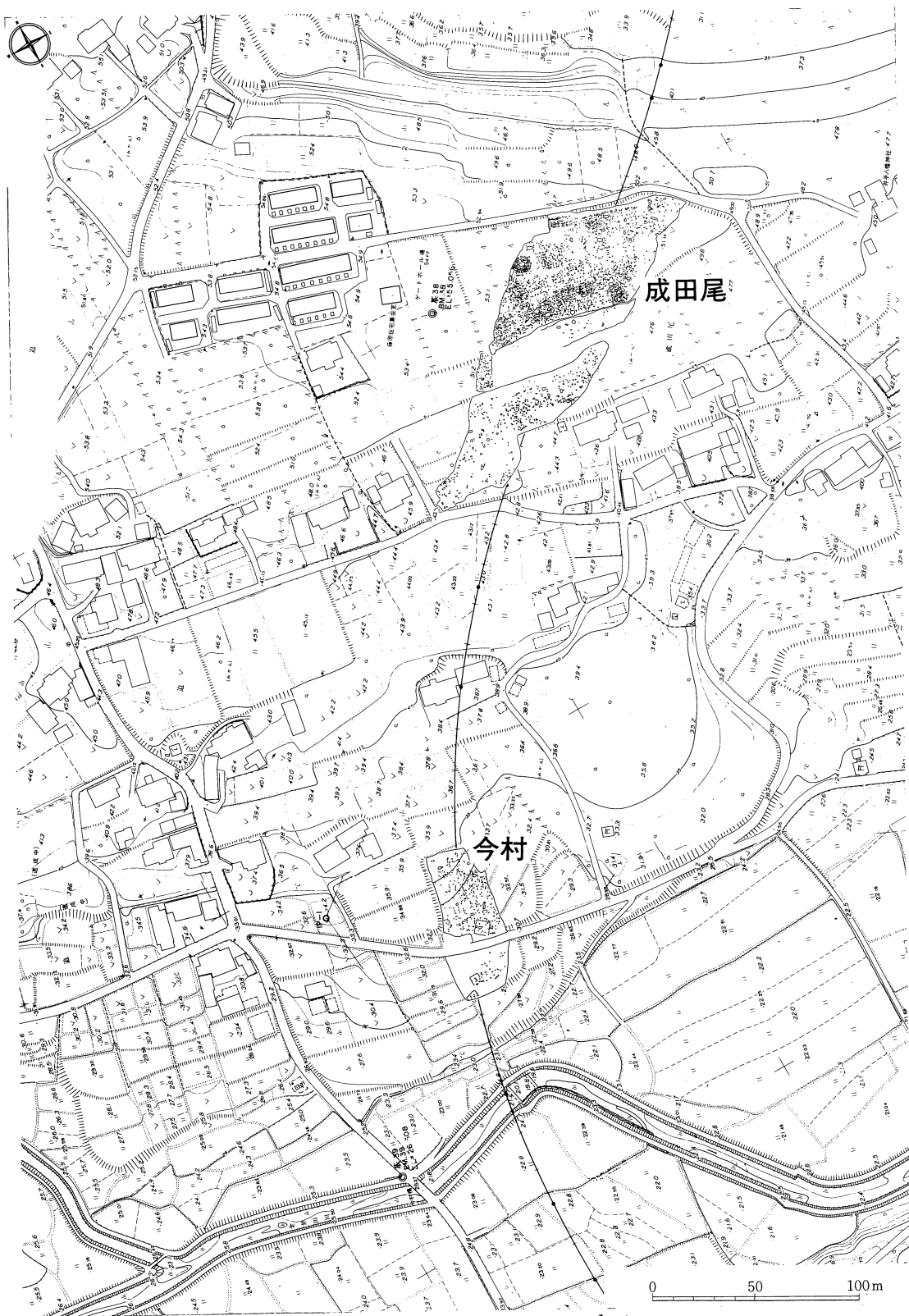
遺跡は西・東に長い緩丘陵の東端近くに位置し、道路幅に応じた調査区は、幅平均50m、長さ約150mで面積は約7500m²の範囲である。調査区は南面する緩丘であり、標高は低い所で約43m、高所で約52mである。調査区は後世の段々畑の造成で、北側より上段（3500m²）、中段（1500m²）、下段（2500m²）と仮称して区分できる。調査区の中央部の中段は、大きく削平を受けており、遺構、遺物等は皆無に近い状態であった。

遺構が検出された上段は、検出層より上部に僅か30～40cmの耕作土を残すのみであり、遺物包含層等は標高の低い南端縁辺部で僅かに存在するのみである。上段で検出された遺構は、弥生中期の円形竪穴が5基と多数の土坑及び柱穴群であった。円形竪穴は5基とも竪穴平面の輪郭は不明瞭であり、円形に施された柱穴群や中央部の炉跡等で竪穴の位置が想定できるのみである。柱穴群は集中する分布状態等から、少なくとも約10個所以上に円形竪穴の残影を考えることができる。

一方、柱穴群の疎らな場所には円形や楕円状を呈する土坑が多数残存している。中でも、1号土坑、5号土坑は、土坑の外縁付近の四隅に柱穴を施す形態であり注目できる。

また、墓壙としては、土器片を棺や覆いとした小児用の擬似カメ棺が3基検出されている。他の竪穴の時期とあまり時間差がないことから、竪穴住居の周辺部の集落内に埋葬された可能性は高い。

下段は調査区東端で僅かに1基の円形竪穴の一部を検出している。周辺に遺存する柱穴群から、かつて竪穴住居が存在したことは容易に推測できるが、支柱穴等を比定することは至難である。



第2図 成田尾遺跡と周辺地形図 (1/3000)

第Ⅳ章 検出遺構と遺物

成田尾遺跡は弥生中期を主体とする集落跡であり、検出された遺構としては、5基の円形竪穴と3基の疑似カメ棺、36基の土坑と多数の柱穴群よりなる。柱穴群は集中的に分布する所があり、5基の竪穴の他にも、10箇所以上に竪穴の残影が推察できそうである。

1号、4号竪穴（第4、5図）

調査区の中央部寄りに位置する竪穴である。竪穴は調査区上段の南縁辺部に所在し、竪穴の南側大半は削平を受けており、そのプランの規模や支柱穴の明瞭な配置等は判別するのに至難である。

1号竪穴は北側に一部残存する弧状のプランから直径を復元すると、約7mの円形竪穴と成る。中央部には長径104cm、短径72cmで深さ24cmの楕円状の炉跡を伴う。支柱穴は円形プランより約1.5m内側に7本円形に配置されている。柱穴間の距離は約1.5m前後である。竪穴の北壁には二段の方形張り出し部が遺存しているが、竪穴に伴うものかどうかは判然としない。張り出し部の上段は長軸270cm、短軸140cmの長方形を呈し、壁に沿って一部溝状遺構が確認されている。下段は長軸110cm、短軸60cmの長方形を呈し、2本の小柱穴の間に焼土が遺存していた。

4号竪穴はプランの残りが悪く、復元できないが、中央部には長径120cm、短径64cm、深さ約20cmで、長軸上の両隅に2本の小柱穴を持つ土坑が遺存し、炉跡と推察された。中央炉跡より約2m外側には、円形に8本の柱穴が配置されている様子である。

1号竪穴出土遺物（第6～16図）

土器

1～8は壺形土器である。1～4は胴部に重弧文を施す一群である。1は口径15.9cmを測り、口唇部には貝殻文状の刻目を施す。頸部から胴部上部には、5本と4本の沈線間に太い刻目を充填する。胴部中央は縦線8本を中心にして、4本の弧線が左右対称的に描かれている。胴部下半の2条横線は文様区画の範囲を示す。いずれも2本単位を基調とした半截竹管状工具を用いている。2～4も同様の文様モチーフで装飾された一群である。5、6は頸部に突帯を施し、器表は撫で調整された一群である。共に口径21cmを測る。6は数少ない考古学的完形品である。器高35.4cmで底径7.8cmを測る。径部に古式な特徴を持ち、刻目突帯文と刻目文を併用する。胴部は球形で最大径は中央部である。7、8も同様な形態であるが、8は2条突帯が残存している。

9～17は刻目突帯文を施す甕形土器であり、いわゆる下城式土器と呼ばれる一群である。いずれも縦走刷毛目を残し、11、12は口唇部にも刻目を施す。10は数少ない考古学的完形品である。口径26.7cm、器高30.3cm、底径7.2cmを測り、体部は斜め直線的に開く。

18～22は口縁部を「く」の字に外反される一群である。18～19は口縁部がやや肥厚し、口唇



- は円形竪穴住居跡 (1号、2号、4号、5号、6号)
- は円形竪穴住居跡推定地
- は小児土器棺墓 (1号、2号、4号)
- ①⑤⑥⑨⑩⑪⑫⑬⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟
- は土坑

第3図 成田尾遺跡遺構配置図 (1/500)

部は緩い凹線状に仕上げる。20の口唇は尖がり気味で、21は跳ね上げ状を呈する。

23、24は未発達な鋤先状を呈する一群である。

25は穿孔ある粘土塊を把手状に付着する。

26は長方形の透しを持つ脚部で、27、28は脚裾部である。29～31は壺形土器の底部で32～35は甕形土器の底部であろうか。

36、37は土器片の周囲を擦り円形に整形した加工品である。

石器

38～40は姫島産黒曜石製の石器である。38は三ヶ月状を呈し、用途不明。39は凸起式の石鏃、40は鏃か削器であろう。

41は立岩産の輝緑凝灰岩製の石包丁片である。

42～44は敲石類である。42は棒状の礫両端が強い衝撃によって剥離している。両極打法による。43、44は安山岩の拳大の河原礫の表裏面や側面にも打痕を残す。

1号竪穴張り出し部出土遺物

土器

45～47は刻目突帯文を施す下城式の甕形土器である。45、47は心持ち内湾気味な直行口縁を呈し、47は2条の刻目突帯を有する。48は小形甕の底部である。

石器

49は姫島産黒曜石製の石鏃である。

4号竪穴出土遺物（第17～26図）

4号竪穴は竪穴内より出土した4aの竪穴出土遺物と、竪穴周辺から出土した4b竪穴出土遺物とに便宜上分類している。

土器（4a竪穴）

1は壺形土器の口縁部である。口唇部に刻目を施し、頸部～肩部に2本単位の6本の横線が認められる。口径16.8cmを測る。

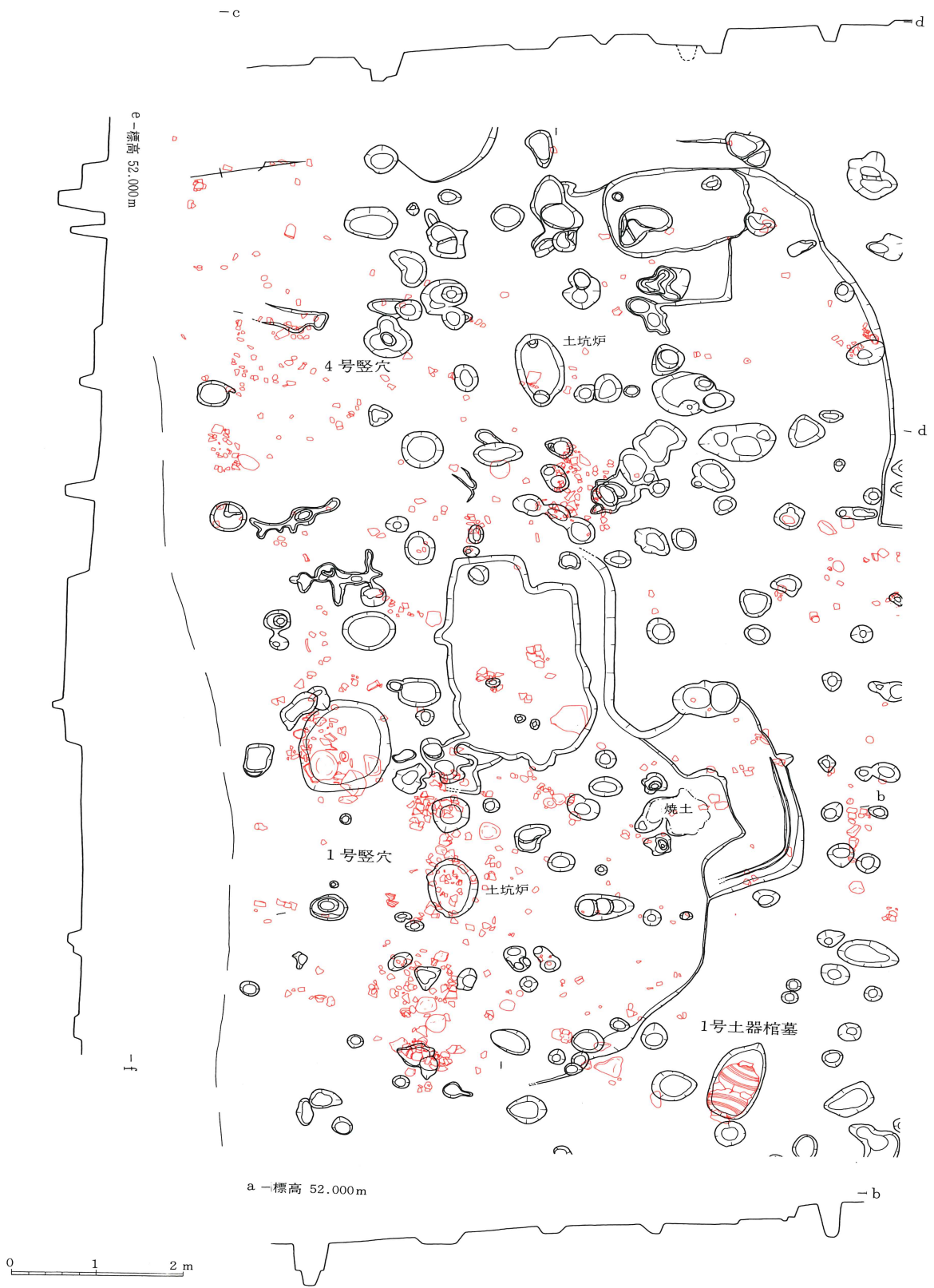
2～10は刻目突帯文を施す下城式の甕形土器である。2～4は斜行の口縁を呈するが、5、6は心持ち内傾及び直行する。6は2条の刻目突帯を施す。8は復元完形品である。口径27.6cm、器高24.6cm、底径6.6cmを測る。9、10は口唇部にも刻目を施す一群である。

11～14は口縁部が屈折し、口唇部が心持ち跳ね上げ状を呈する一群である。胴部の張りは無い。

15、16は鋤先状口縁の須玖式土器である。「M」字突帯を口縁下に一条、胴部に二条巡らせている。器表は赤色塗料が施されている。

17、18は脚部である。18は透し孔を入れている。19～22は底部片である。

23は胴部最大径約50cmを測る壺である。5条の突帯が巡る。



第4図 成田尾遺跡1号、4号竖穴実測図 (1/80)

土器 (4b 竖穴)

24は壺形土器の頸部から胴部片である。頸部外側はヘラ磨きを施す。25は口縁部が強く屈折し、頸部に二つの貼付け文を施す。胴部最大径は44.7cmを測る。

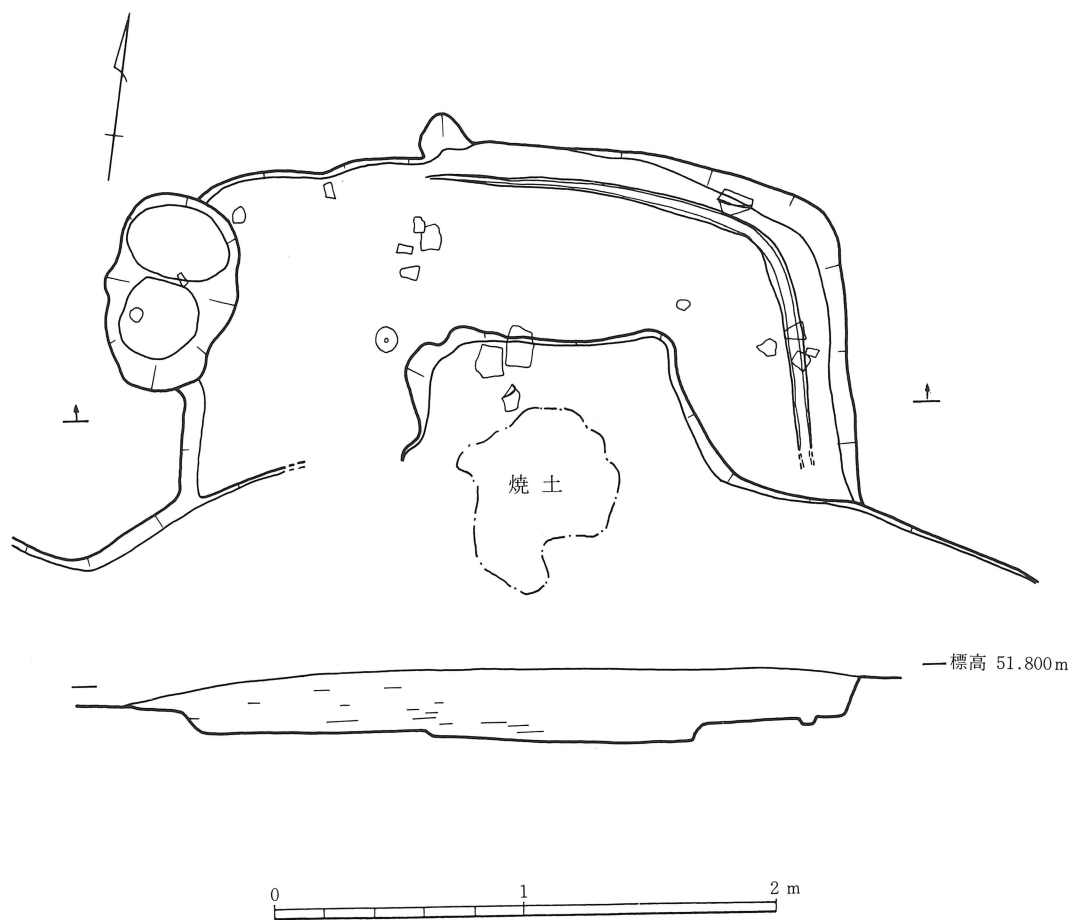
26は下城式の甕形土器である。

27、28は屈折口縁を持ち、口唇部が凹線化し跳ね上げ状を呈する。

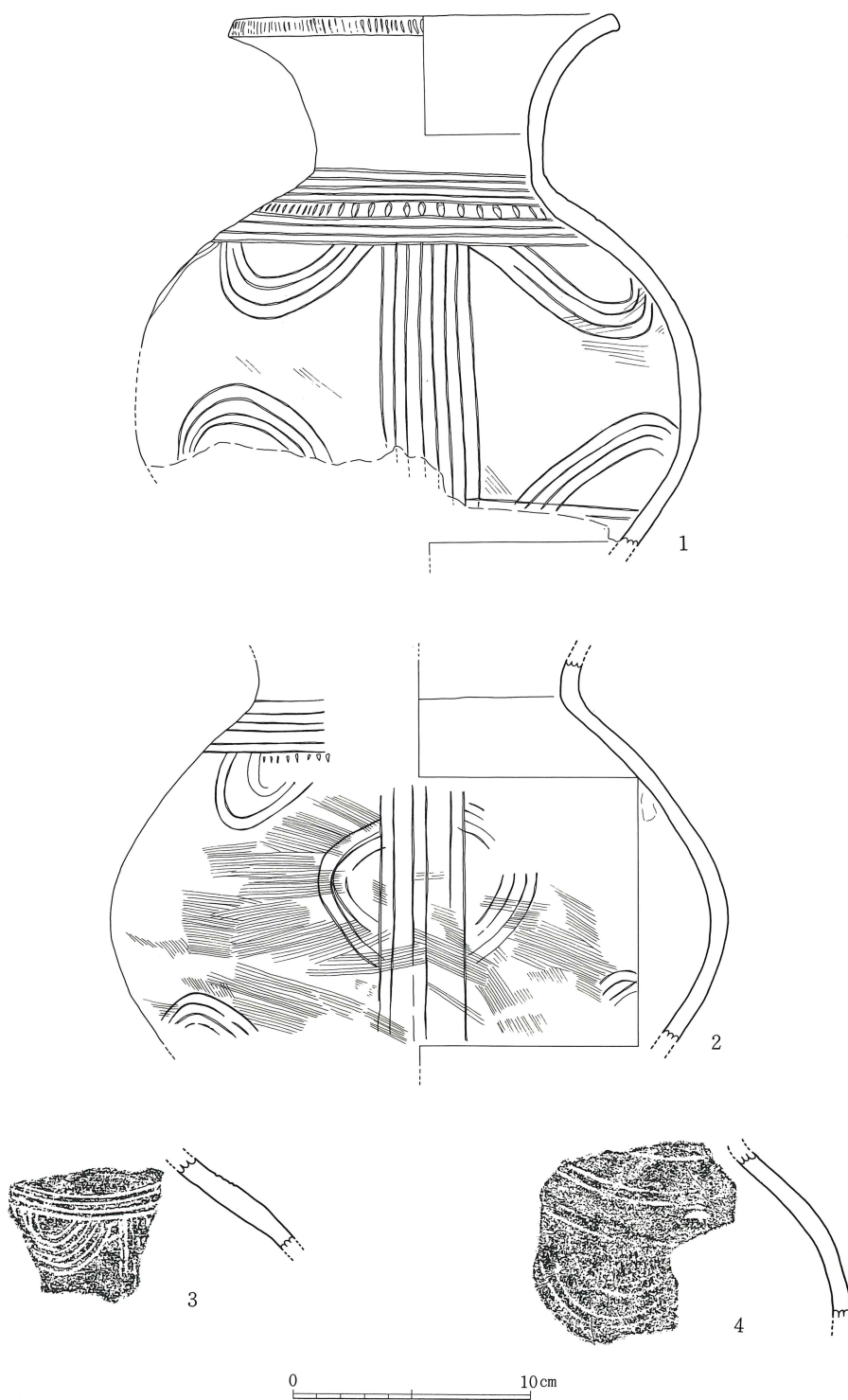
29は心持ち外反する口縁部を呈する甕形土器である。口縁外面に指頭痕を残す。

30は須玖式土器である。鋤先状部は弱い。

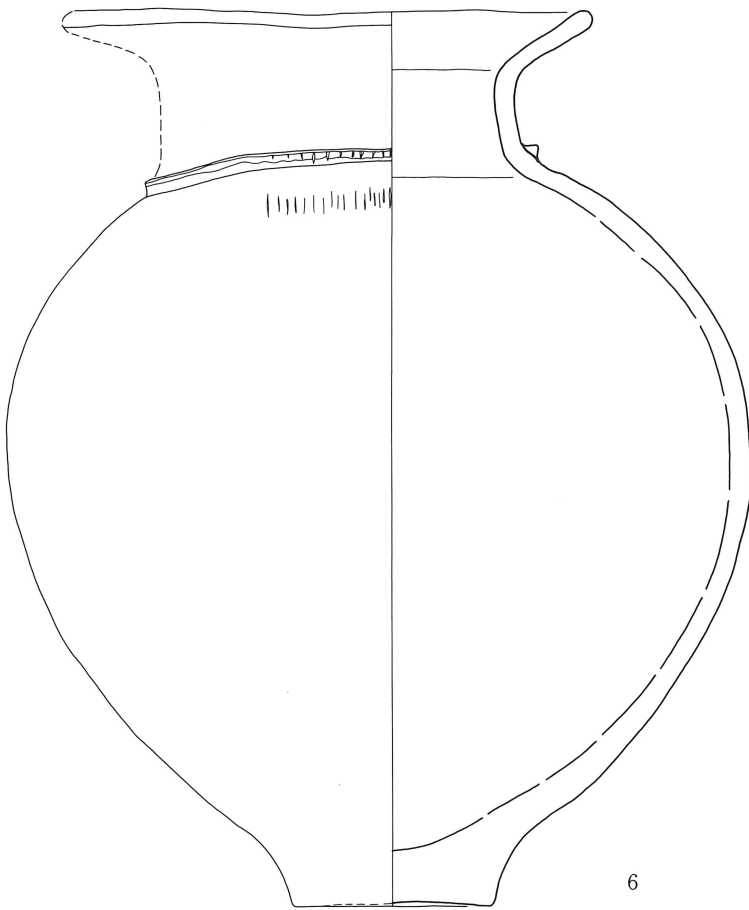
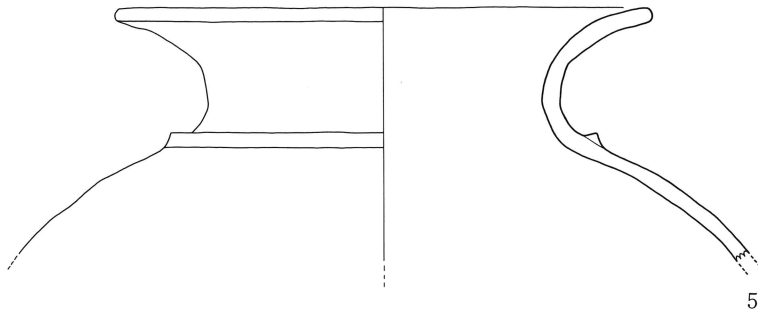
31~34は底部片である。34は壺底部であろう。



第5図 成田尾遺跡1号竖穴張り出し部(18号土坑)実測図 (1/40)

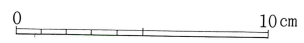
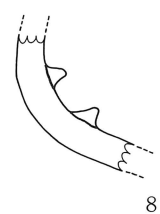
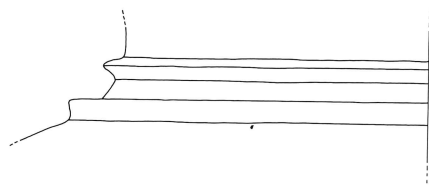
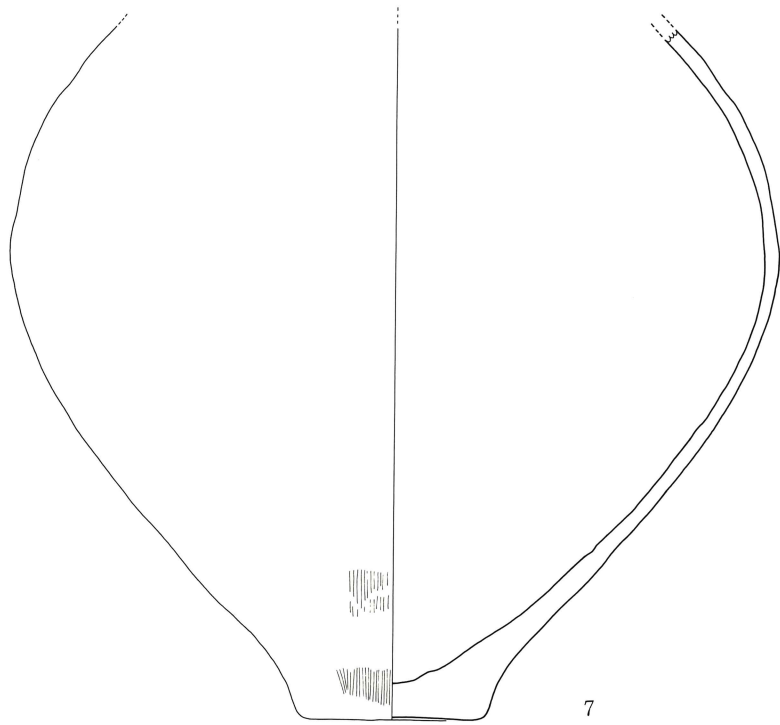


第 6 図 成田尾遺跡 1 号竪穴出土遺物実測図 (1/3)

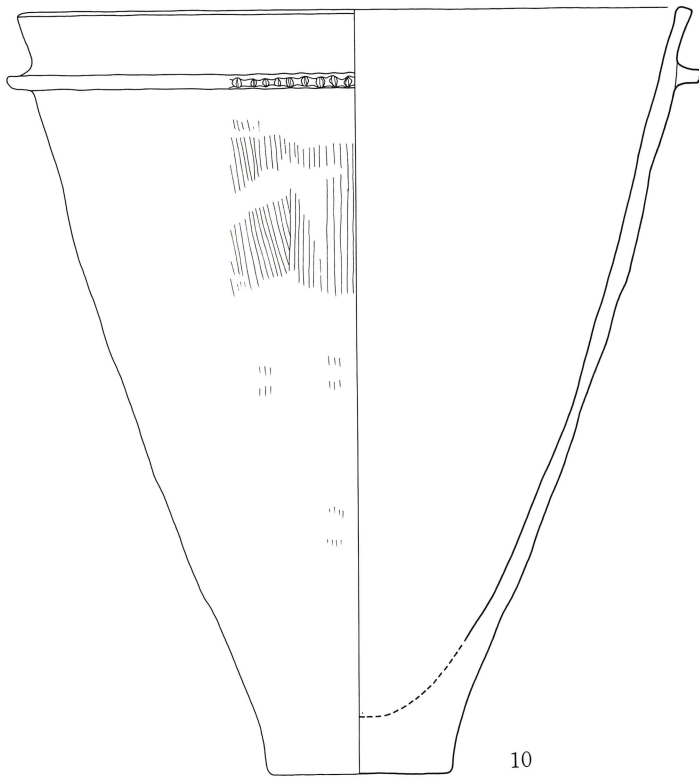
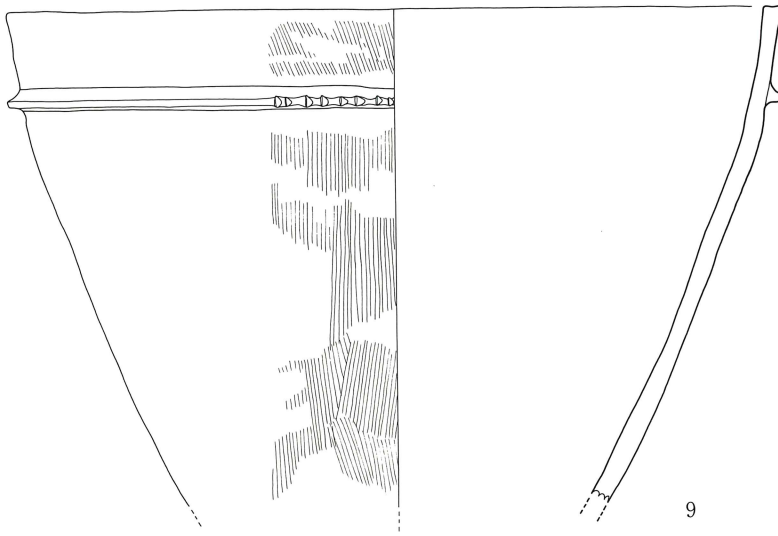


0 10 cm

第7図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)

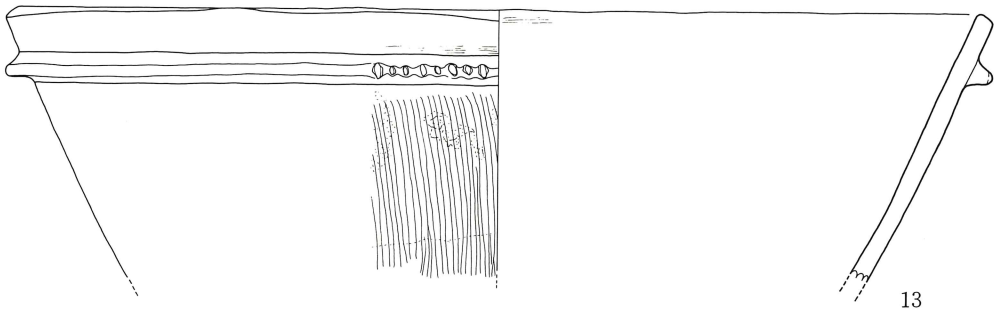
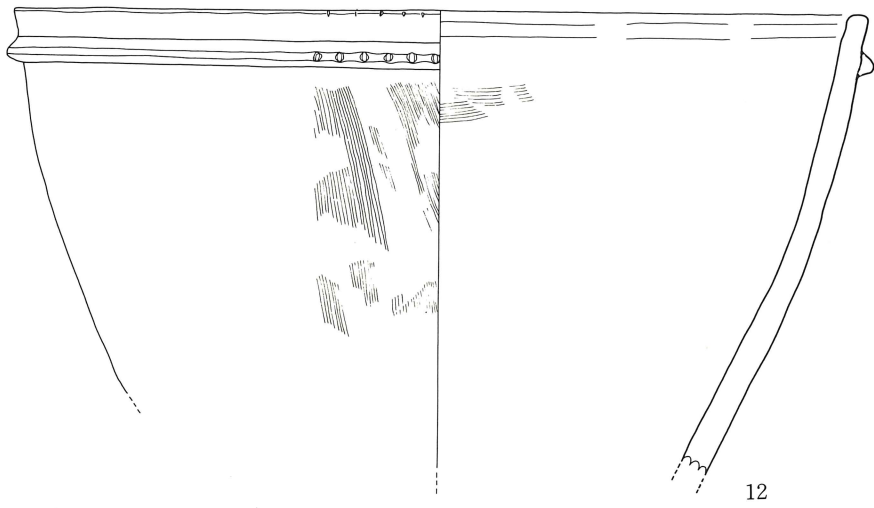
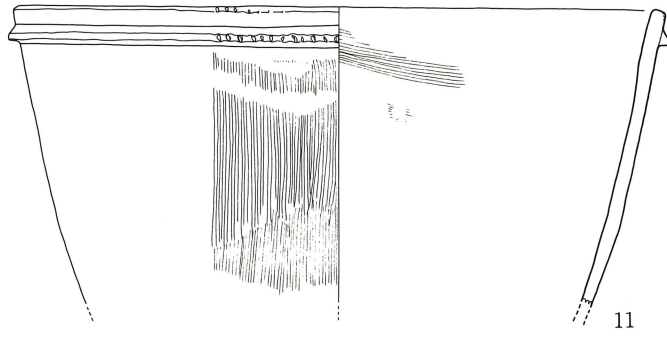


第8図 成田尾遺跡1号壻穴出土遺物実測図(1/3)

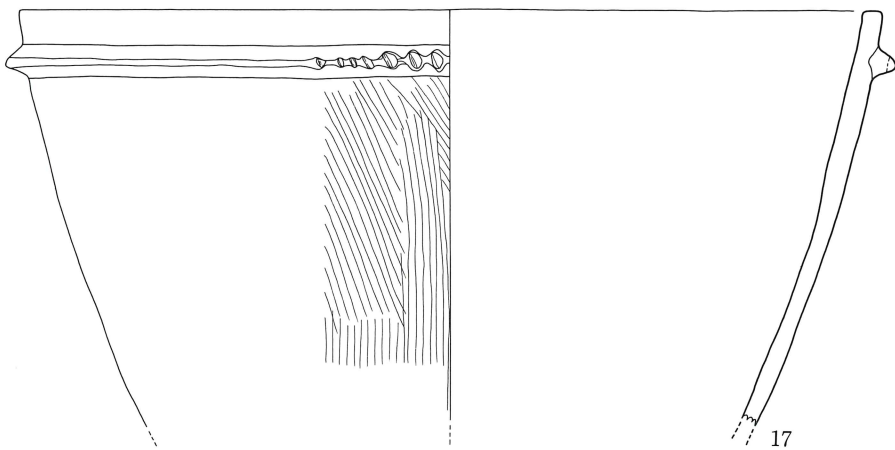
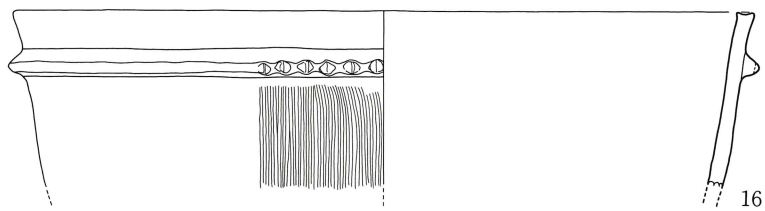
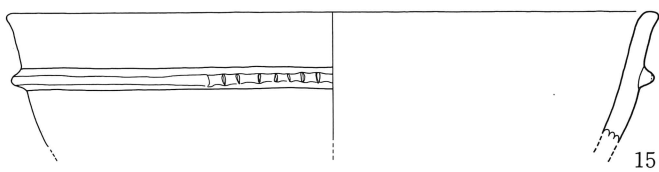
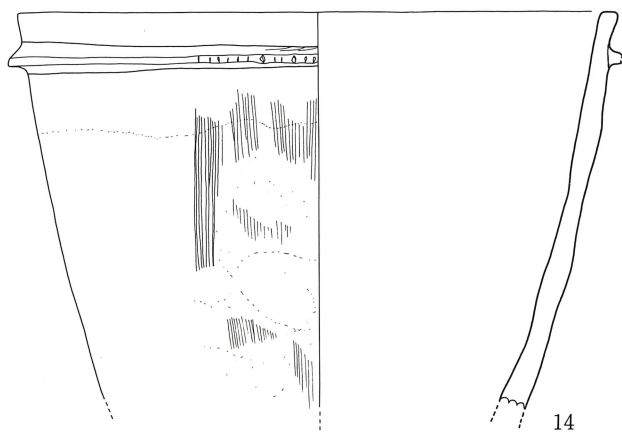


0 10cm

第9図 成田尾遺跡1号壜穴出土遺物実測図(1/3)

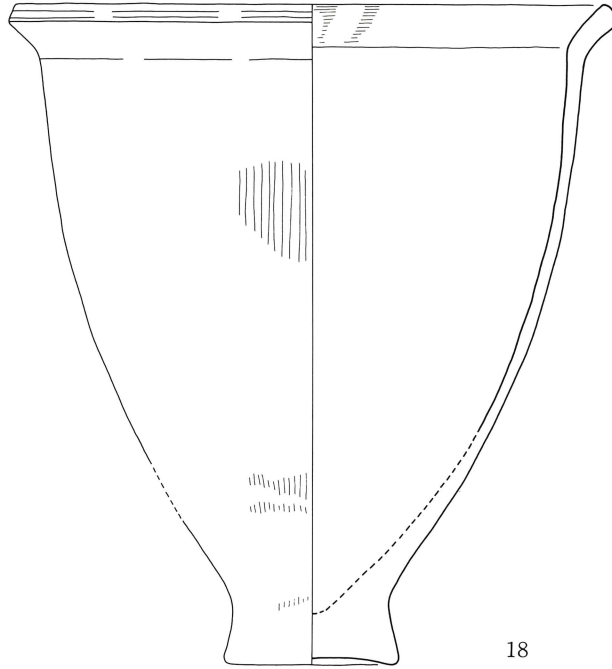


第10図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)

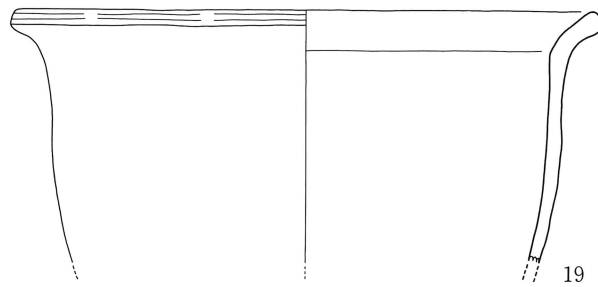


0 10cm

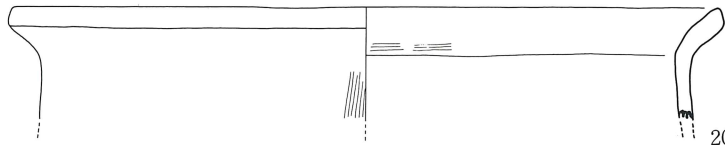
第11図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図 (1/3)



18



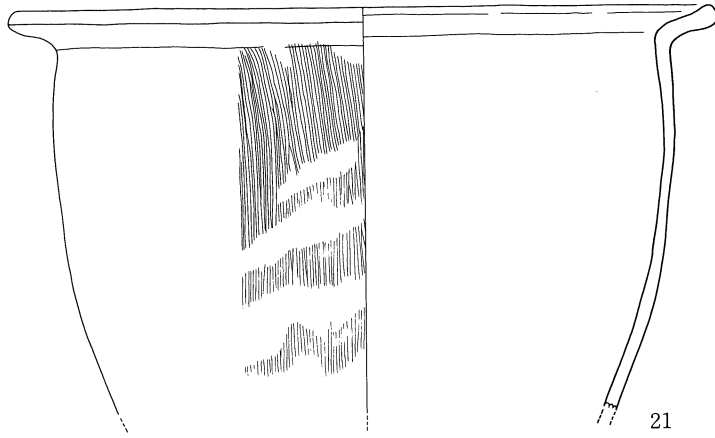
19



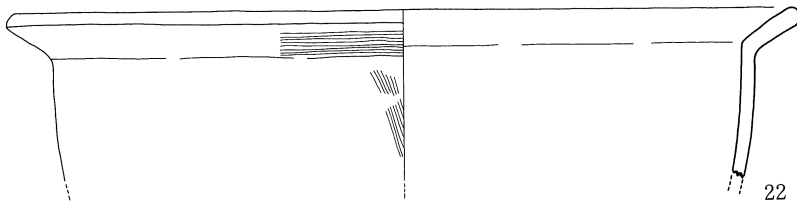
20

0 10 cm

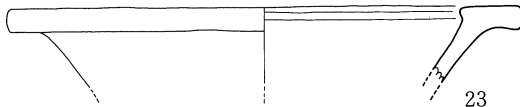
第12図 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)



21



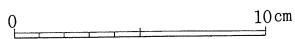
22



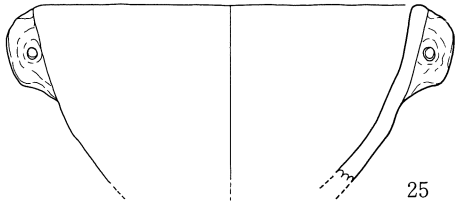
23



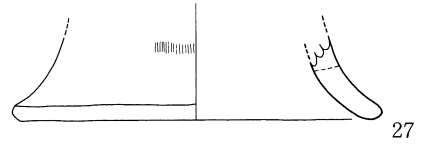
24



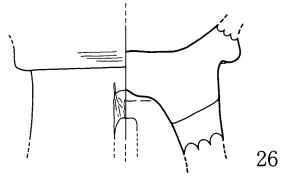
第13図 成田尾遺跡1号豎穴出土遺物実測図(1/3)



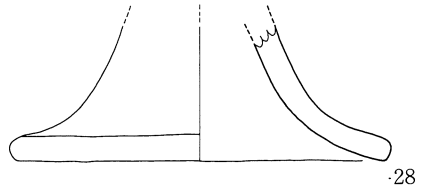
25



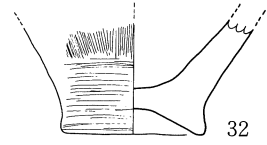
27



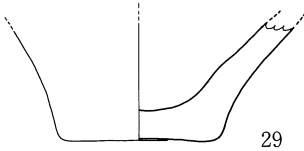
26



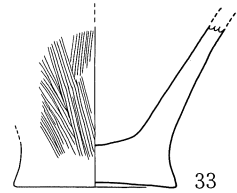
28



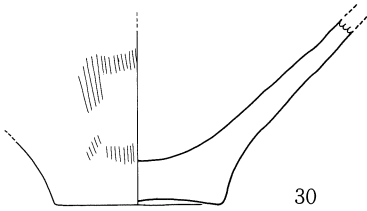
32



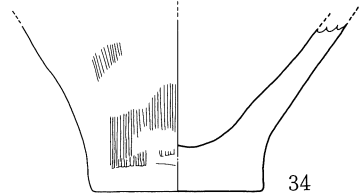
29



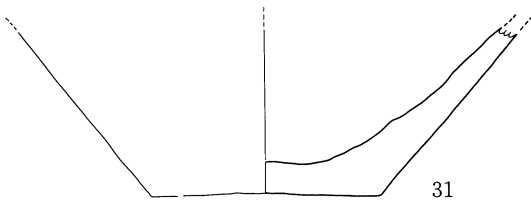
33



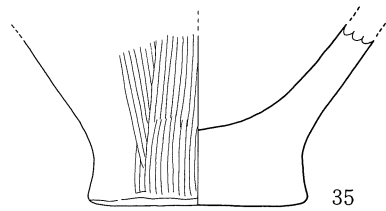
30



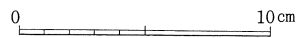
34



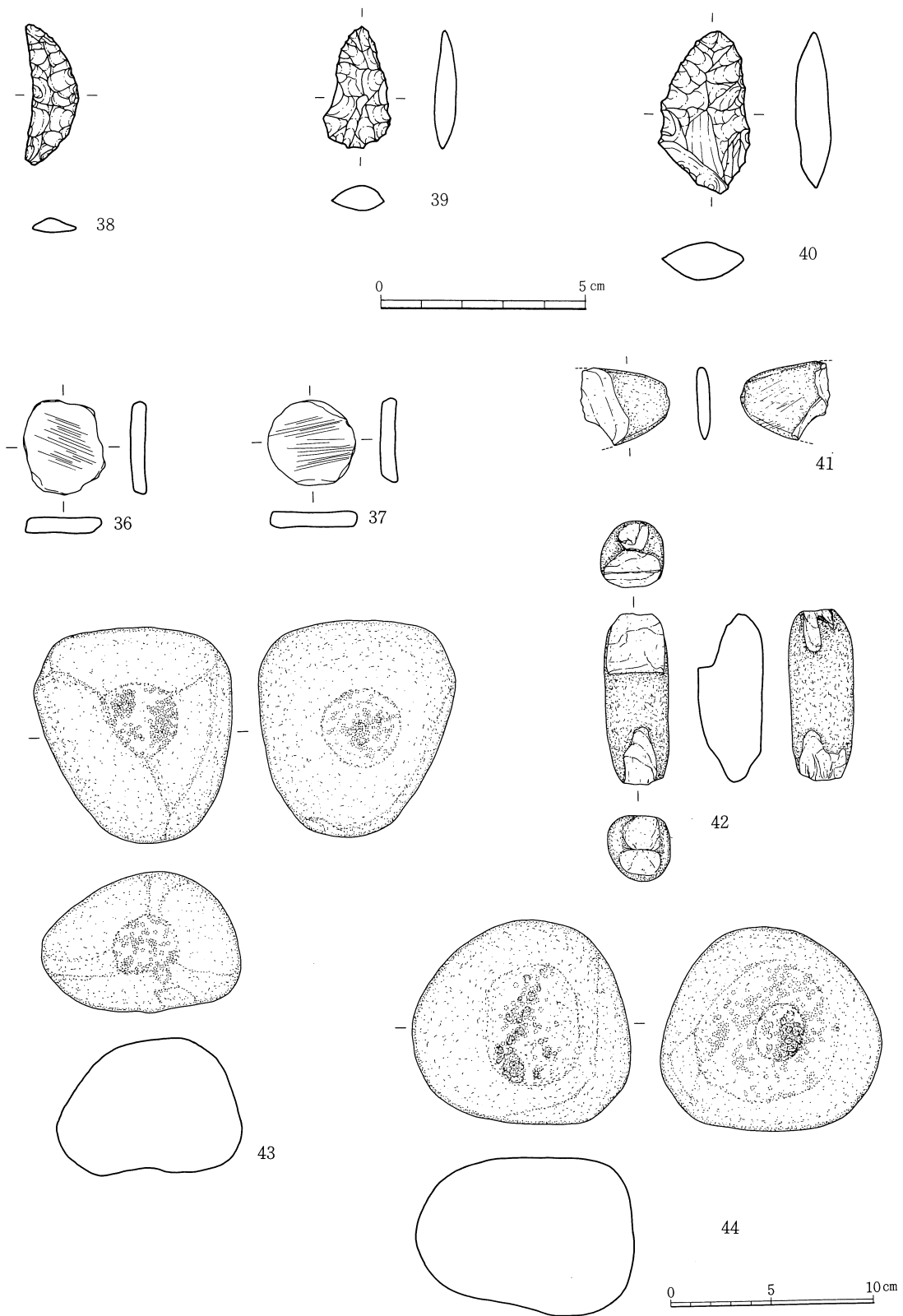
31



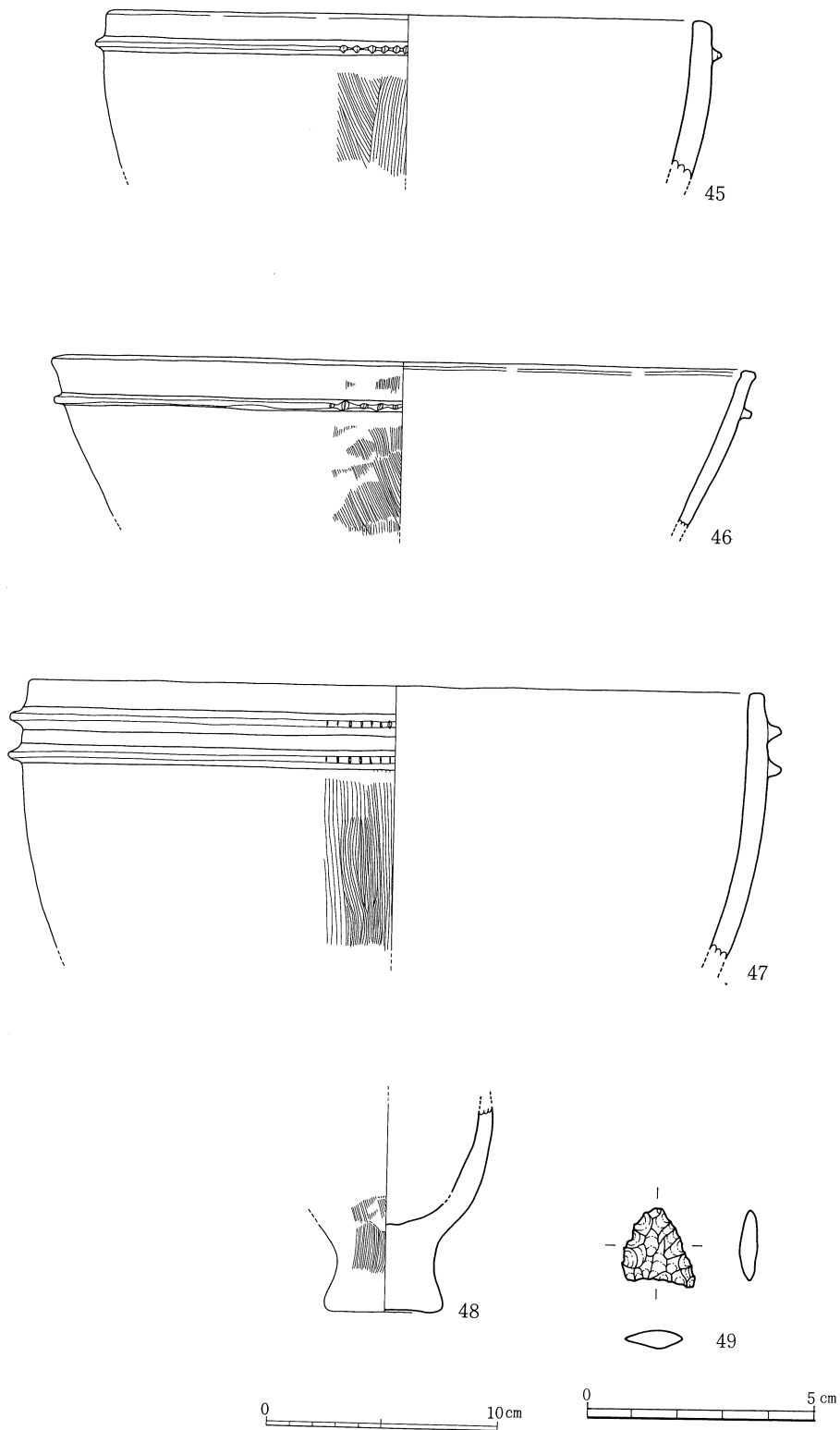
35



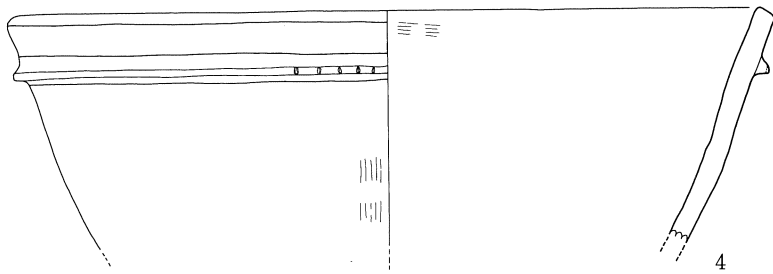
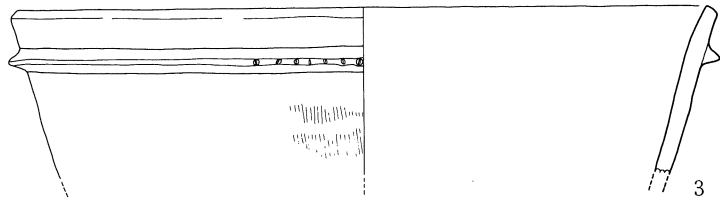
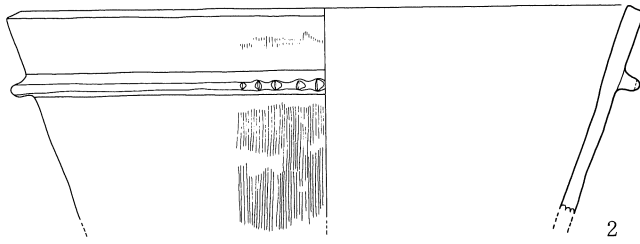
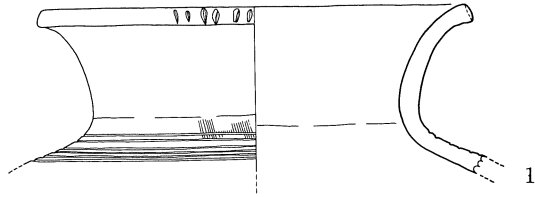
第14图 成田尾遺跡1号竪穴出土遺物実測図(1/3)



第15図 成田尾遺跡1号豎穴出土遺物実測図 (2/3・1/3)

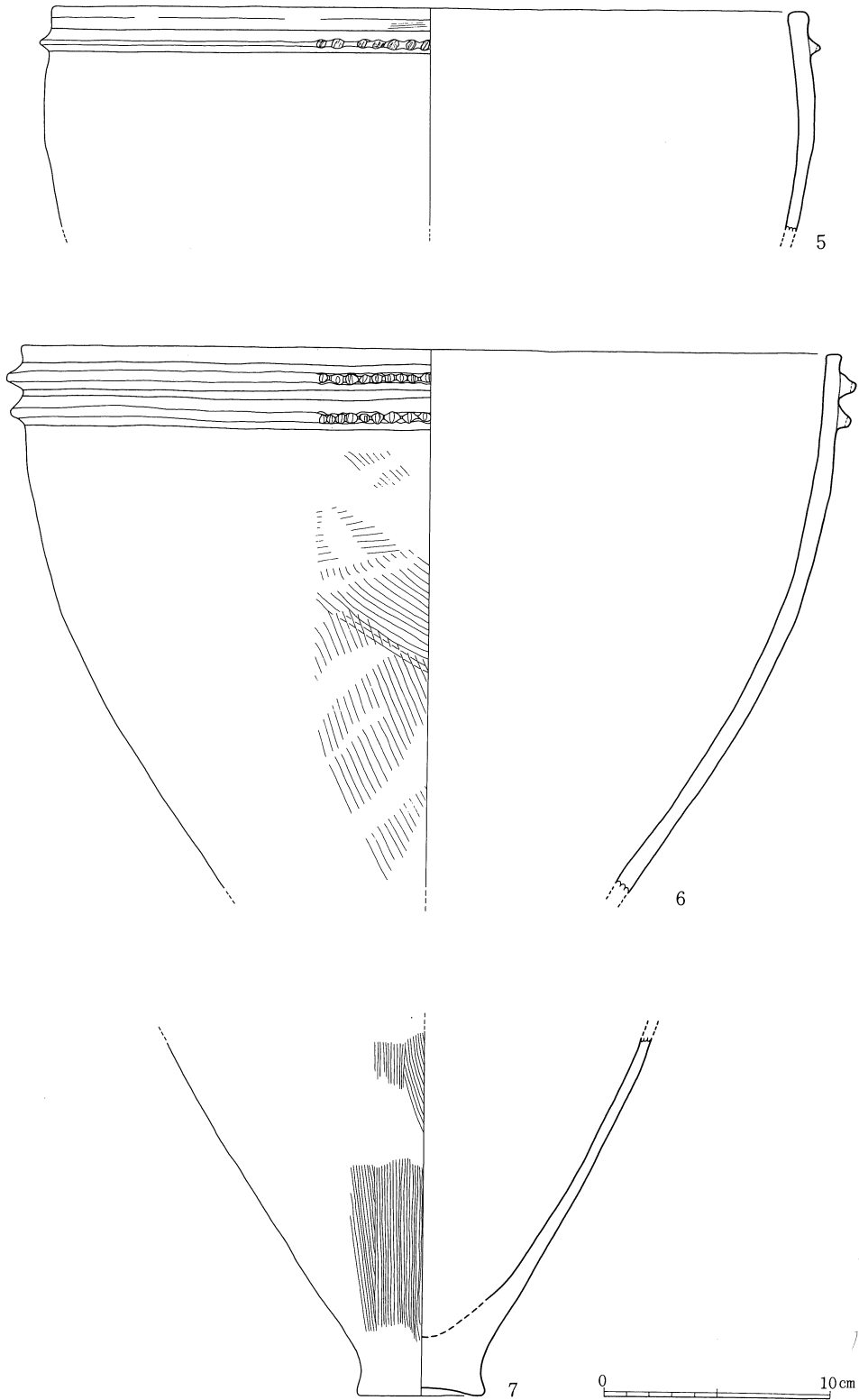


第16図 成田尾遺跡1号竪穴張り出し部(18号土坑)出土遺物実測図 ($\frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3}$)

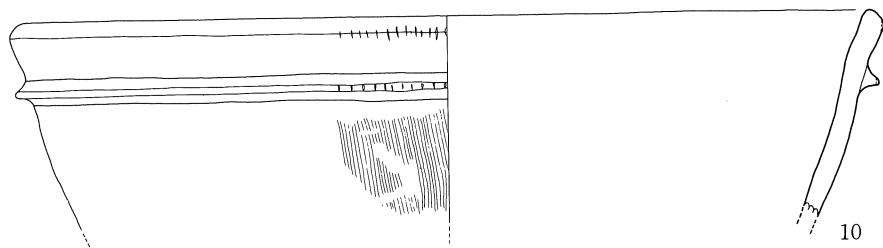
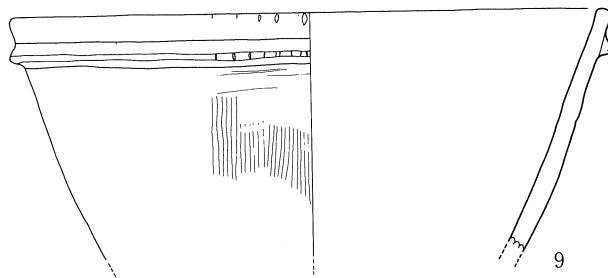
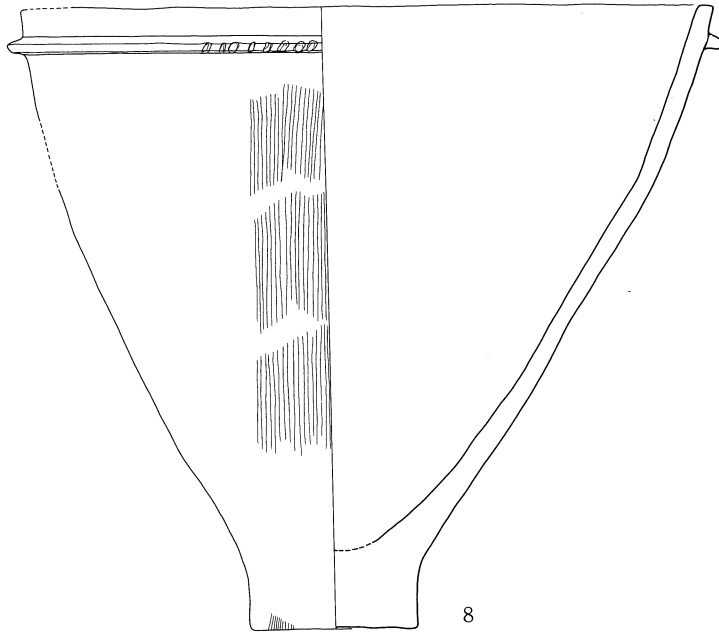


0 10cm

第17図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)

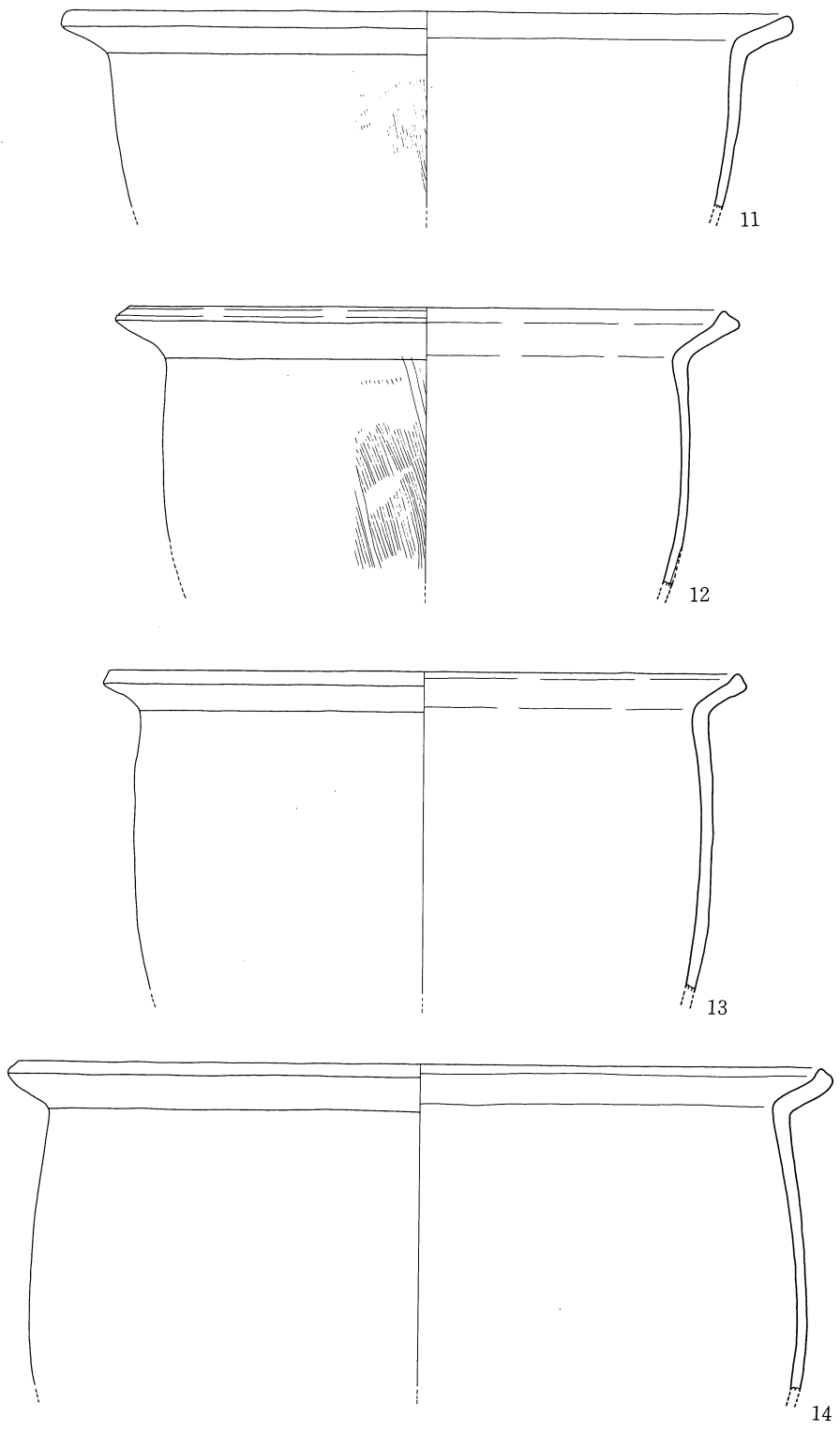


第18図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)

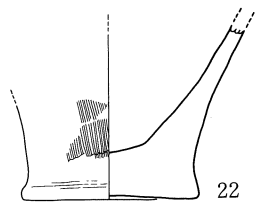
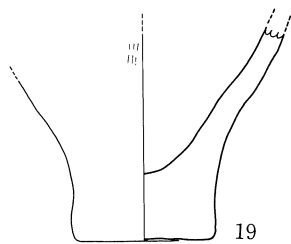
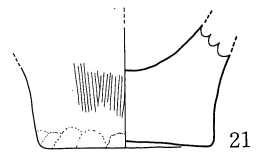
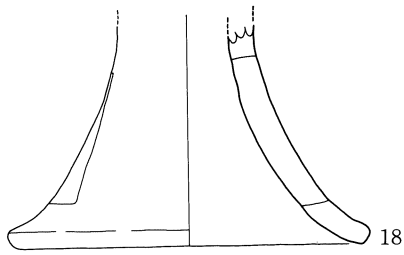
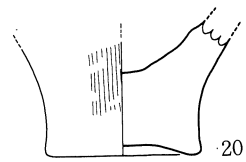
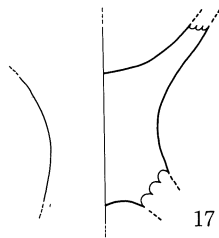
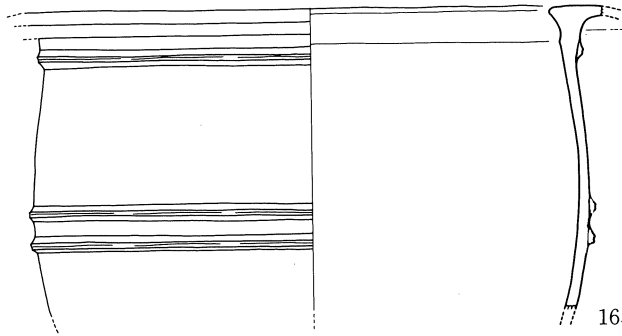
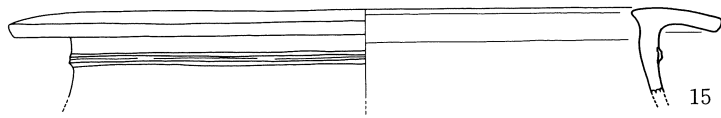


0 10cm

第19図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)

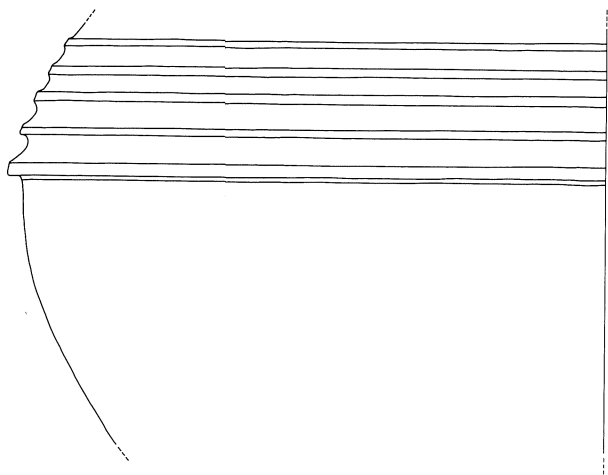


第20図 成田尾遺跡 4a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)

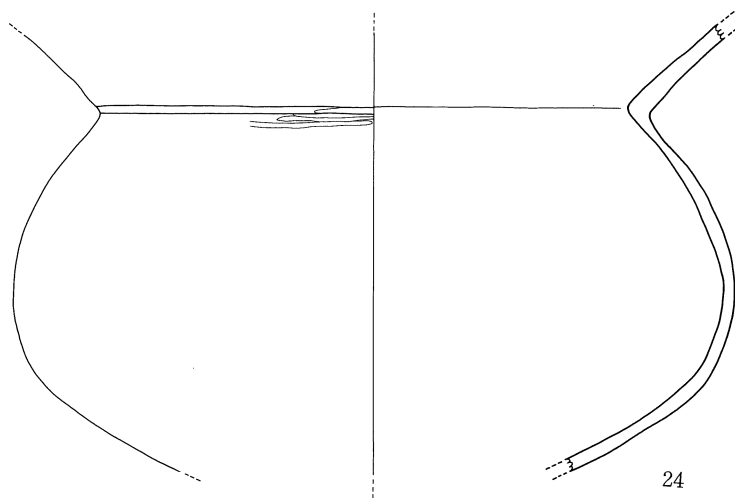


0 10cm

第21図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)



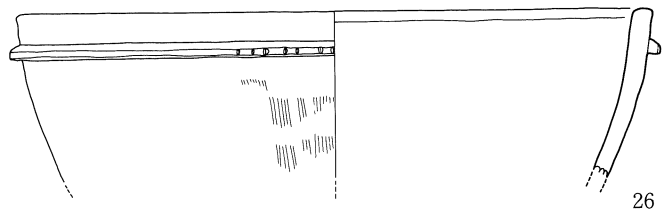
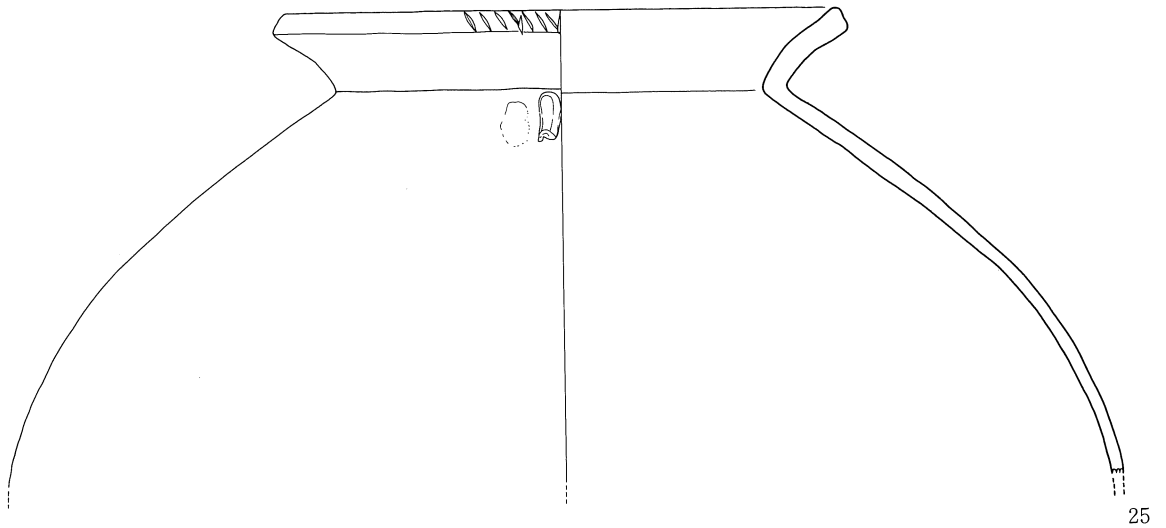
0 10 cm



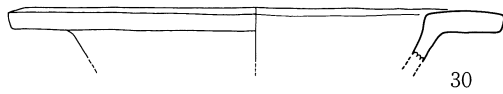
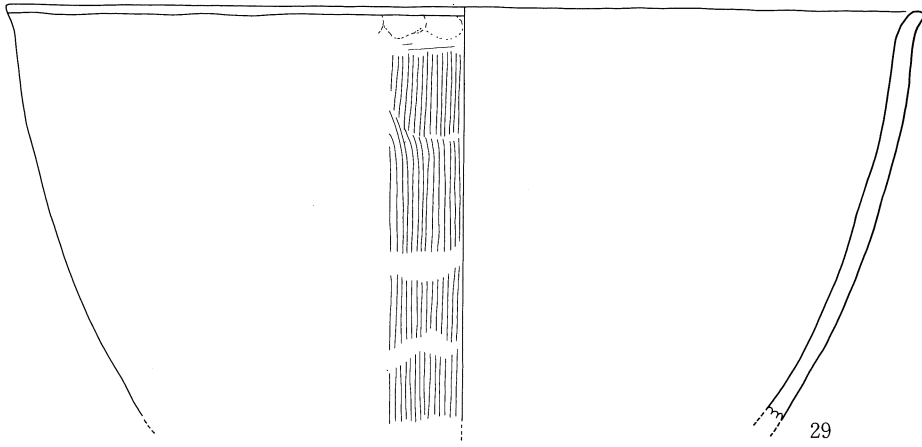
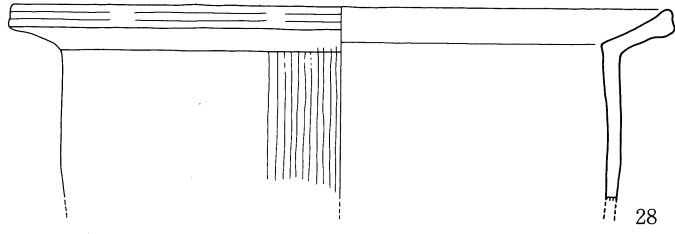
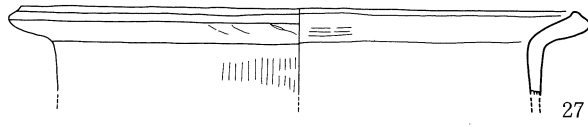
24

0 10 cm

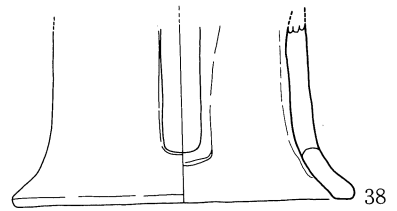
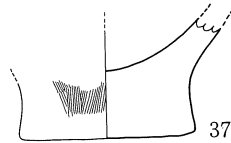
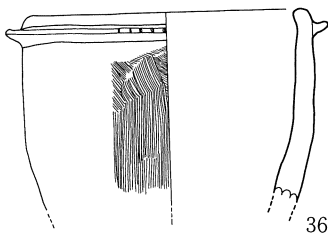
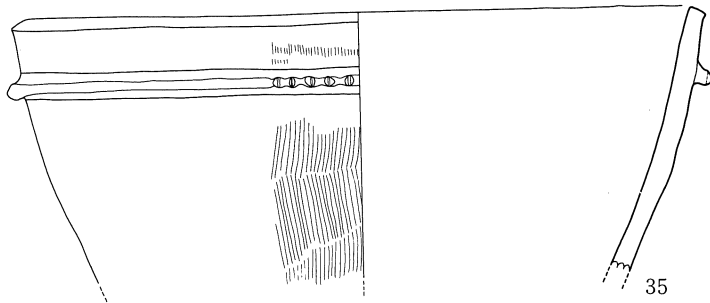
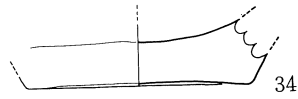
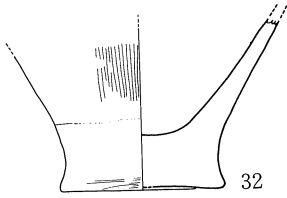
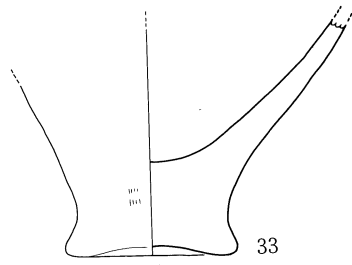
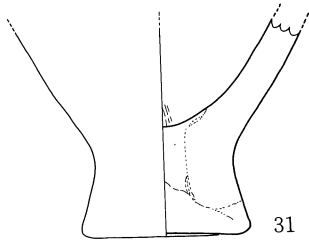
第22図 成田尾遺跡 4 a 豎穴(23)、4 b 豎穴(24)出土遺物実測図 ($\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{3}$)



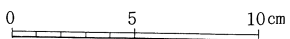
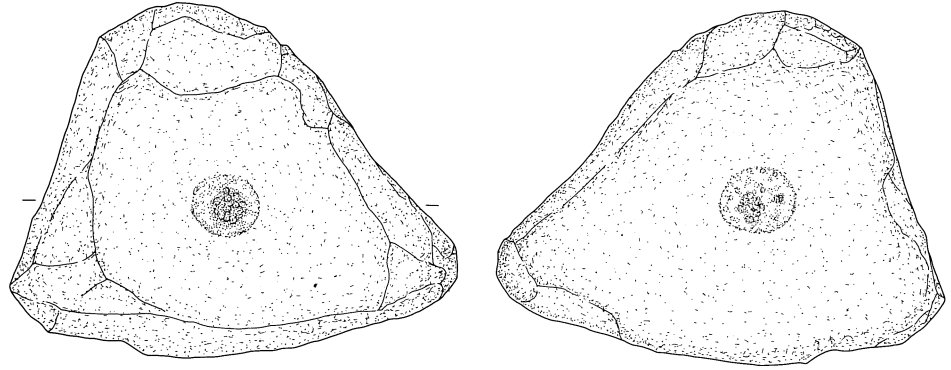
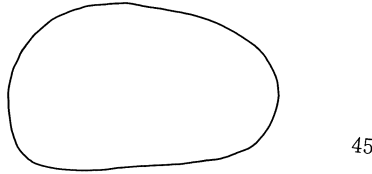
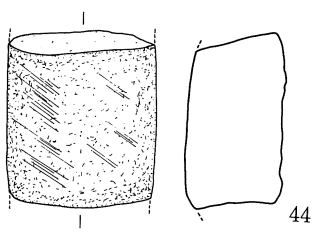
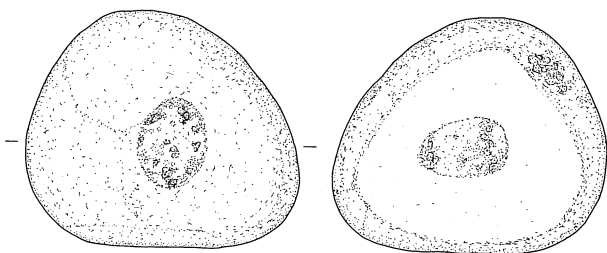
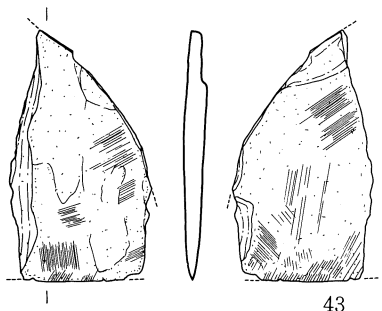
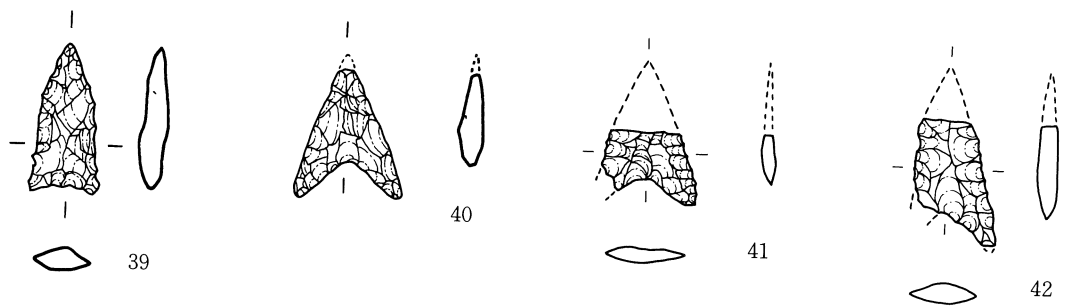
第23図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)



第24図 成田尾遺跡 4 a 豎穴出土遺物実測図 (1/3)



第25図 成田尾遺跡 4 b 豎穴及び 4 号一括出土遺物実測図 (1/3)



第26図 成田尾遺跡4号竪穴出土遺物実測図 ($\frac{2}{3}$ · $\frac{1}{3}$)

4号(4a、4b) 竪穴

出土遺物

土器

35、36は刻目突帯を施す下城式土器である。36は小形土器。37は底部、38は長方形の透し孔を4箇所を持つ脚部である。

石器

39～42は姫島産黒曜石製の石鏃である。39は駒形状を呈する。他は全て凹基式。

43は平坦刃部と弧状の基部を持つ大型の石包丁である。表裏に研磨痕を残す。

44は太形石斧の基部中央の破片。結晶片岩製。

45、46は表裏に窪み痕を持つ。安山岩製。

2号竪穴(第27図)

調査区北西部の境界線に一部接して検出された大型竪穴であり、竪穴の北西側は路線外のため発掘はしていない。竪穴は後世の削平が著しく、僅かに南西部に円形プランの痕跡が残るのみである。竪穴の規模は、残存する壁面と主柱穴群との距離から推察すると、直径13.8m前後となる。竪穴中央部には径約3.44m、深さ約80cmの円形土坑炉が配置されているが、長軸3.44m、短軸2.16mで長軸上に小柱穴を伴う2基の炉跡が重複している可能性も高い。柱穴群は全体的には円形～楕円形に配置されているが、重複か建て替か、主柱、支柱や補助柱の同時併存なのかは判然としない。ちなみに、等間隔の柱穴を基準にすると、柱穴間は1.6mで15本が配置できる。

出土遺物(第28図～33図)

土器

1～5は壺形土器の破片である。1の口縁部は貼文を持ち、口唇部には山形文を刻む。2は鋤先状口縁を呈し、3の垂下口縁の頸部には断面「M」字型の突帯が4条確認できる。

4は頸部片であり突帯文が横、縦に施されている。5は球形に誇張された胴部に突帯が巡る。

6～7は「く」の字口縁を呈し、6の口唇部は跳ね上げ状に形成されている。9、10は口縁部に断面三角形の粘土を貼り付け、10は「L」字状の口縁下に一条突帯を施文する。11は「L」字状口縁を呈し、境界部に突帯を施す。

12は鋤先状の垂下口縁を呈する高坏片である。

13～15は高坏の脚部である。体部と脚部の接点には断面三角形の突帯が巡る。15はヘラの磨きが残る。

16～20は底部片である。

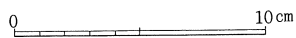
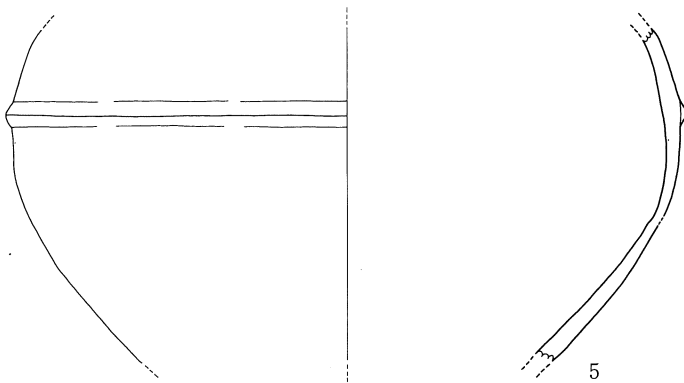
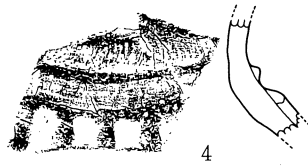
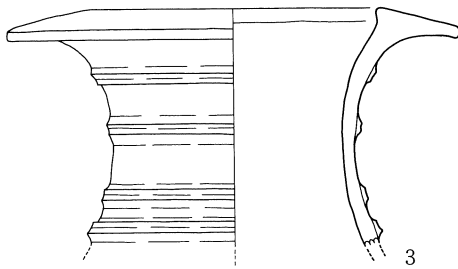
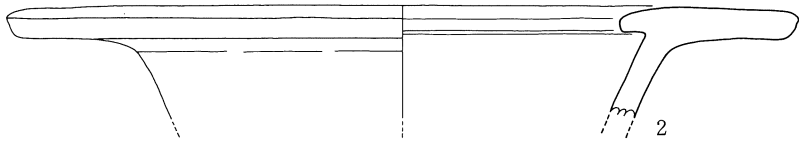
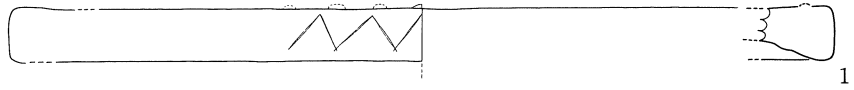
21は口径52cmを測る甕形土器の口縁部である。頸部に断面三角形の突帯が巡る。

装飾品

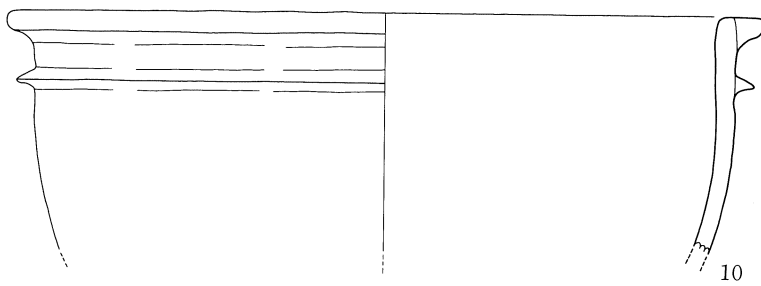
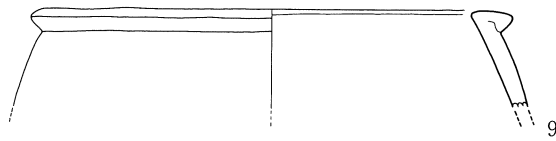
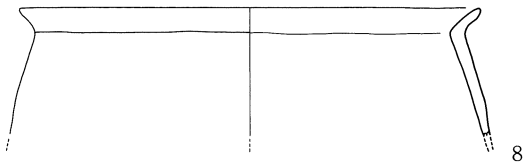
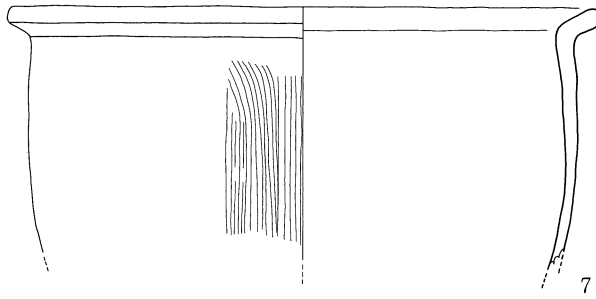
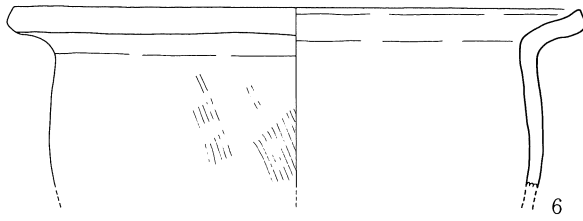
22は管玉である。長さ1cmで直径0.4cmの碧玉製である。



第27图 成田尾遺跡 2号竖穴実測図 (1/80)

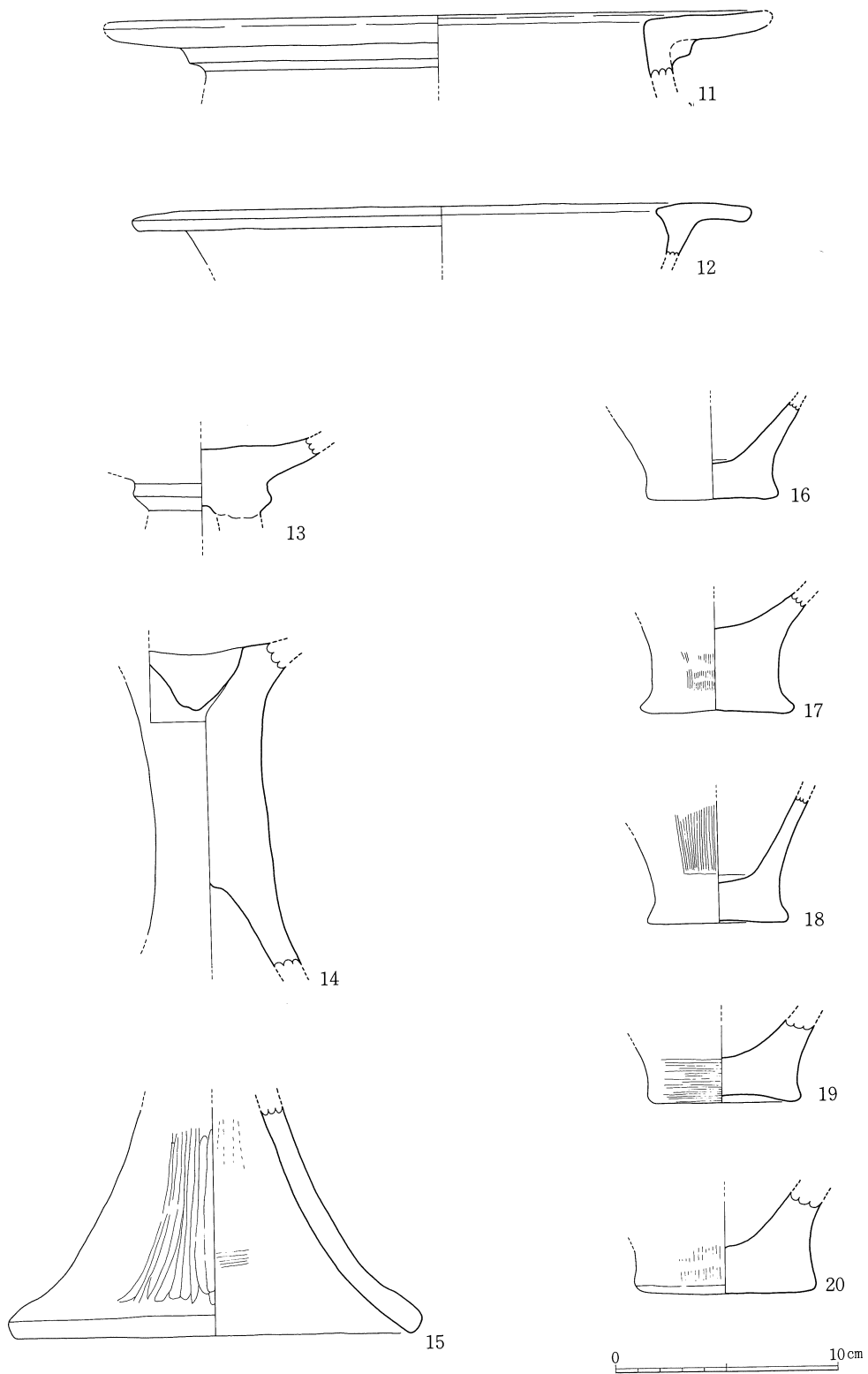


第28図 成田尾遺跡 2号豎穴出土遺物実測図 (1/3)

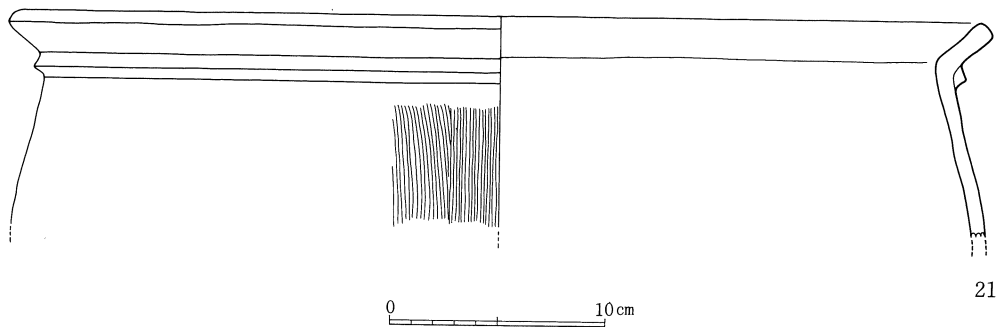


0 10 cm

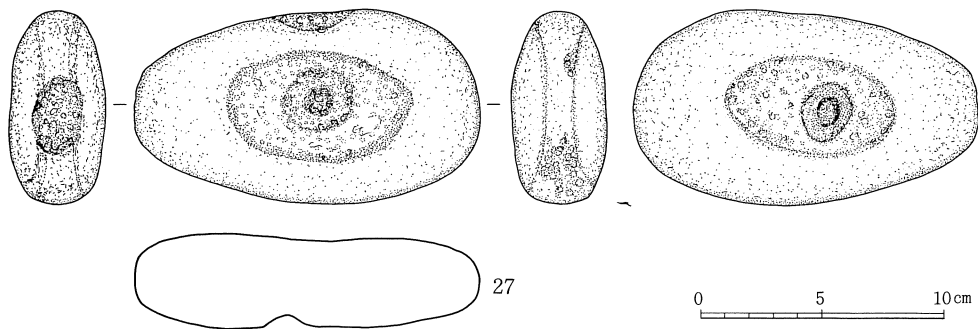
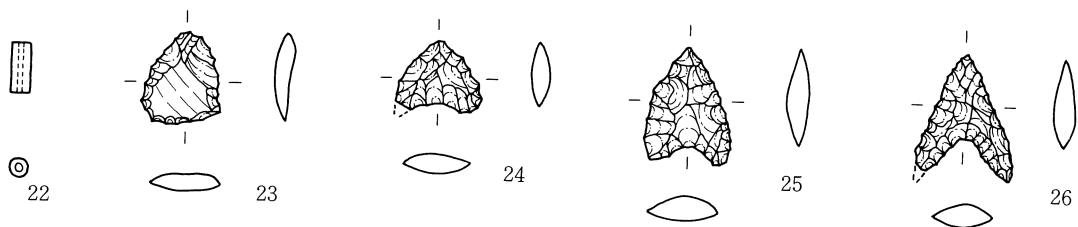
第29図 成田尾遺跡 2号竪穴出土遺物実測図 (1/3)



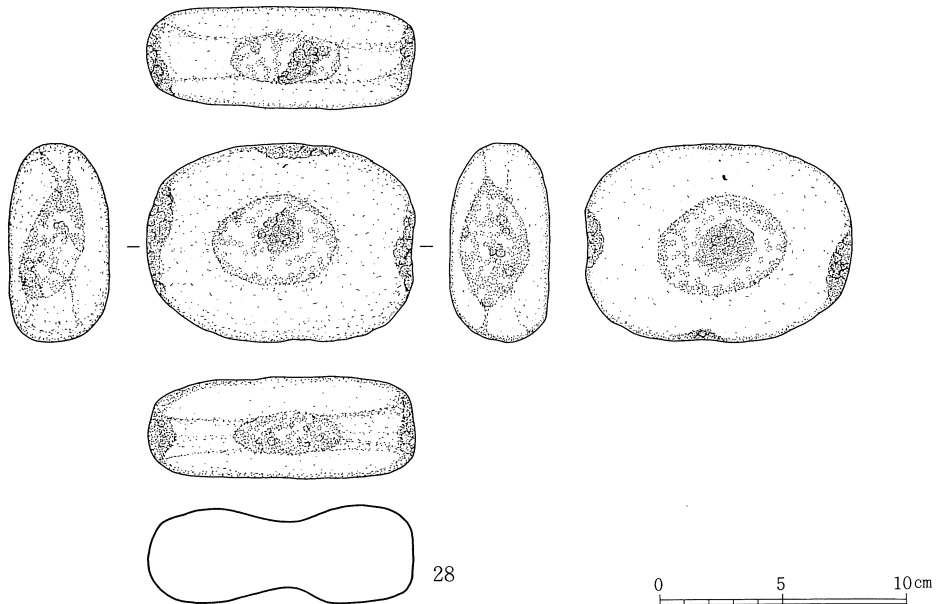
第30图 成田尾遺跡2号豎穴出土遺物実測図(1/3)



第31图 成田尾遺跡2号竖穴出土遺物実測図 (1/4)



第32图 成田尾遺跡2号竖穴出土遺物実測図 (2/3 · 1/3)



第33図 成田尾遺跡2号竪穴出土遺物実測図(1/3)

23～26は姫島産の黒曜石製の石鏃である。石鏃の形態にはバラエティがある。

27、28は拳大の楕円状河原礫を利用した敲石である。礫の表裏や両側辺部には使用による敲打痕が顕著に残る。

5号竪穴 (第34図)

調査区の東端中央部に遺存する竪穴である。全体的に後世の削平が著しい。竪穴の北側には竪穴プランの一部や竪穴の張り出し部も一部遺存するが、南側の大半は削平を受け竪穴の規模等は推測するしかない。

張り出し部や柱穴群も複数遺存し、竪穴中央部の土坑炉も2箇所を確認できるので、少なくとも2度以上の建て替え等も推測することができる。北側の土坑炉は長軸を北・南にとり、長径176cm、短径128cm、深さ16cmである。一方、南側は遺構の切り合いがあるが、北・南の長軸は208cm、短軸は120cm、深さ40cm程度である。

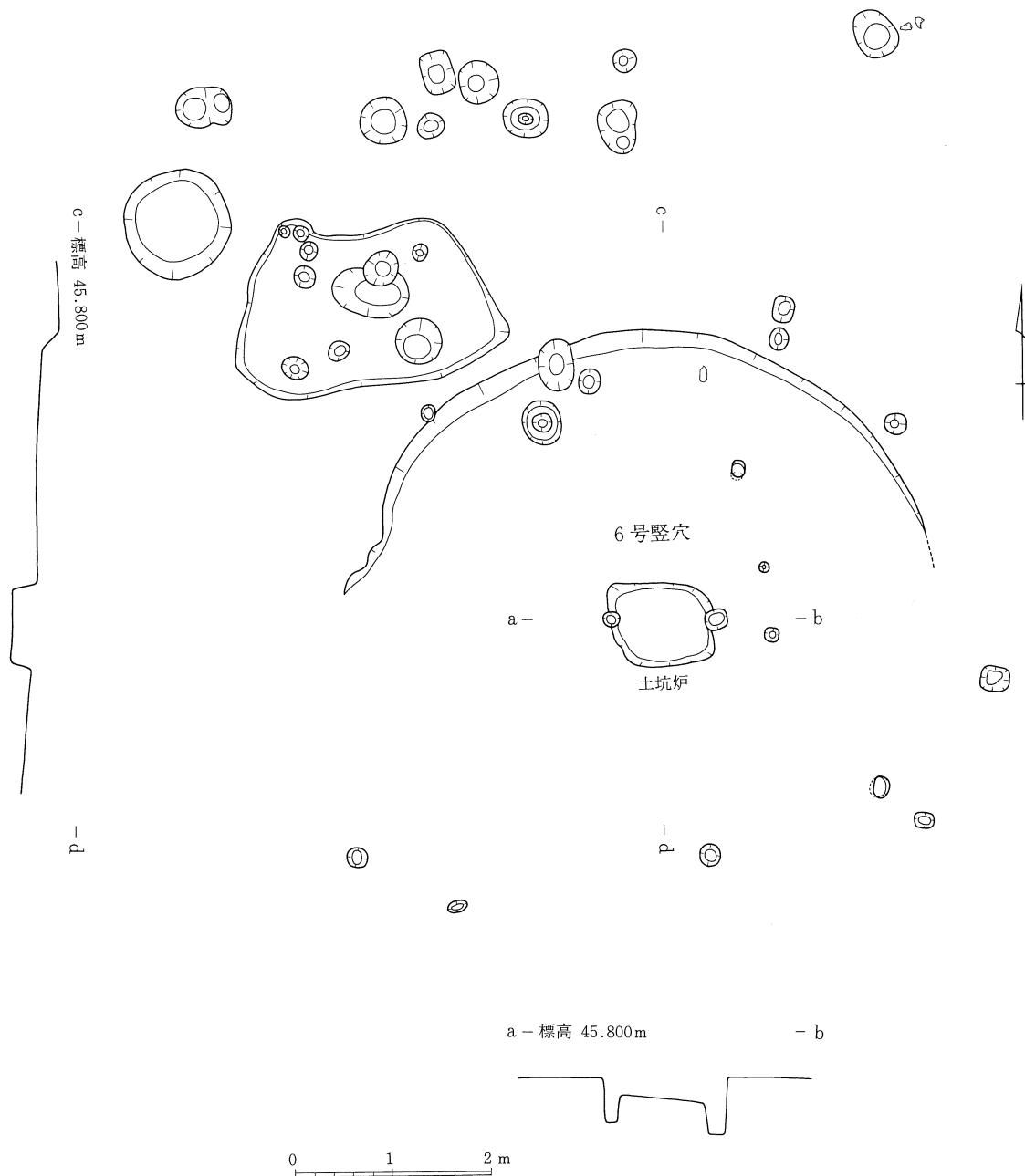
柱穴群には各々のまとまりがあり、建て替えを示唆しているが主柱が何本かは明瞭ではない。出土遺物等は僅少であった。



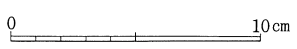
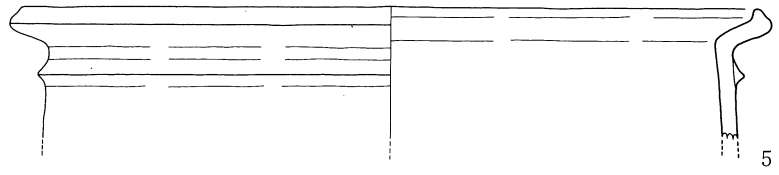
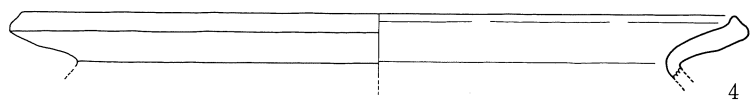
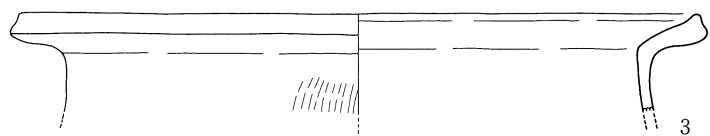
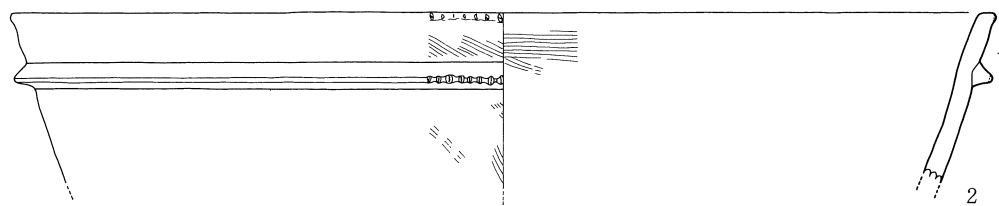
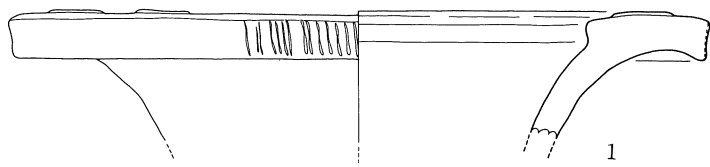
第34图 成田尾遺跡5号竖穴实测图 ($\frac{1}{80}$)

6号竖穴 (第35図)

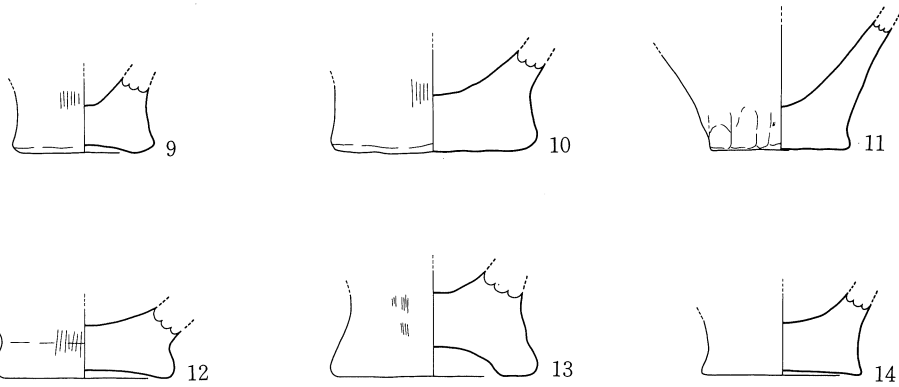
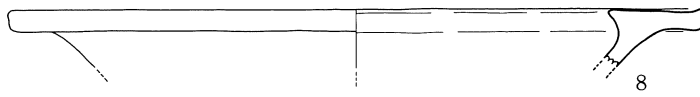
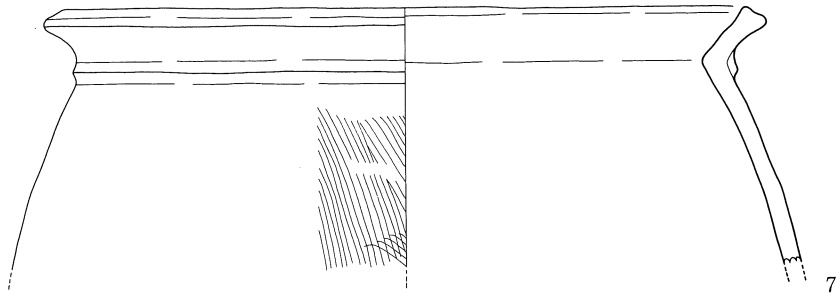
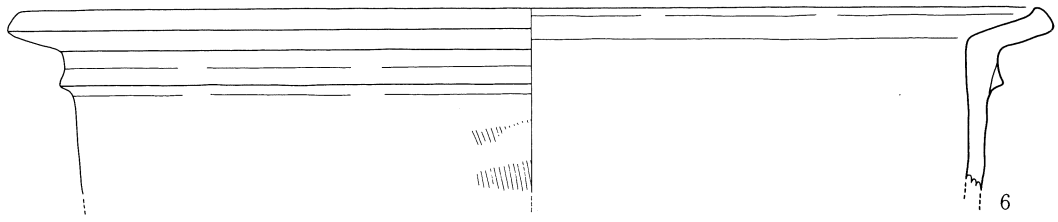
調査区下段の南東隅に位置する円形竖穴である。竖穴は北半分が残存するが、南側半分は削平されている。竖穴の復元径は直径7mを測る。中央部には西・東1.28m、北・南96cm、深さ30cmの土坑炉が遺存する。炉の長軸上の両端には小柱穴が1対で確認できる。竖穴の支柱穴等は不明である。



第35図 成田尾遺跡6号竖穴実測図 ($\frac{1}{80}$)



第36图 成田尾遺跡 6号竖穴出土遺物実測図 (1/3)



0 10cm

第37图 成田尾遺跡6号竖穴出土遺物実測图 (1/3)

出土遺物（第36～38図）

土器

1は壺形土器の口縁部である。弱い鋤先状の垂下口縁部には円形貼付文を付け、口唇部には縦位の貝殻状の刻目を施文する。

2は下城式の甕形土器であり、口唇部に刻目を施す。

3～7は跳ねあげ状口縁を持つ甕形土器の一群である。5～7は頸部に断面三角形の突帯が巡る。7の胴部はやや誇張されている。

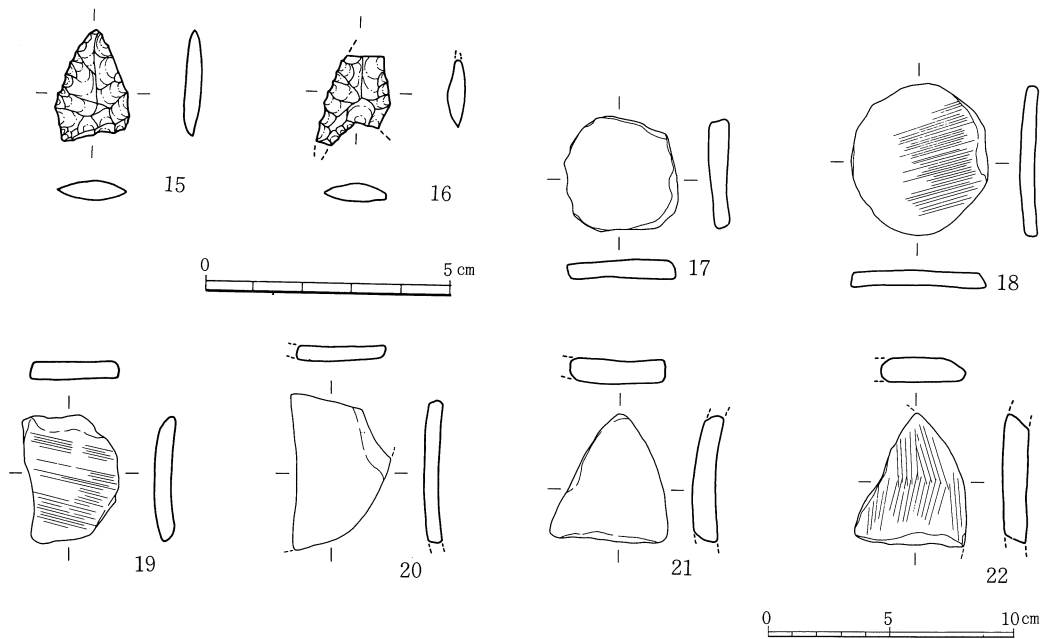
8は高坏の口縁部である。鋤先状口縁を特徴とする。

9～14は底部片である。13の底部は揚げ底状を呈する。

石器

15、16は姫島産黒曜石製の石鏃である。15は平基式に近い。

17～22は土器片加工品である。17、18は円形状を呈し、19～22は半円形に近い。土器片の周囲は研磨されている。



第38図 成田尾遺跡6号竪穴出土遺物実測図（ $\frac{2}{3}$ ・ $\frac{1}{3}$ ）

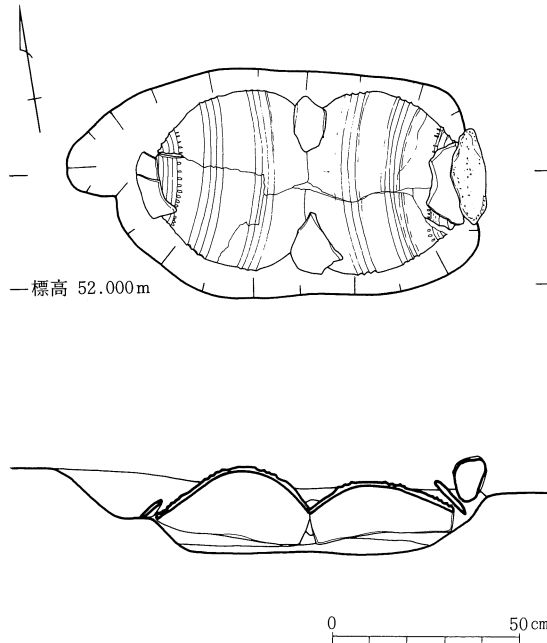
1号小児土器棺墓 (第39図)

調査区の上段南端の中央部に位置し、1号堅穴の北東側のすぐ側に所在する小児用の土器棺墓である。土坑は長軸を西・東にとり、長径 106cm、短径 60cm、深さ 24cmを測る。

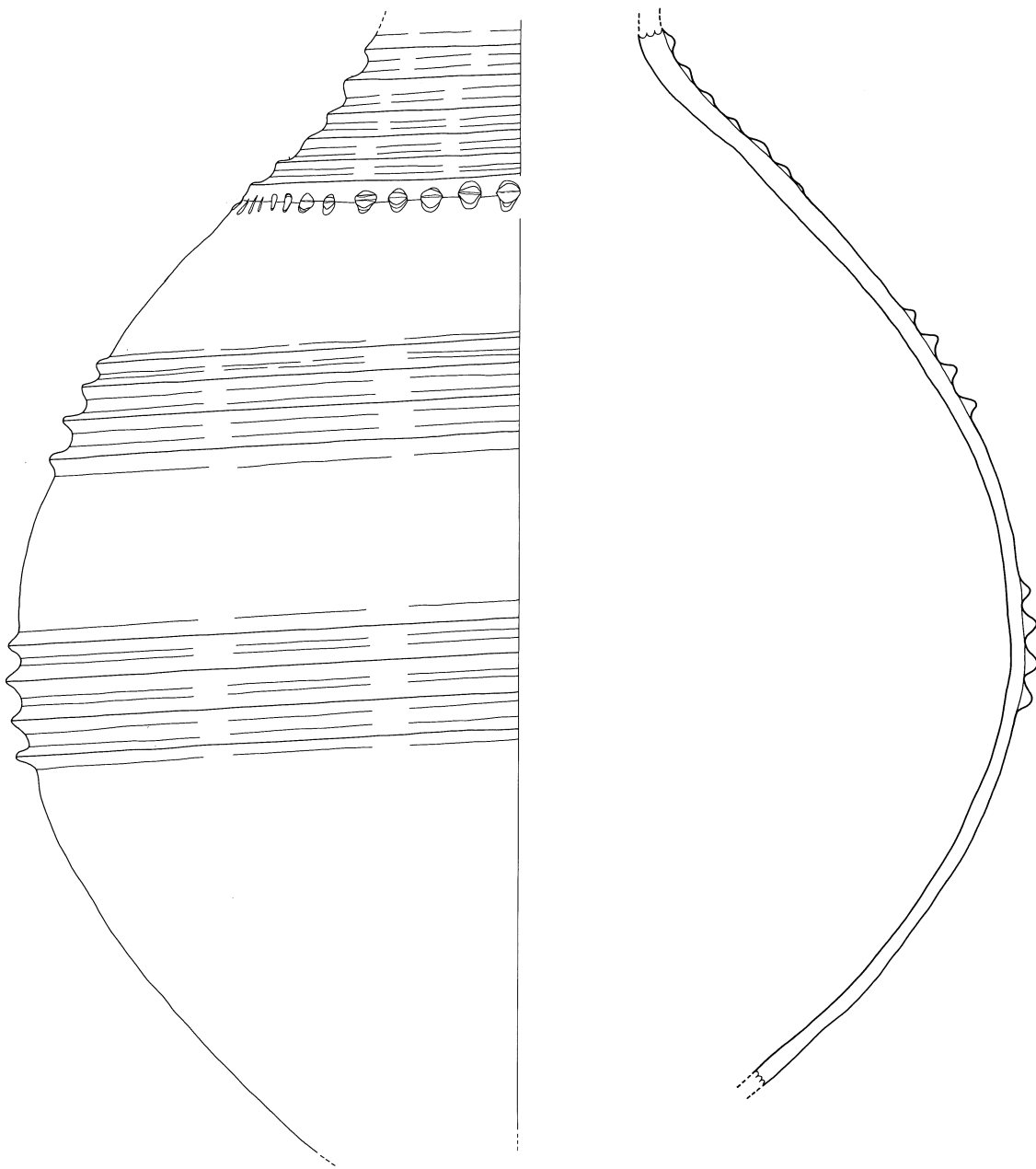
土坑内の土器棺は口縁部と底部を欠損した壺形土器を半截し、各々頸部を西と東側に配置して、土器で覆ったものである。平面形態は繭状を呈し、くびれ部の北側と南側は土器片で覆い、西側・東側の両頸部側も土器片と偏平礫で覆い塞がれている。土器棺の長さは約80cm、くびれ部の幅は約 32cmであり、小児用の土器蓋棺である。

土器棺 (第40図)

1は口縁部と底部を欠損した壺形土器である。壺の中心軸に沿って、きれいに半截された形態であった。壺の頸部に断面三角形の突帯を6条巡らし、粘土塊の貼り付け文が併用施文されている。胴部上半部には4条の突帯、胴部中央部の最大径部にも4条の突帯文が巡っている。胴部の最大径は約 45cmである。



第39図 成田尾遺跡1号小児土器棺墓実測図 ($\frac{1}{20}$)



第40图 成田尾遺跡1号小児土器棺墓土器棺实测图(1/3)

2号小児土器棺墓 (第41図)

調査区上段の南東部、5号竪穴の北側に隣接する小児棺である。土壌は西・東に長軸をとり、長径 84cm、短径 52cm、深さ 16cmを測る楕円状を呈する。土壌の西半部には下城式の甕の片面を割り取って覆った底部～口縁部が遺存し、東半部は退化した鋤先状口縁を持つ壺形土器の上半部が残存していた。土器棺と土壌の隙間には拳大の角礫が十数個配置され棺を取り囲んでいた。本来、甕の口縁部と壺の胴部とを合わせて遺体を覆う形式であり、不必要な甕、壺の片面を大きく欠き割っている。土壌は上面を後世削平しており、従って、棺は両側面しか残っていない。棺は長径約66cm、短径約30cmを測り、小児用棺と推察できる。

土器棺 (第42～43図)

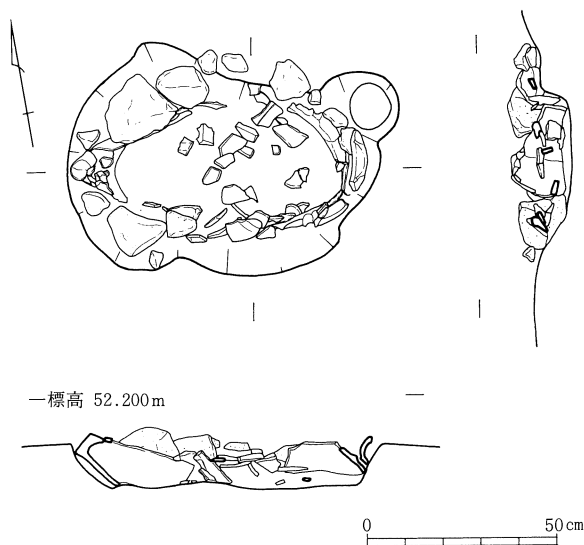
1は退化した鋤先状口縁を呈し、胴部は球形に誇張された壺形土器である。頸部には4条、胴部上半には2条、胴部中央には3条の断面三角形の突帯が巡る。胴部下半は欠損している。口縁部内面に刷毛目を残すが他は撫で消されている。

2は口縁部が心持ち外反する下城式土器の甕である。口縁下に断面三角形の刻目突帯文を一条施文する。表裏の刷毛目は撫で消されている。

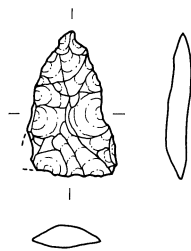
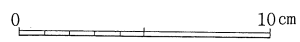
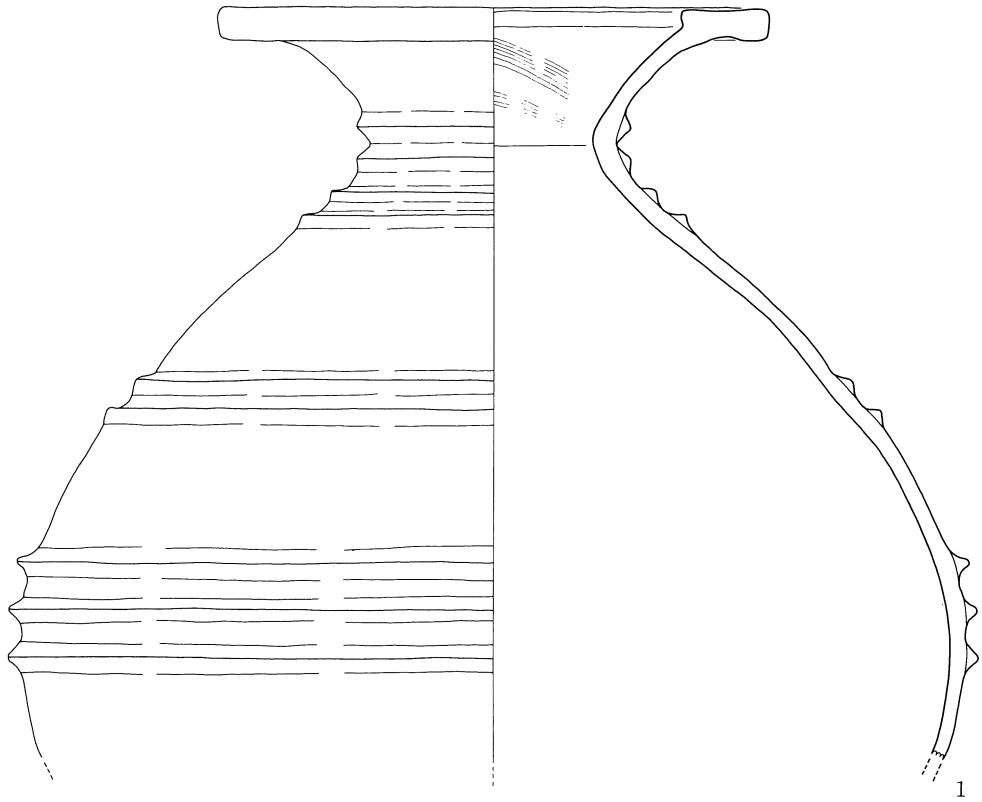
2号土器棺墓は退化した鋤先状口縁と多数の突帯文を併用する壺と、心持ち外反する下城式土器の一条突帯の甕との明瞭なセット関係が認識できる。

石器

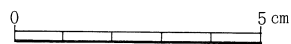
3は姫島産黒曜石の平基式石鏃である。出土状態等是不明であり、2号土器棺墓に伴うものかどうかは定かではない。



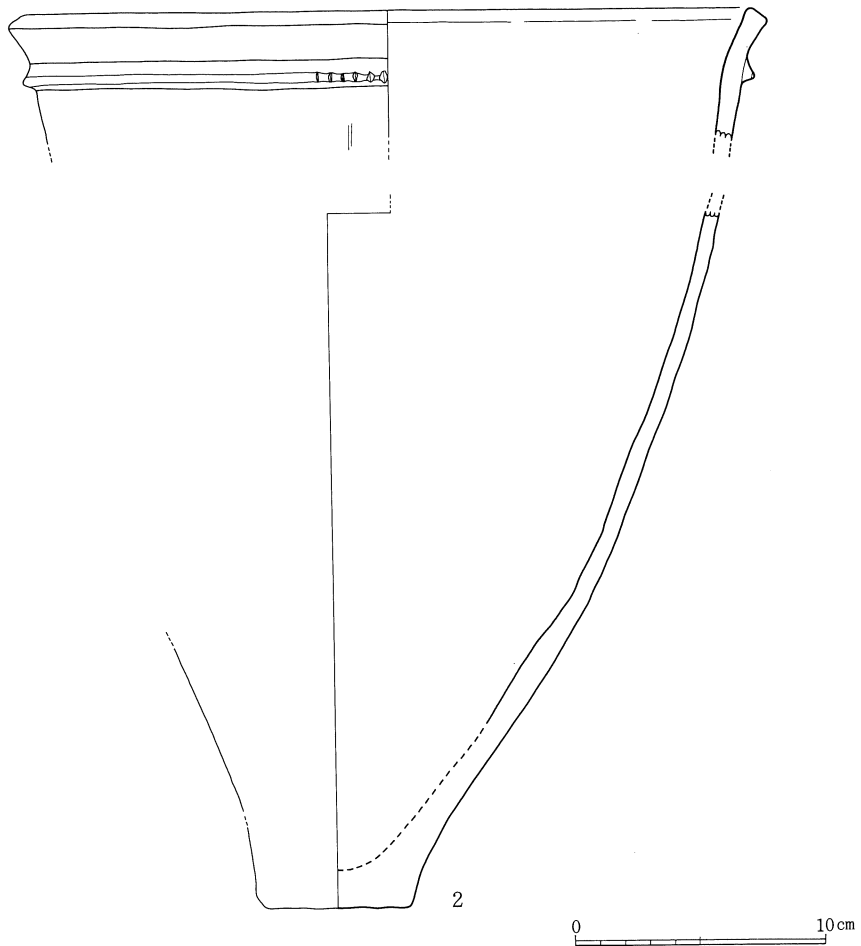
第41図 成田尾遺跡2号小児土器棺墓実測図 ($\frac{1}{20}$)



3



第42图 成田尾遺跡 2号小児土器棺墓土器棺実測図 (1/3)



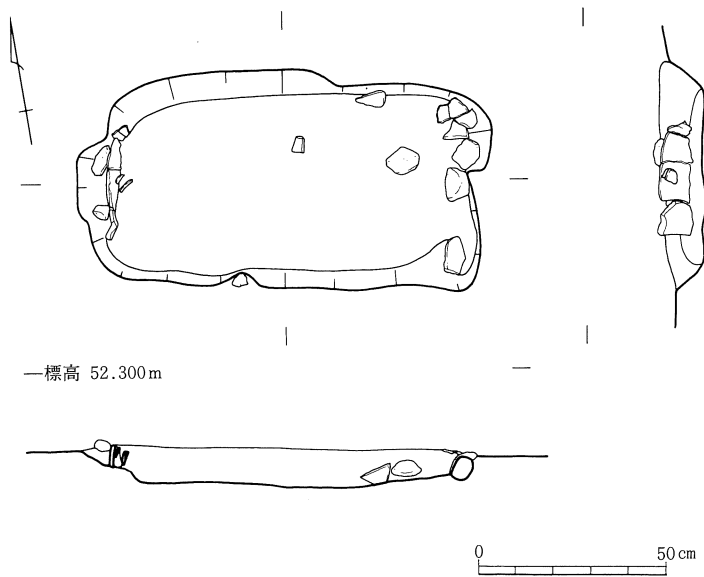
第43図 成田尾遺跡 2号小児土器棺墓土器棺実測図 (1/3)

4号小児土器棺墓 (第44図)

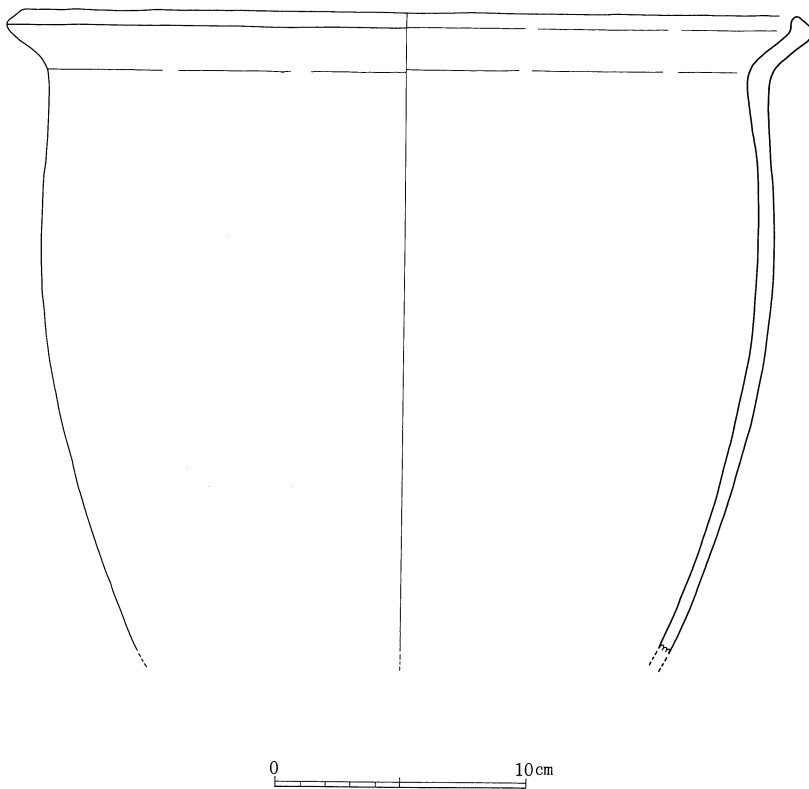
調査区上段の南東隅部、5号竪穴の北東部近くに位置している。土壙は長軸を西・東にとり、長径 106cm、短径 58cm、深さ 12cmを測る隅丸長方形を呈する。小児用の土器棺墓である。土壙の西隅部には、棺の小口部を示す甕の大型破片を立て、外側には小礫数個が配置され、土壙の東端部には土器片と拳大の礫が数個遺存していた。土壙は上面を大きく削平されており、残存状態は良くない。1、2号土器棺墓のように、遺体の上を土器によって覆い隠す例とは若干様相が異なるが、長径 83cm、短径 46cmを測る土壙内面の容積からして、小児用の土器棺墓と推察できる。

土器棺 (第45図)

土壙の西側の小口面を構成していた土器片である。口縁部は「く」の字に屈折し、口唇部はつまみ上げて跳ね上げ状に成形されている。甕の胴部は張りが無く、表裏は撫で調整されている。



第44図 成田尾遺跡4号小児土器棺墓実測図 ($\frac{1}{20}$)

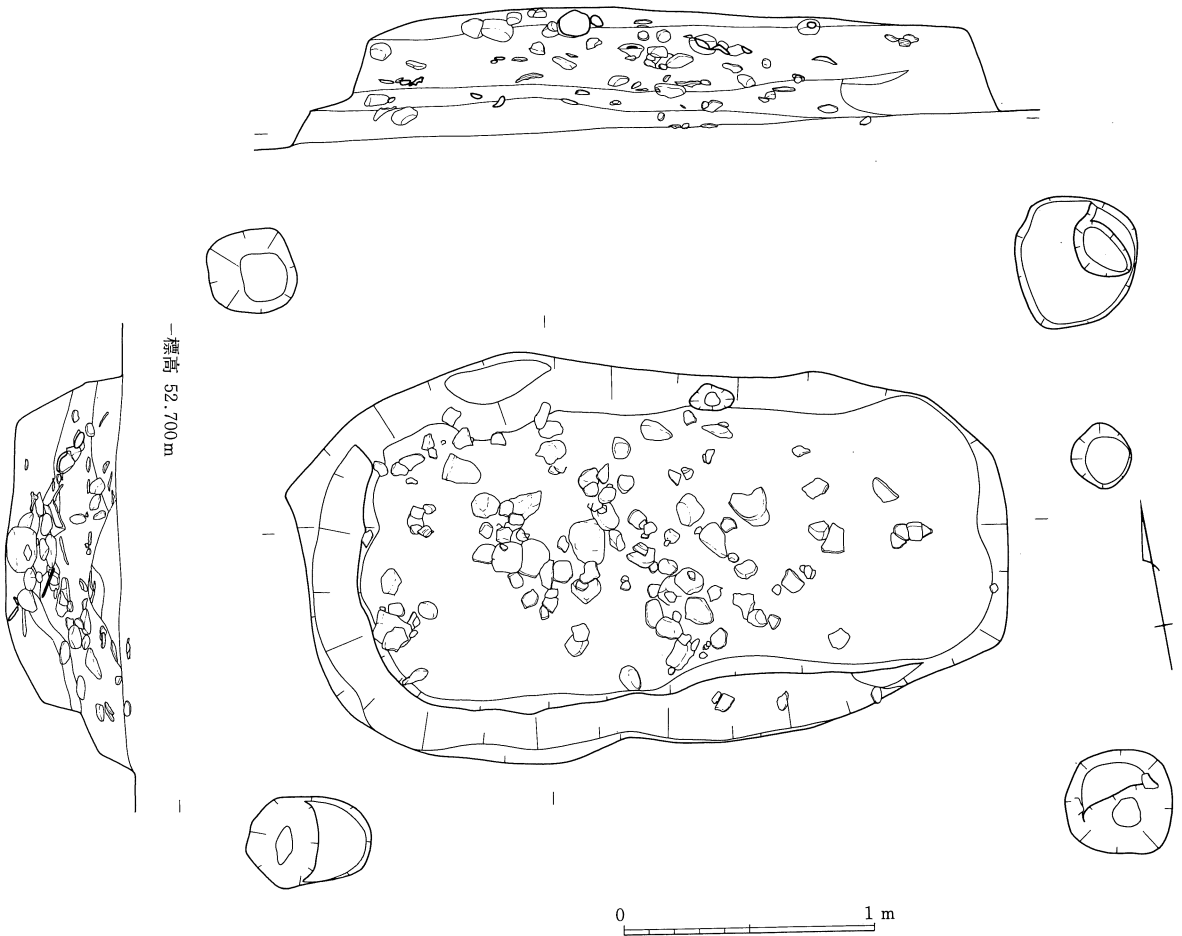


第45図 成田尾遺跡4号小児土器棺墓土器棺実測図 ($\frac{1}{3}$)

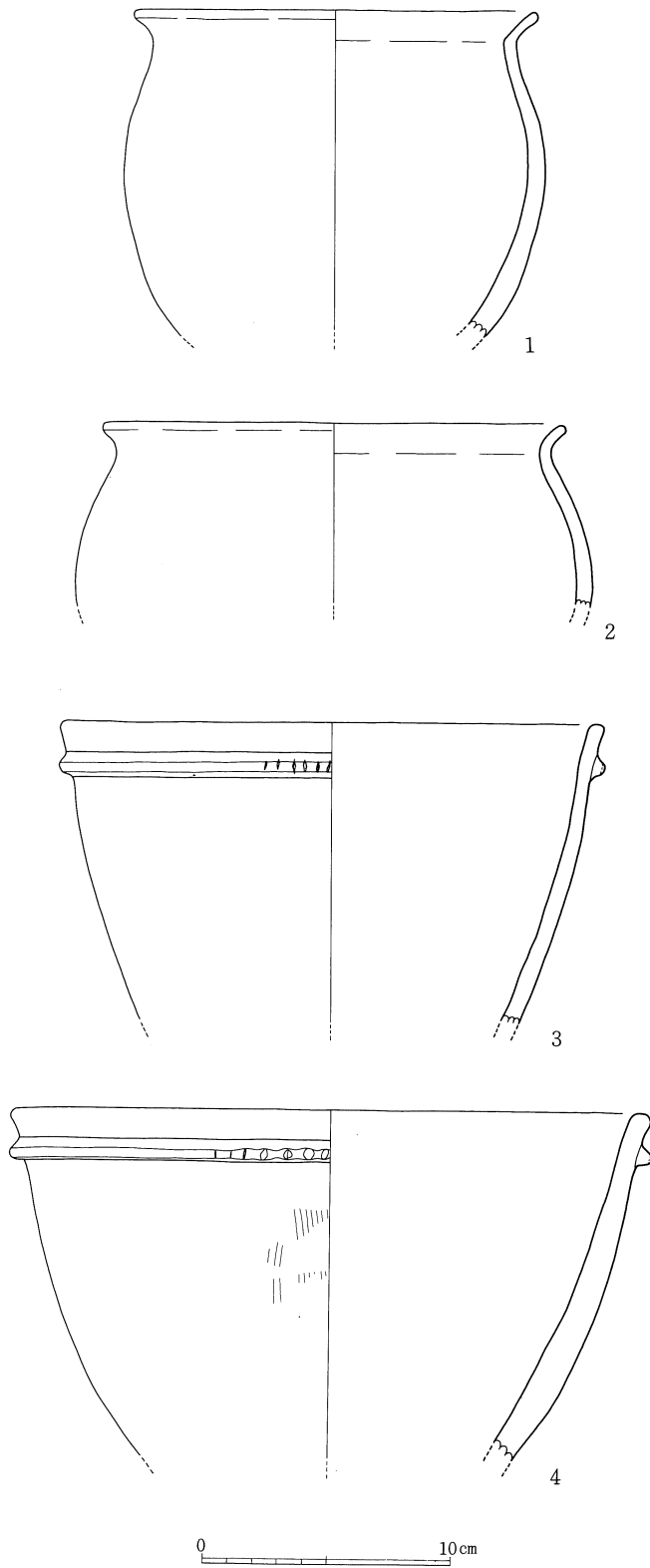
1号土坑

調査区上段の北西隅部に位置する土坑である。長軸を西・東にとり、確認面での長径は2.82m、中央部短径は1.5m、深さ48cmを測る長楕円状の土坑である。床面は比較的平坦状を呈し、床から側面への立ち上がりは緩かである。土坑内には土器片や礫が数多く遺存するが、断面はレンズ状を呈し、覆土が自然に流れ込む途中で投棄されたものである。

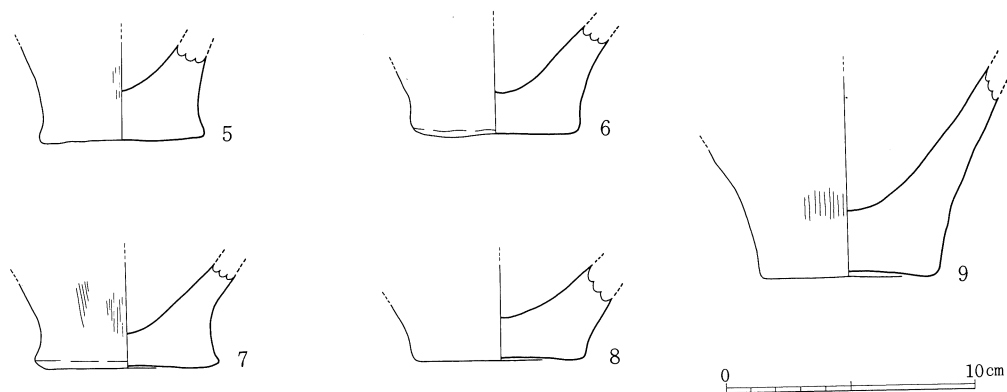
土坑は西側が心持ち広い状態を呈する。床面での長径は2.49m、短径は1.11mを測る。土坑の外側の四隅には直径約30cm～50cmの柱穴が配置されていた。覆屋を持った土坑であり、土坑の機能を考えるのに示唆的である。ちなみに覆屋の規模は長軸3.4m、短軸2.3m程度である。



第46図 成田尾遺跡1号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第47图 成田尾遺跡1号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第48図 成田尾遺跡1号土坑出土遺物実測図（ $\frac{1}{3}$ ）

出土遺物

土器

1、2は口縁部がゆるやかに外反し、胴部が丸く張る甕形土器である。表裏は撫で調整。

3、4の口縁端部は丸く整えられ、口縁下に一条の刻目突帯を施す一群である。一部に刷毛目を残すが、撫で調整されている。

5～9は平底の底部片である。

5号土坑

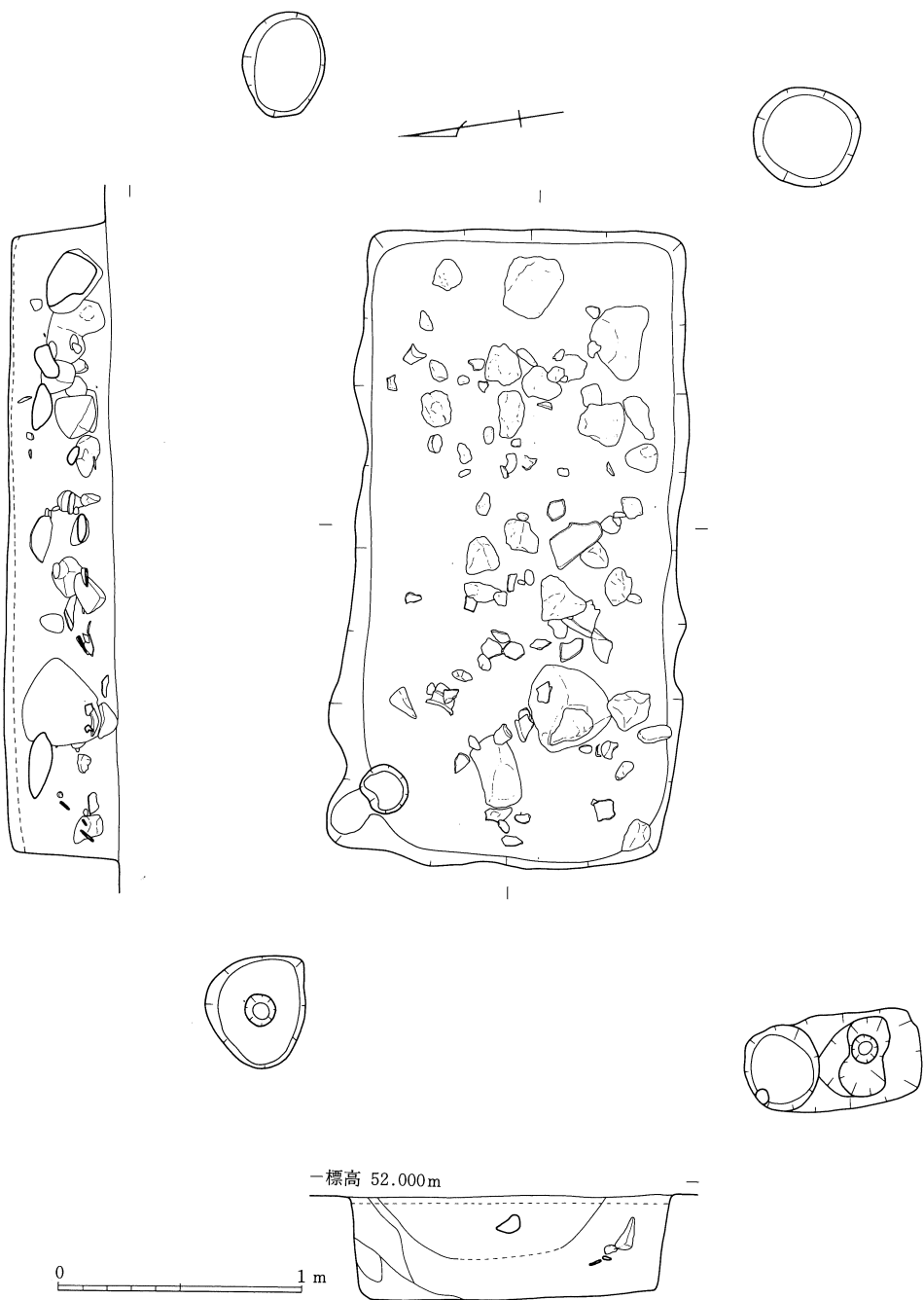
調査区上段の中央部に所在する長方形の土坑である。長軸を西・東にとり、長径 2.61m、短径 1.35m、深さ42cmを測る。土坑内には拳大や人頭大の地山礫や土器片等が残存している。土坑覆土はレンズ状の堆積を呈しており、自然の流れ込みの様相を示す。土坑の床面は平坦であり、側壁への立ち上がりも明瞭である。長方形土坑の外側の四隅には直径約 45cm前後の柱穴が遺存し、土坑の覆屋があったことを示している。柱穴の心々間は、長軸 3.81m、短軸 2.16mである。柱穴内の柱根跡は 12cm～15cmの柱であったことを示唆している。

出土遺物

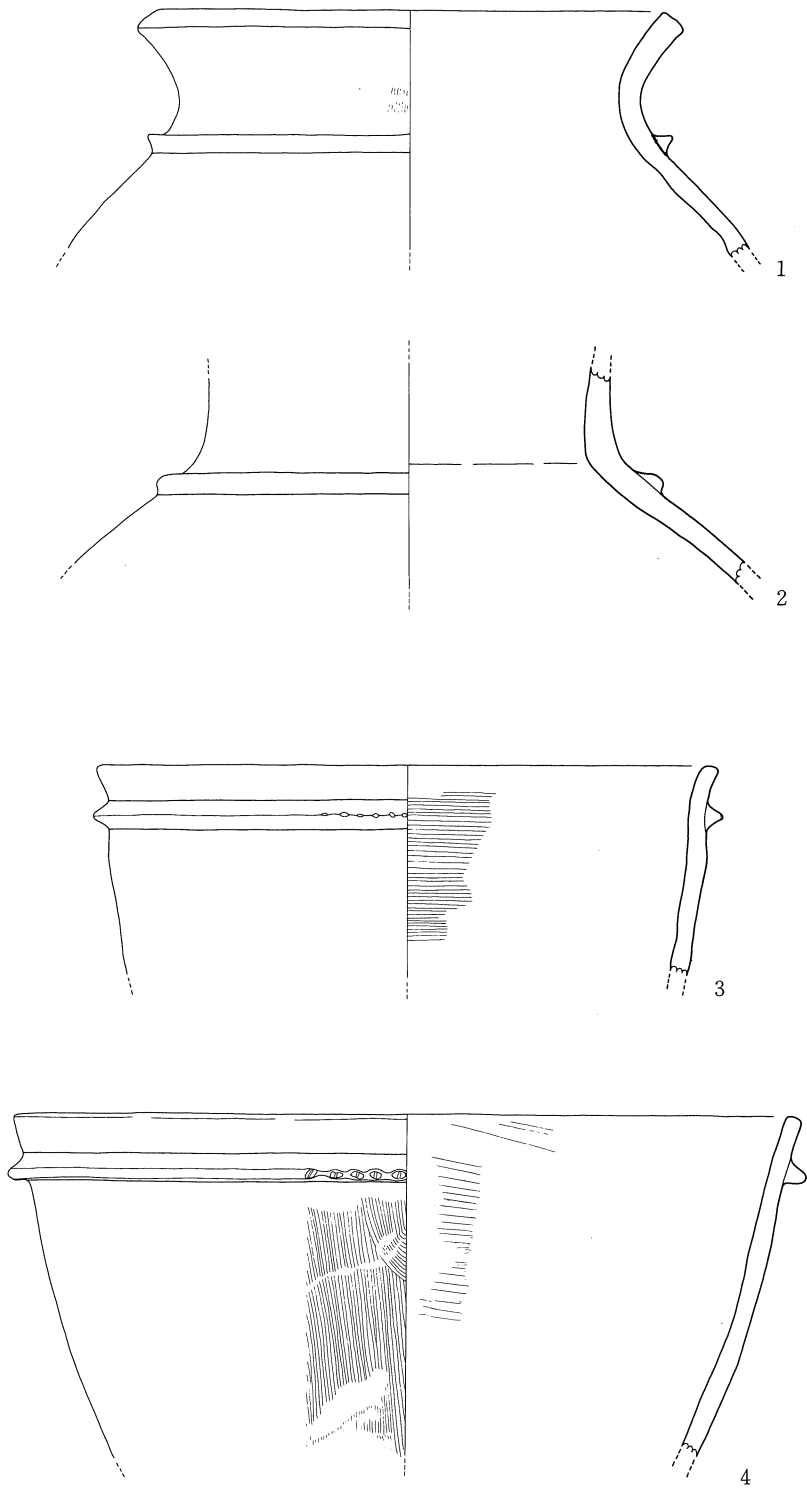
土器

5号土坑内より検出された遺物は壺と甕の破片である。1、2はゆるく外反する壺の口縁部であり、壺の肩部には断面三角形の突帯が巡る。3～5は口縁下に刻目突帯を施す下城式土器の甕である。5は考古学的完形品であり、口径約 25cm、器高約 26cmを測る。

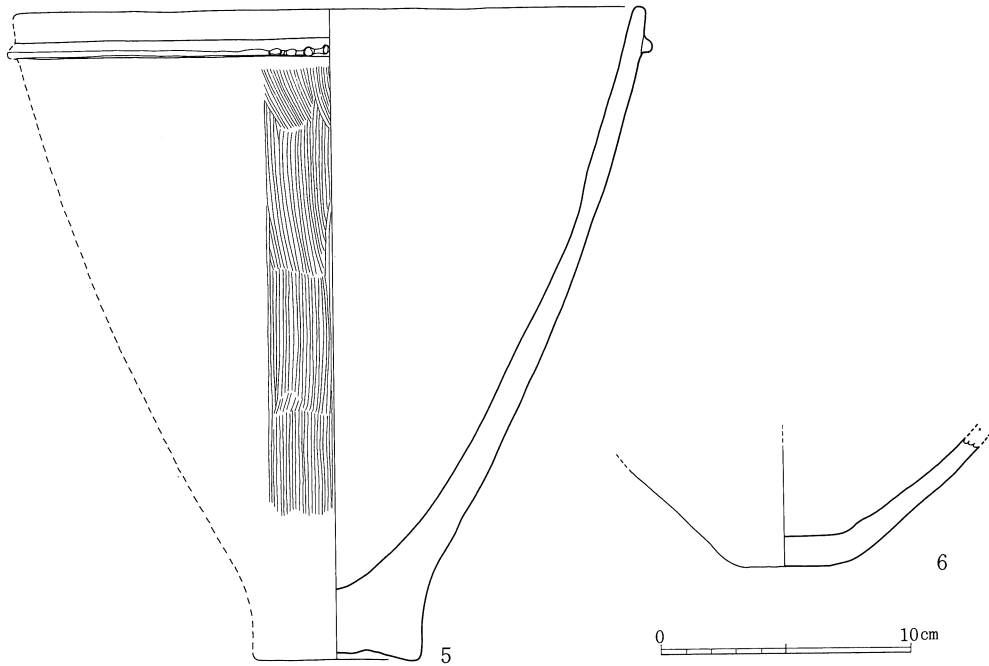
6は壺形土器の底部である。



第49図 成田尾遺跡5号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第50図 成田尾遺跡5号土坑出土遺物実測図(1/3)



第51図 成田尾遺跡 5号土坑出土遺物実測図 (1/3)

6号土坑 (第52図)

調査区上段の中央部付近、5号土坑の北東部に位置する。土坑の規模は長軸を西・東にとり、長径1.8m、短径90cm、深さ18cmを測る長楕円状の土坑である。土坑内には地山礫や土器片等も検出されている。

出土遺物 (第53図)

土器

1は口縁部が「く」の字に折れ、口唇部は跳ね上げ状を呈す。頸部には断面三角形の突帯が巡っている。

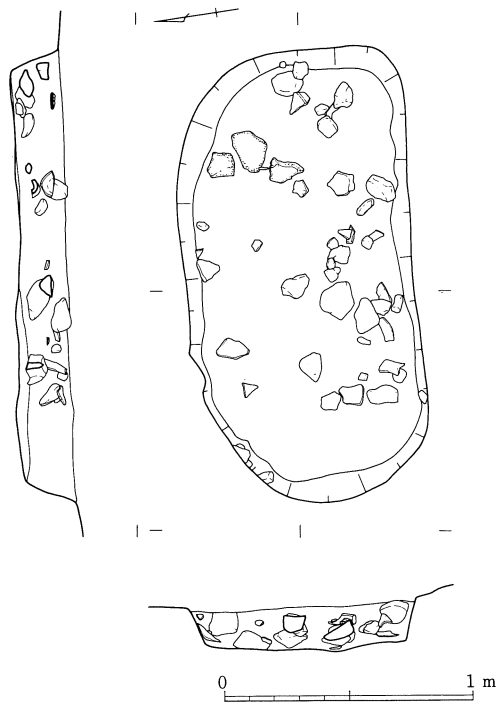
8号土坑

調査区上段の中央部より東寄りにある長径60cm、短径40cmの土坑である。

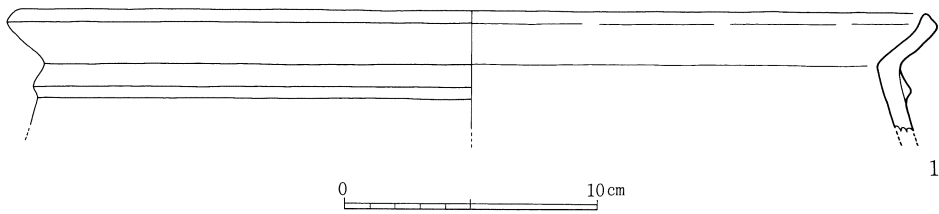
出土遺物 (第54図)

土器

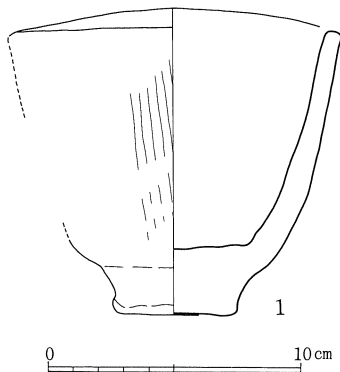
口径約13cmで器高約12cmを測る湯飲み茶碗形の土器である。



第52図 成田尾遺跡 6号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



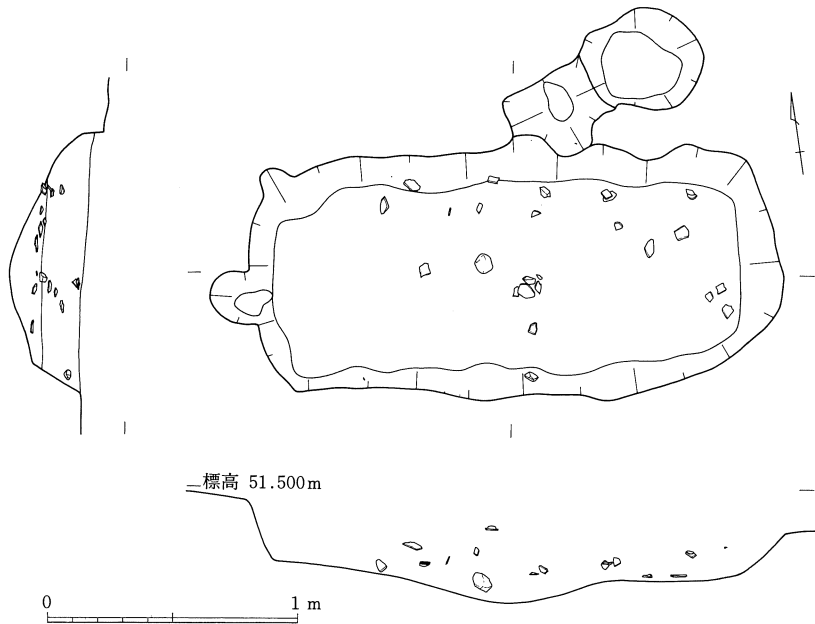
第53図 成田尾遺跡 6号土坑出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)



第54図 成田尾遺跡 8号土坑出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)

9号土坑 (第55図)

調査区上段の南東隅部、4号土器棺墓の南側に隣接する長形状の土坑である。長軸を西・東にとり、長径2.1m、短径99cm、深さ30cmを測る隅丸長方形を呈する。土坑の床面は緩かに起伏し、側壁の立ち上がりも緩かである。覆土内には小さな土器片等も包含されていた。



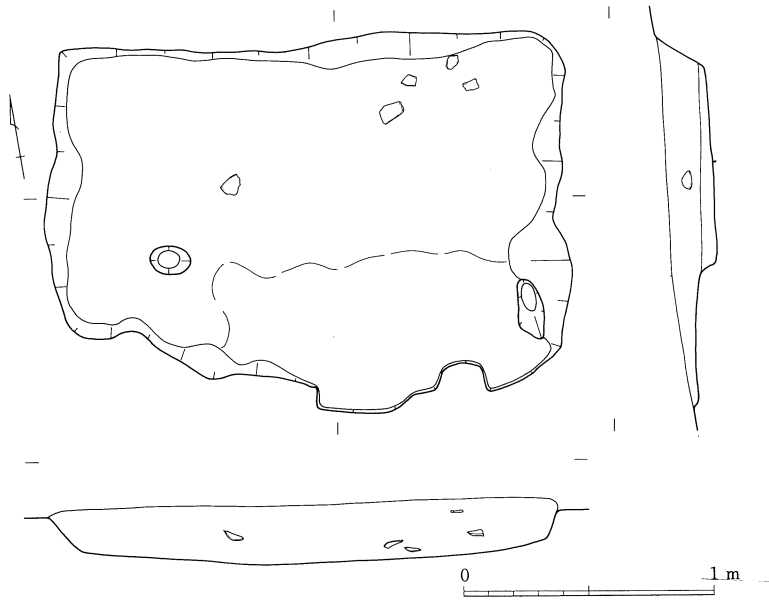
第55図 成田尾遺跡9号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)

10号土坑 (第56図)

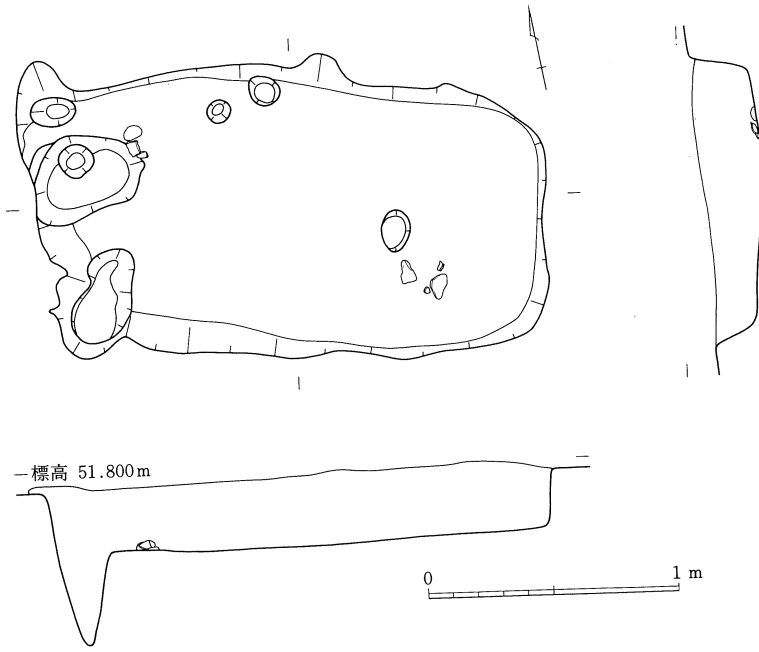
調査区上段の南東部、2号土器棺墓に隣接して10号土坑が位置している。土坑は長軸を西・東にとり、長径約2m、短径約1.5m、深さ24cmを測る長形状を呈する。南側の壁は不明瞭である。

11号土坑 (第57図)

調査区上段の中央部南端近くに所在している。長軸を西・東にとり、長径約2.1m、短径約1.2m、深さ約30cmを測る隅丸長方形の土坑である。



第56図 成田尾遺跡10号土坑実測図 (1/30)



第57図 成田尾遺跡11号土坑実測図 (1/30)

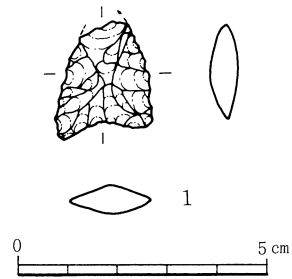
12号土坑 (第58図)

調査区上段の中央南寄りにある隅丸長方形の土坑である。長軸を西・東にとり、長径1.8m、短径1.29m、深さ45cmを測る隅丸長方形土坑である。

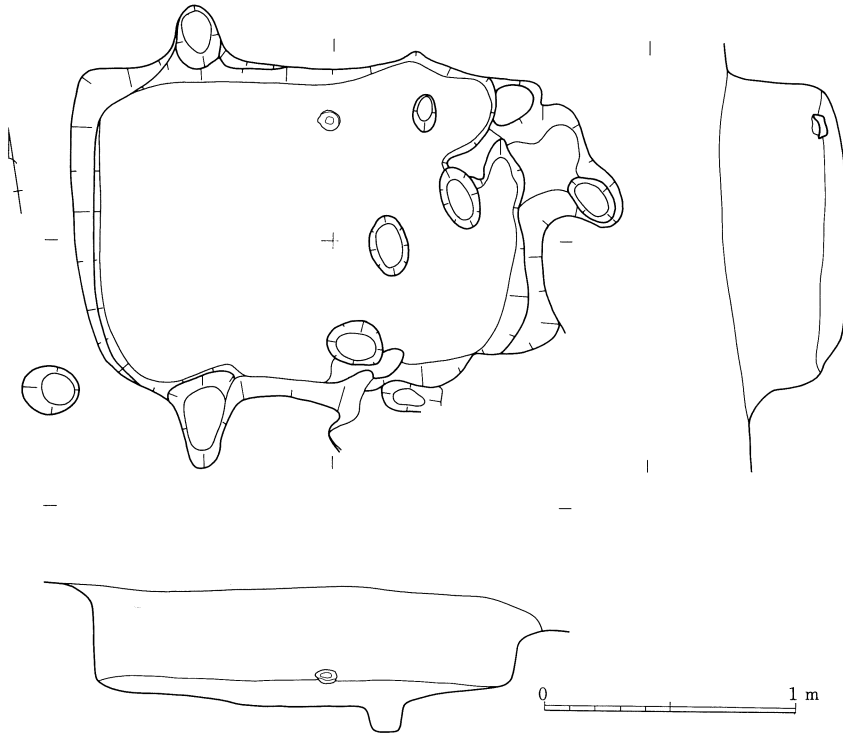
出土遺物 (第59図)

石器

1は緩い凹基式石鏃である。姫島産黒曜石製。



第59図 成田尾遺跡12号土坑出土遺物
実測図 ($\frac{2}{3}$)



第58図 成田尾遺跡12号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)

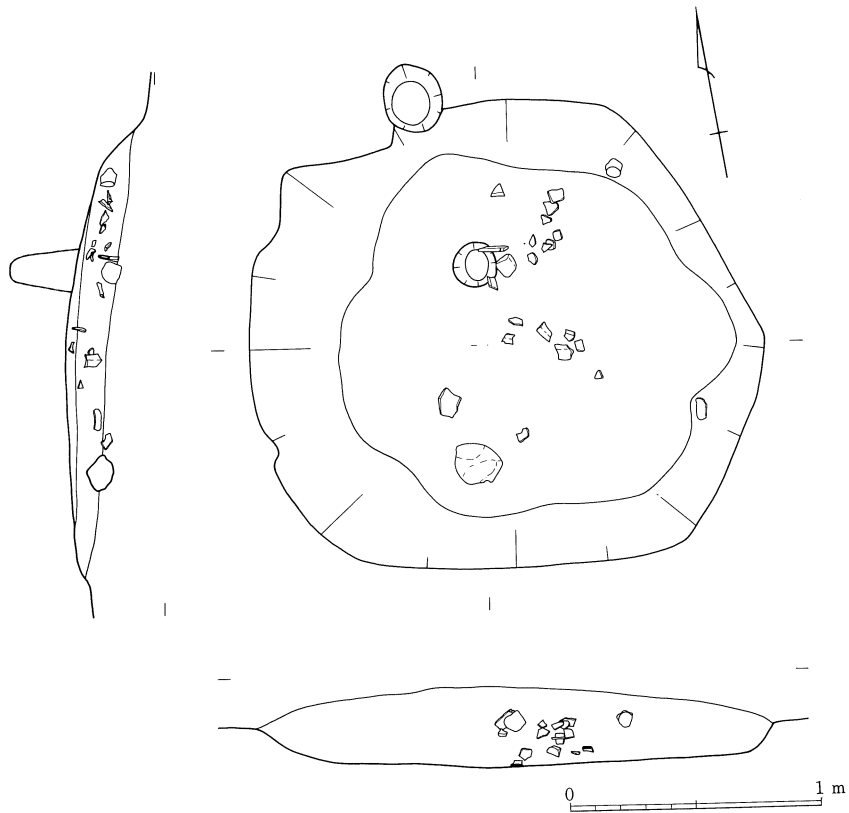
13号土坑 (第60図)

調査区上段の南寄りに位置する略円形土坑である。西・東の径は2.04m、北・南の径は1.86m、深さ約15cmを測る。土坑の床面は平坦であり、側壁への立ち上がりも緩い弧状を呈す。

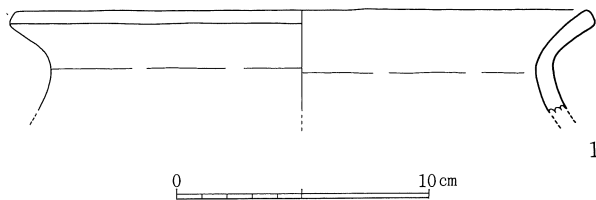
出土遺物 (第61図)

土器

1は緩く外反する口縁部の破片である。口径22.8cmを測る甕形土器である。



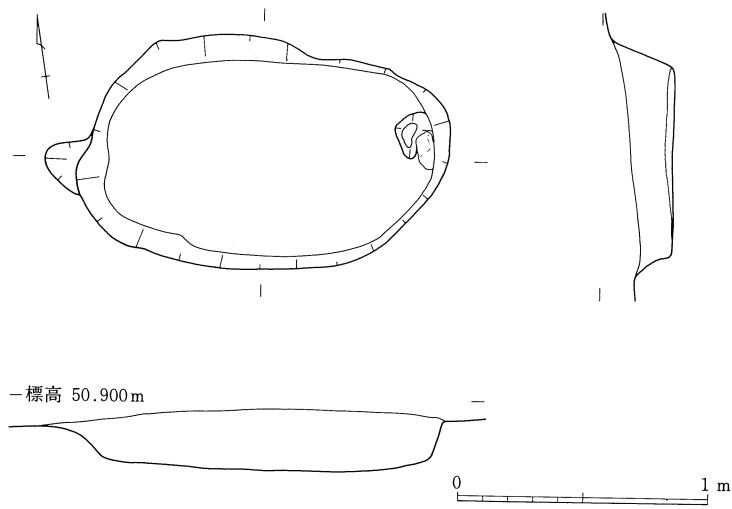
第60図 成田尾遺跡13号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第61図 成田尾遺跡13号土坑出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)

15号土坑 (第62図)

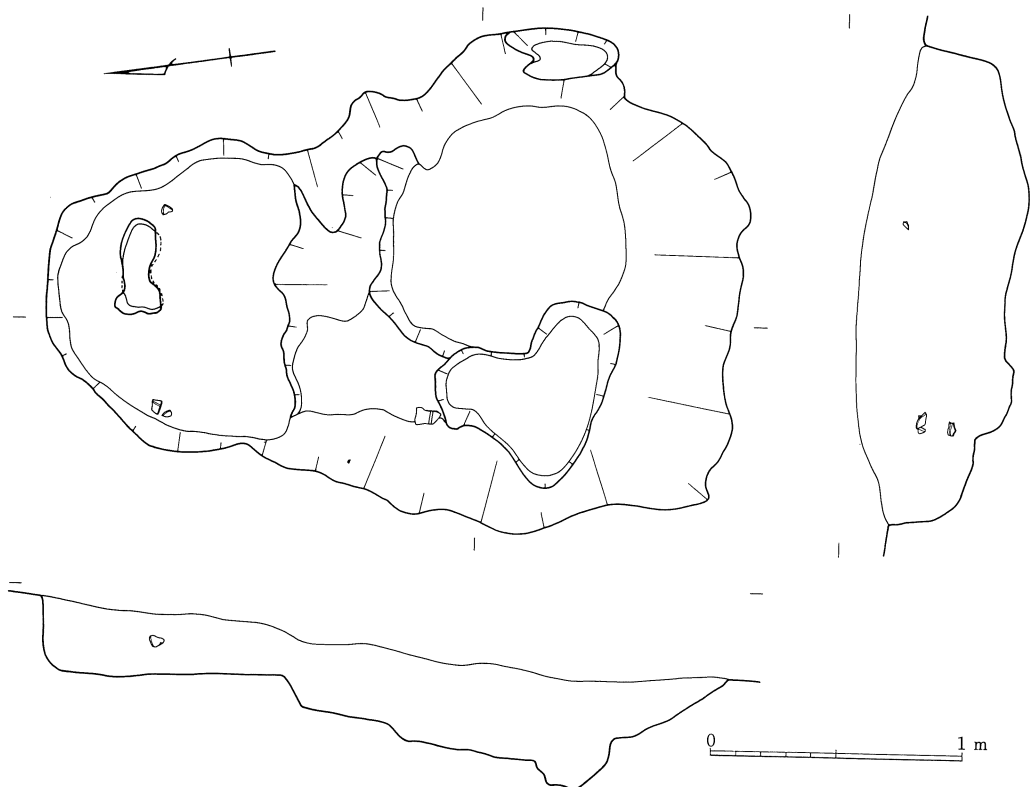
調査区上段の南端、5号竖穴の南側に隣接する土坑である。土坑は長軸を西・東にとり、長径1.47m、短径93cm、深さ24cmを測る楕円形を呈する。



第62図 成田尾遺跡15号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)

16号土坑 (第63図)

調査区上段の南端中央部に所在する。不定形状の土坑である。長軸を北・南にとり、長径2.73m、短径2.04mを呈し、深さ27cm~36cmを測る。土坑の床面は凹凸を呈し形態は不定形状を呈する。幾つかの土坑の重複かもしれない。

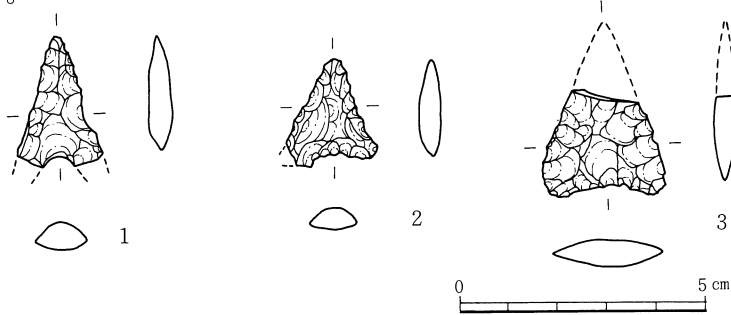


第63図 成田尾遺跡16号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)

出土遺物 (第64図)

石器

1～3は姫島産黒曜石製の石鏃である。いずれも凹基式であるが、形態や大きさにバリエーションがある。



第64図 成田尾遺跡16号土坑出土遺物実測図 (2/3)

17号土坑 (第65図)

調査区上段の西寄りに位置する土坑であり、1号堅穴の北側に位置している。17号土坑は17a、17b、17cといういずれも長軸を西・東にとる三つ以上の土坑が重複した様相を呈している。17a号土坑は長径2.34m、短径1.47m、深さ36cmを測る楕円状の土坑である。17b号土坑は長径2.85m、短径2.28m、深さ27cmを呈す楕円状を呈する。17c号土坑は長径1.86m、短径1.29m、深さ12cmを呈する隅丸の長方形状を呈する。床面から側壁へかけては緩い弧状を呈する。17c号土坑の上面は17b号土坑の貼り床で覆われていた。貼り床は3cm～5cmの黄褐色土である。これ等から、17c号土坑が17b号土坑よりも時間的に古いことが判る。

出土遺物 (第66図)

土器

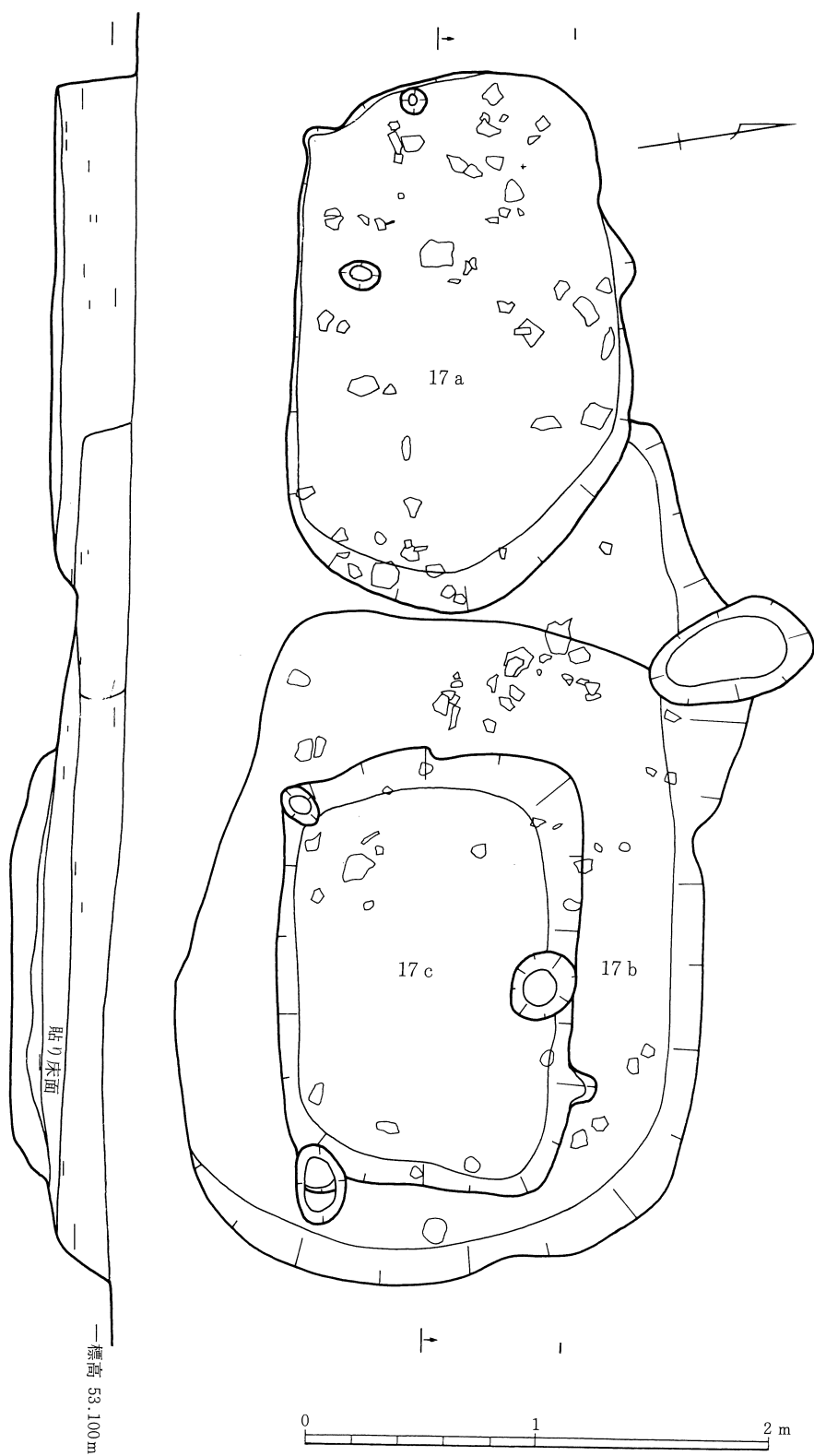
1、7は壺形土器である。1は口縁部がゆるく外反し、頸部に断面三角形の突帯が付く。7は壺の胴部である。半截竹管状の重弧文が特徴的である。2、3は鋤先状口縁を呈する須玖式土器である。2の口縁下に一条、胴部に二条の断面「M」字の突帯文が施文されている。4は跳ね上げ状の「く」の字口縁部の破片である。5は脚台、6は底部である。

石器 (第66・67図)

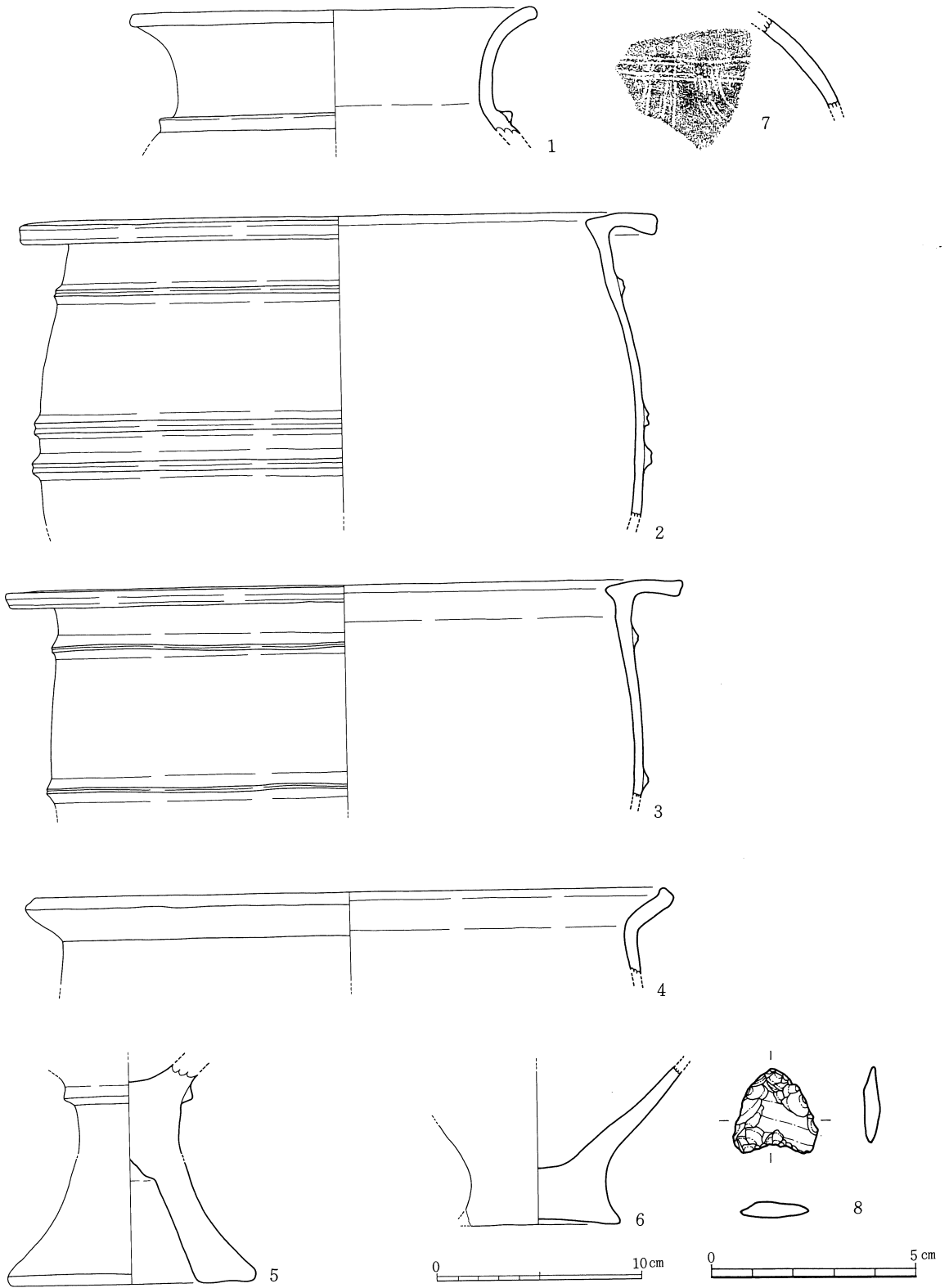
8は緩い凹基式石鏃である。石材は姫島産黒曜石製である。

9～12は17a、17b号土坑の周辺部より出土した石器である。9、10は姫島産黒曜石製の石鏃であり、10はやや大形である。

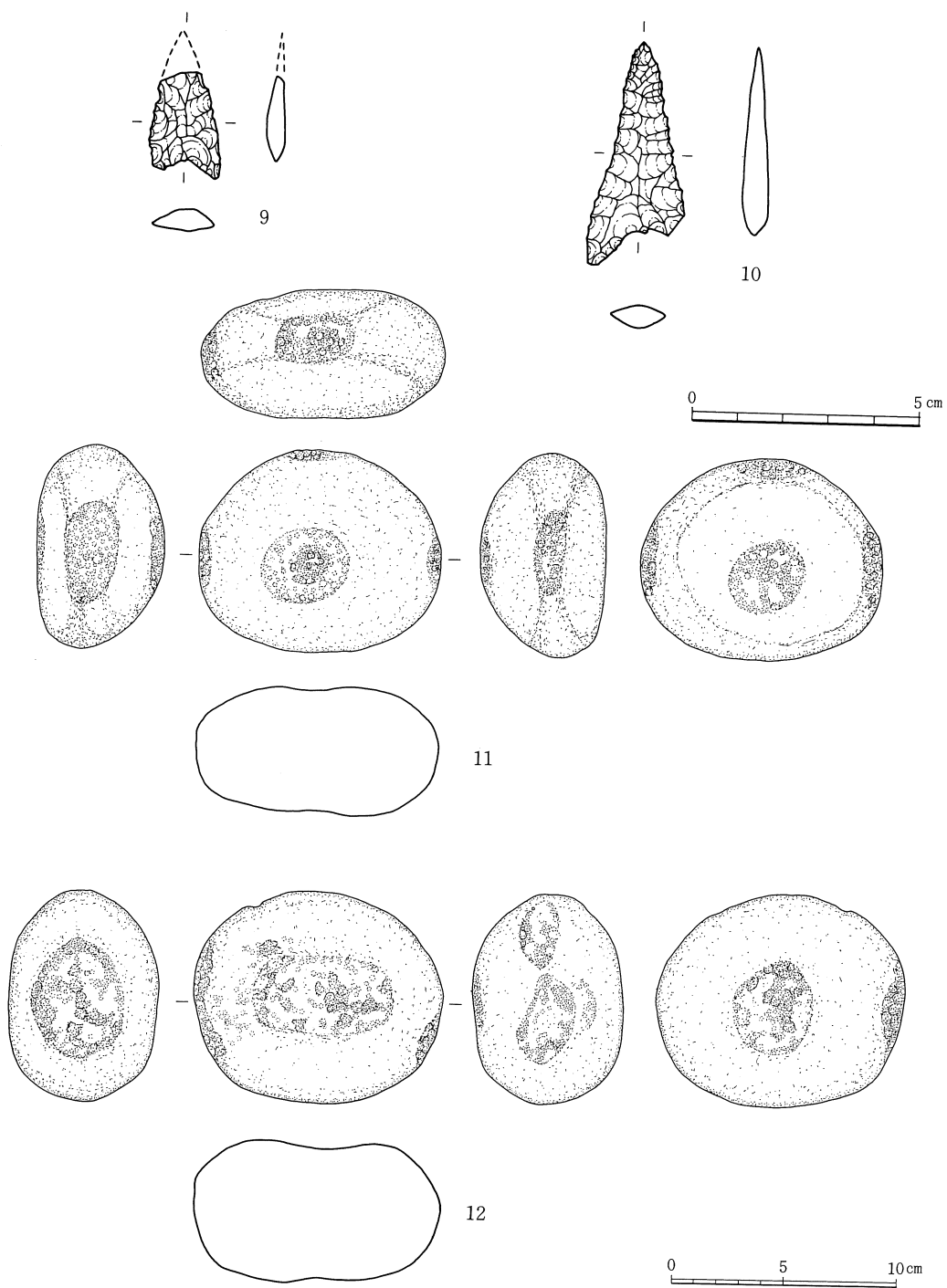
11、12は拳大の楕円状河原石を使用した敲石類である。表裏面及び側面にも敲打痕が残り、礫中央部は表裏共凹み部を形成している。11の平坦面は平滑であり、磨石としても併用利用されている。



第65図 成田尾遺跡 17a、17b、17c 号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第66図 成田尾遺跡 17a、17b 号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第67図 成田尾遺跡 17a、17b 号土坑出土遺物実測図 (1/3)

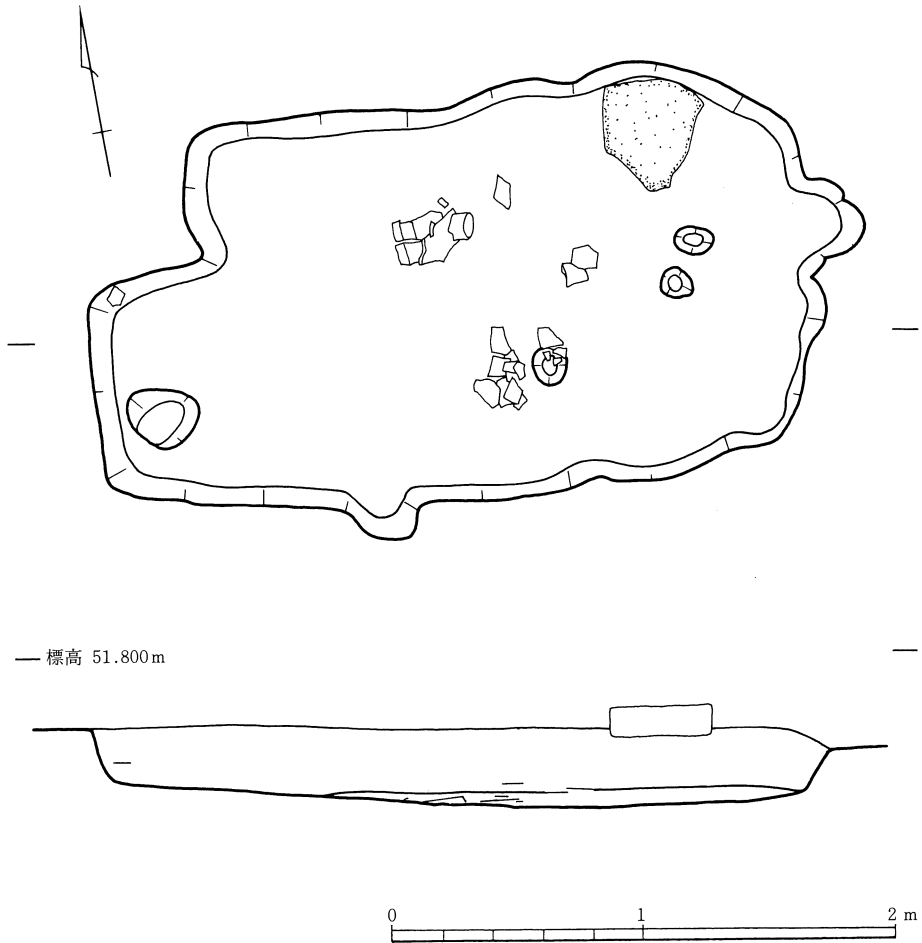
19号土坑 (第68図)

調査区の南西隅部に位置し、1号竖穴と重複している歪な長方形の竖穴である。長軸を西・東にとり、長径2.94m、短径1.65m、深さ27cmを測る。

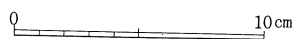
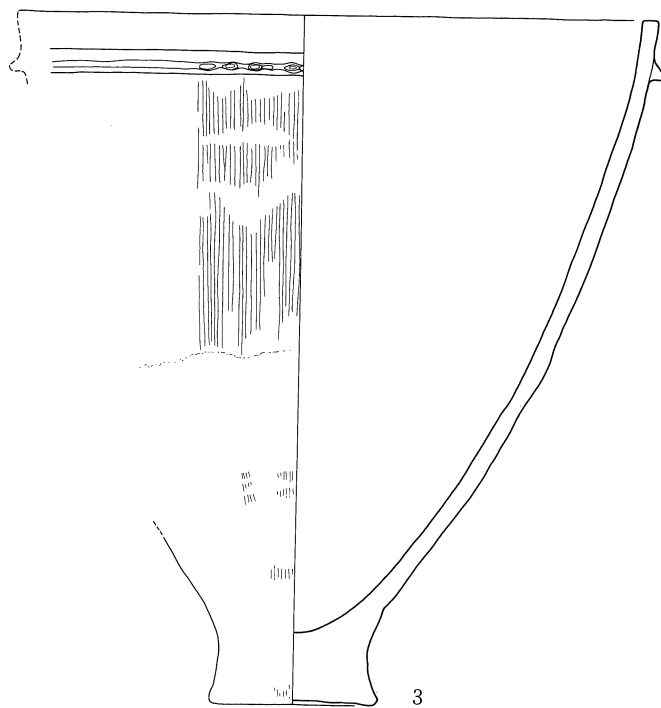
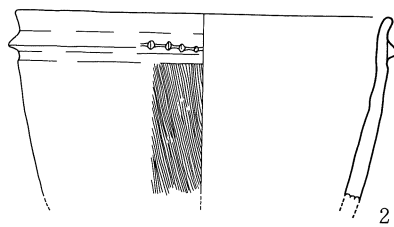
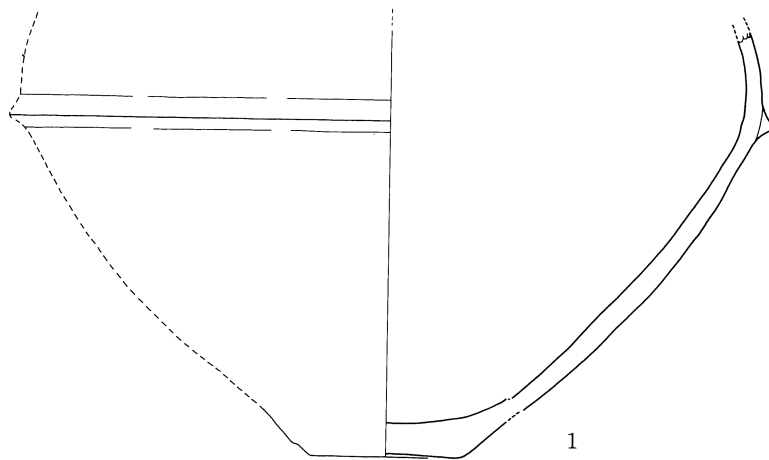
出土遺物 (第69・70図)

土器

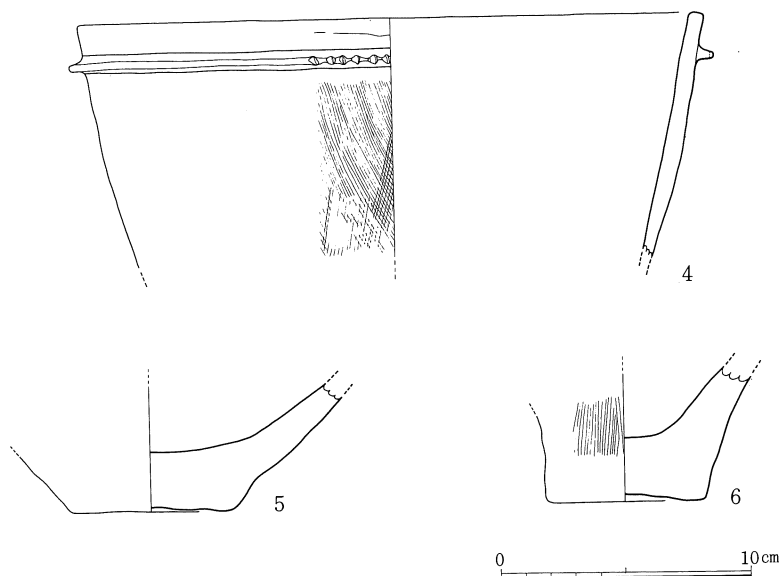
- 1は壺形土器の胴部～底部である。胴部に一条の断面三角突帯が巡る。
- 2～4は口縁下に一条の刻目突帯を施す下城式土器の甕である。2の口縁部は心持ち外反し、3、4は内湾気味に直行する。3は口径25.5cm、器高27.3cmを測る。
- 5は壺形土器、6は甕形土器の底部である。



第68図 成田尾遺跡19号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第69図 成田尾遺跡19号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第70図 成田尾遺跡19号土坑出土遺物実測図（ $\frac{1}{3}$ ）

28号土坑（第71図）

調査区上段の南西隅部に位置し、4号竖穴に重複している。土坑は長方形を呈し、長軸を西・東にとる。長径1.95m、短径1.59m、深さ15cmを測る。

出土遺物（第73図）

土器

1は壺形土器の外反口縁部である。頸部に断面三角状の突帯を施す。2、3は刻目突帯を施す下城式の甕である。2は内湾気味に直行し、3は斜行する。

4は高坏の体部と脚部の境界に断面三角形の突帯を施す。脚部には長方形の透し孔が認められる。

5、6は底部である。

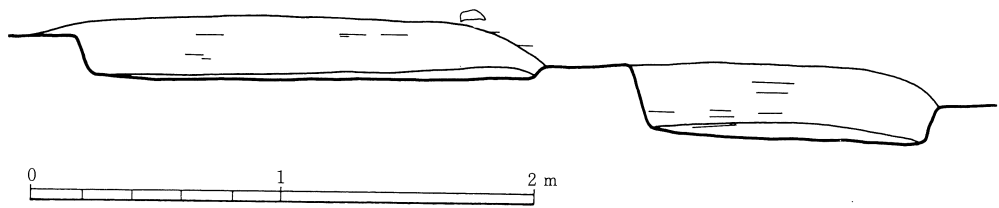
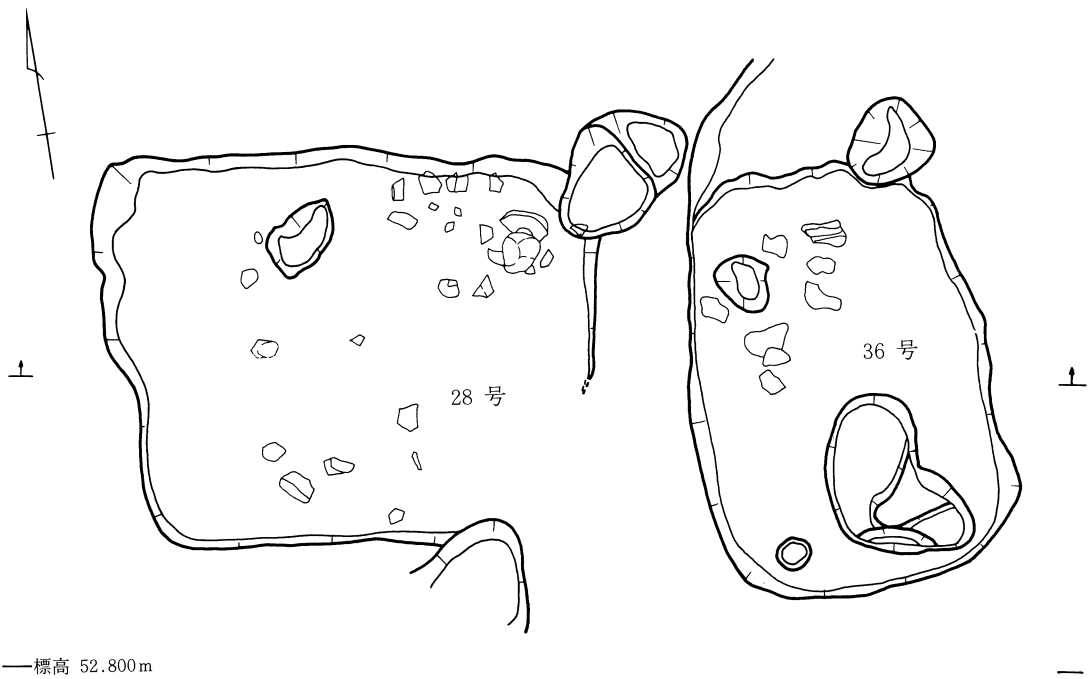
36号土坑（第71図）

28号土坑に隣接し、1号竖穴と重複する。長軸を北・南にとり、長径1.71m、短径1.2m、深さ30cmを測る隅丸の長方形状を呈する。

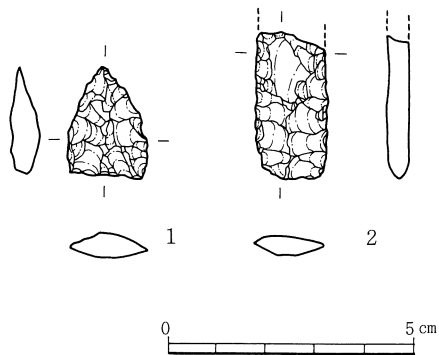
出土遺物（第72図）

石器

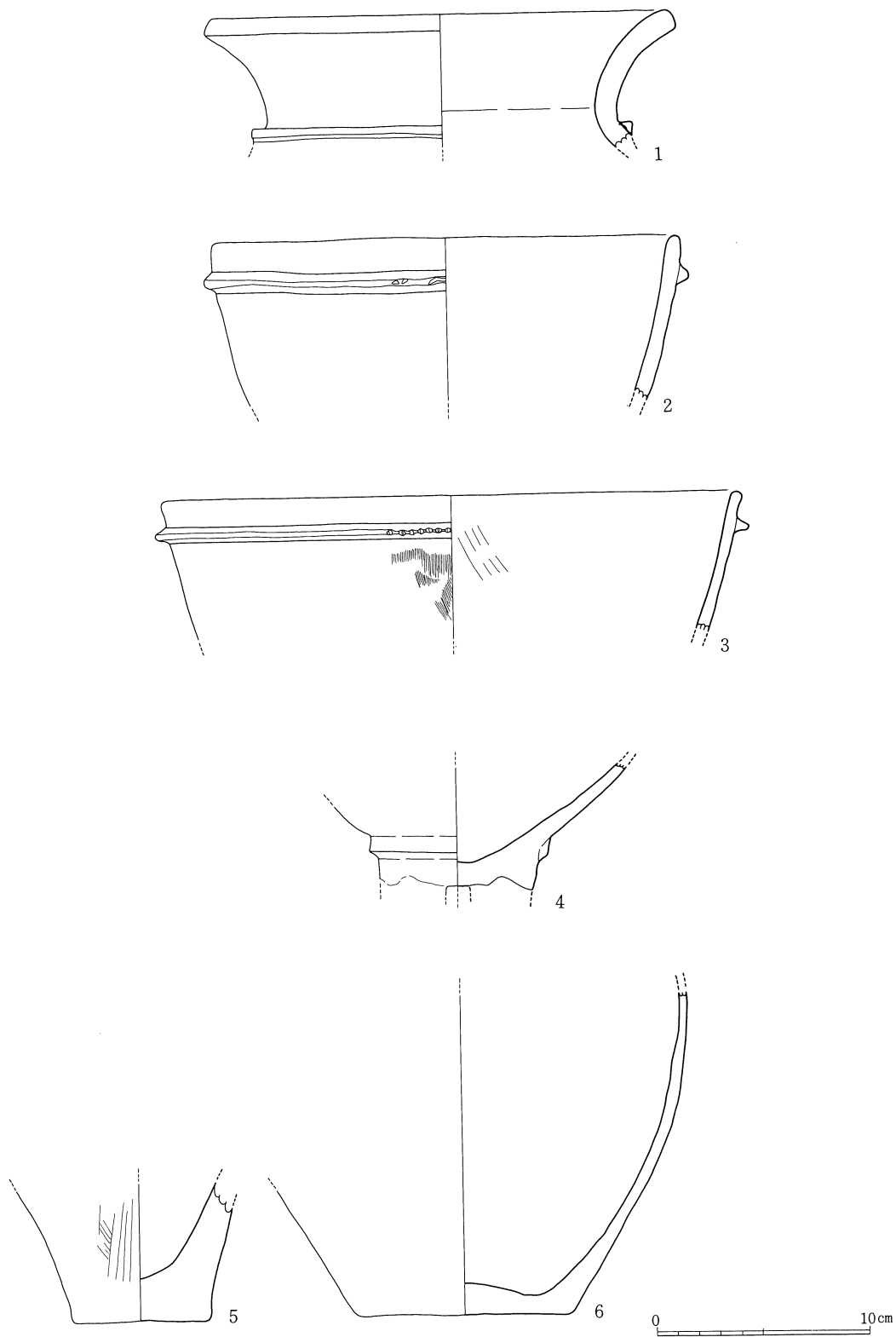
1は平基式の石鏃である。2は両面を細かく調整し、長方形に整形したヘラ状の石器である。両方とも姫島産黒曜石製。



第71図 成田尾遺跡28号、36号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第72図 成田尾遺跡36号土坑出土遺物実測図 ($\frac{2}{3}$)



第73図 成田尾遺跡28号土坑出土遺物実測図 (1/3)

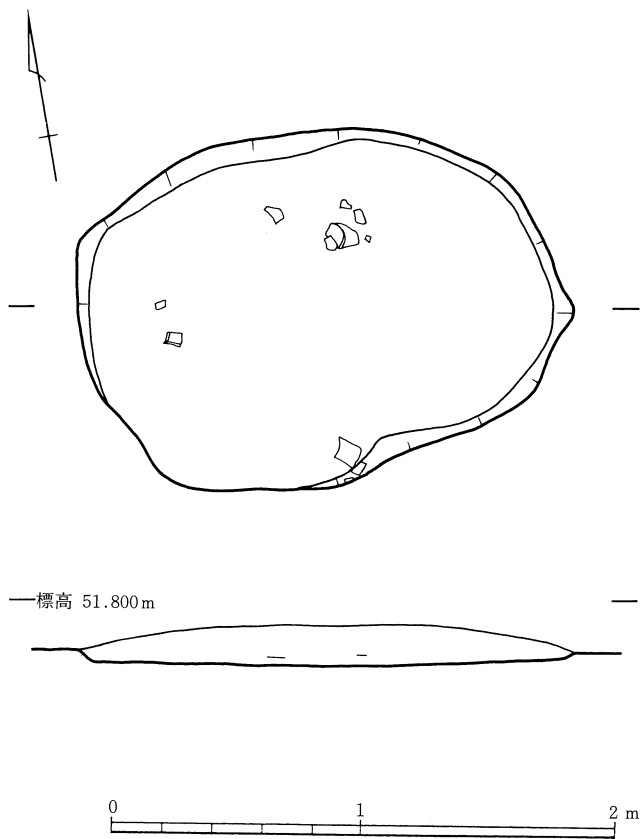
29号土坑 (第74図)

調査区上段の南西隅部に位置する楕円状の土坑である。長軸を西・東にとり、長径1.85m、短径1.41m、深さ6cmを測る。上面の削平は著しい。

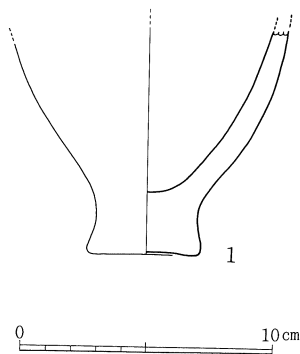
出土遺物 (第75図)

土器

甕形土器の底部片である。



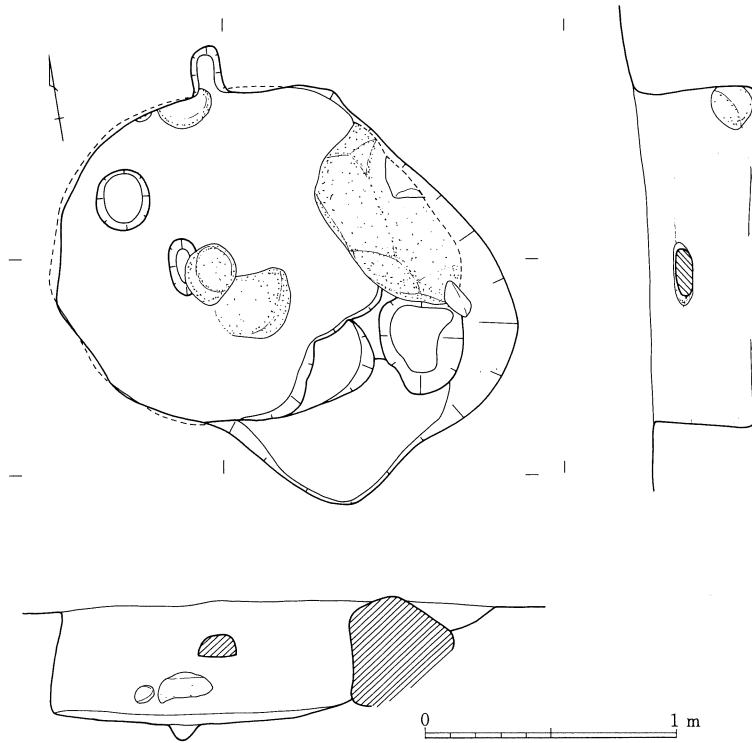
第74図 成田尾遺跡29号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)



第75図 成田尾遺跡29号土坑出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)

30号土坑 (第76図)

調査区上段の西端に位置する歪な円形の土坑である。土坑は心持ち袋状を呈しており、貯蔵穴の可能性は高い。直径1.32m、深さ48cmを測り、土坑床面中央部には小さな柱穴状のピットが確認できる。



第76図 成田尾遺跡30号土坑実測図 ($\frac{1}{30}$)

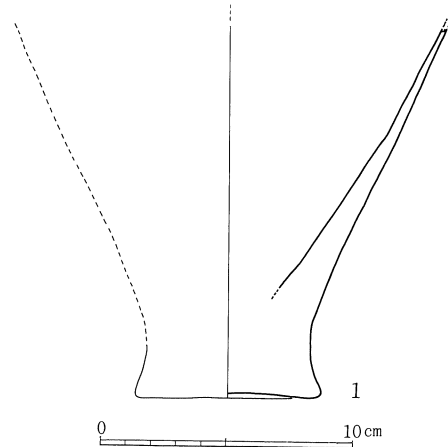
出土遺物 (第77図)

土器

1は甕形土器の底部片である。

33号土坑

調査区上段の西側中央部に位置する。2号堅穴の南側に隣接し、住居跡を想起させる柱穴群の中央部に配置されている土坑炉的な土坑である。

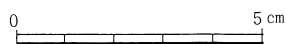
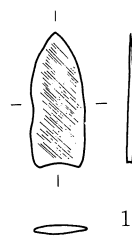


第77図 成田尾遺跡30号土坑出土遺物実測図 ($\frac{1}{3}$)

出土遺物 (第78図)

石器

両面を研磨した磨製の石鏃である。成田尾遺跡では他に類例が無い。最大長 2.7cm、幅 1.1cm を測る。



第78図 成田尾遺跡33号土坑出土遺物実測図(2/3)

34号土坑 (第79図)

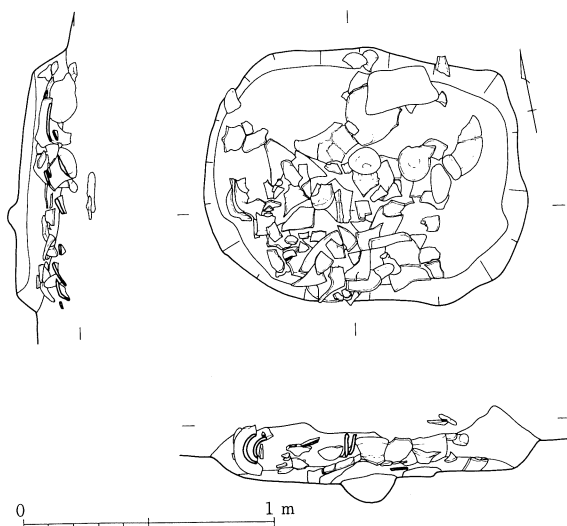
調査区上段の南西部、1号竪穴と重複する楕円状土坑である。土坑は長軸を西・東にとり、長径 1.29m、短径 1.02m、深さは 15cm を測る。床面は平坦であり、中央部よりやや南寄りに小さく浅いピットを持つ。土坑内には土器片が密集し、当該期の良好なセット関係を把握することができる。この楕円状土坑が1号竪穴遺構に伴うものかどうかは判断できない。

出土遺物

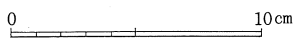
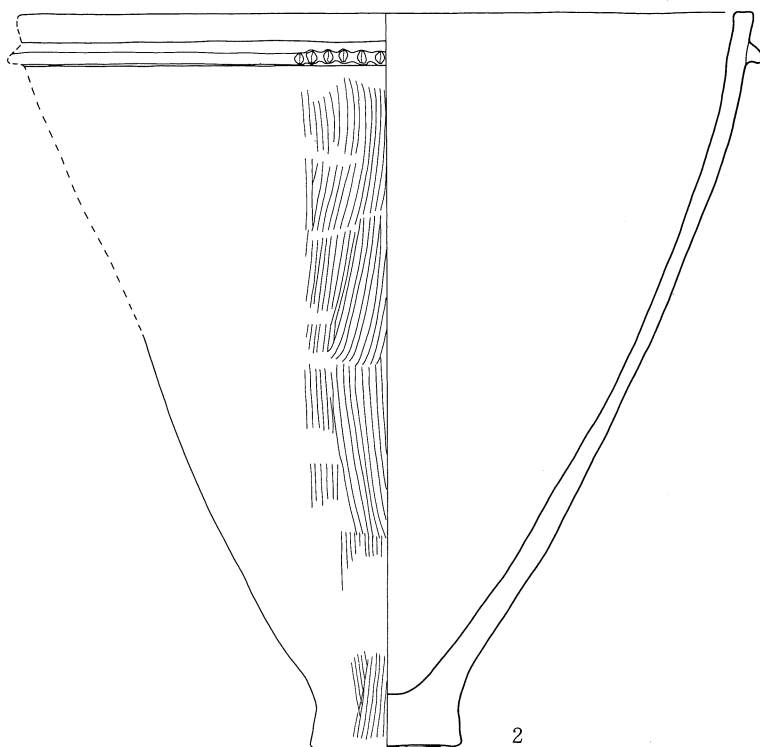
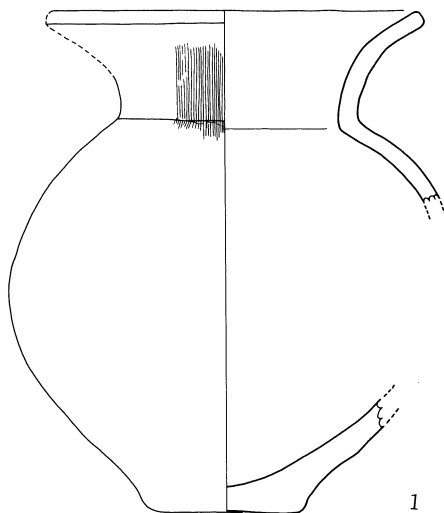
土器 (第80～84図)

1 は口径 14.7cm、底径 6cm、器高 19.8cm を測る壺形土器の考古学的完形品である。口縁部は大きく外反し、球形に誇張された胴部中央部に最大径を持つ。頸部に刷毛目を残す他は撫で調整。

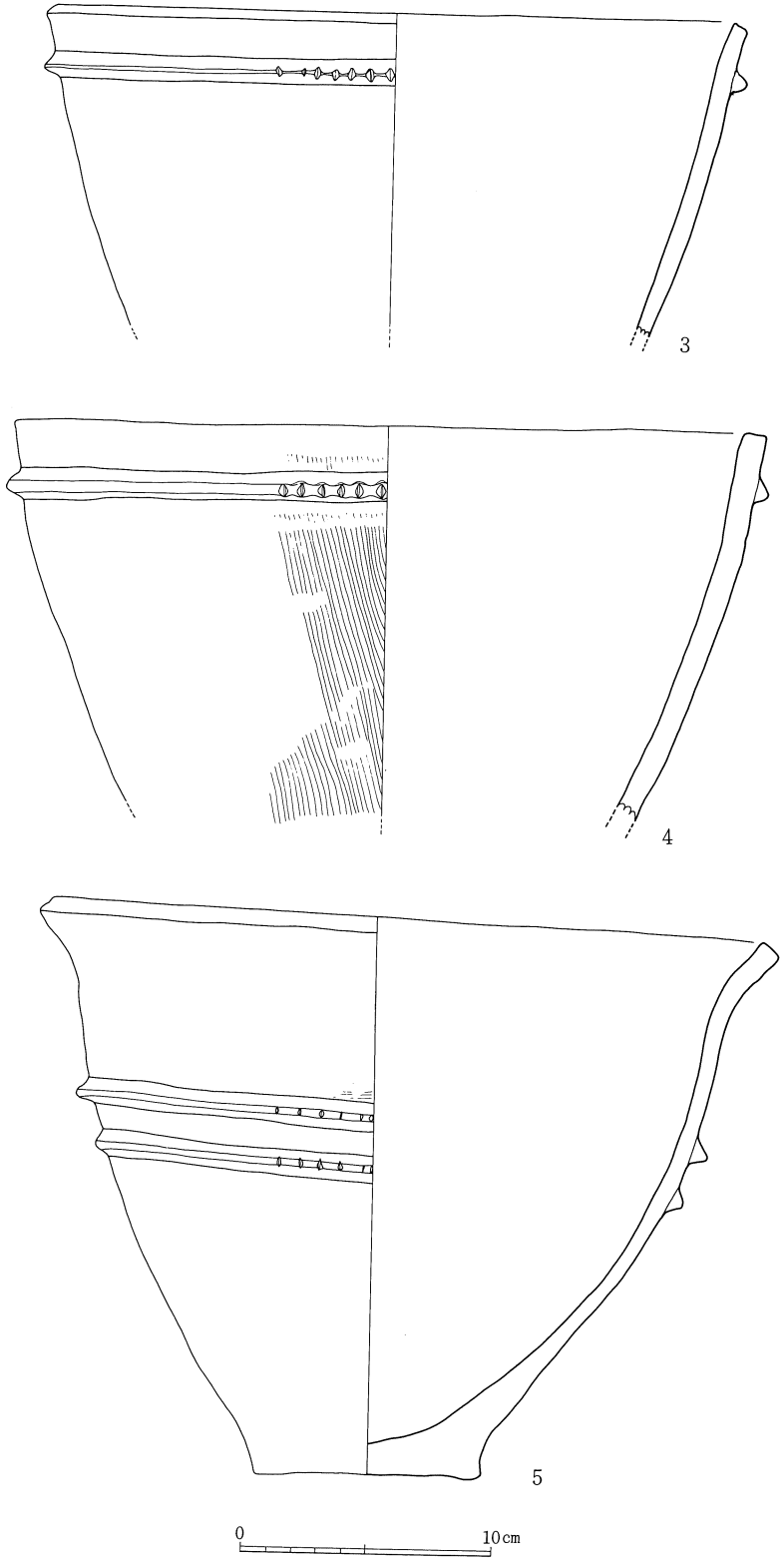
2～4 は口縁部に一条の刻目突帯文を施す下城式土器の甕形土器である。口唇部はいずれも撫で調整で心持ち凹線状を呈する。2 は口径 29.4cm、底径 6cm、器高 29.1cm を測る考古学的完形品である。



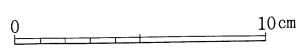
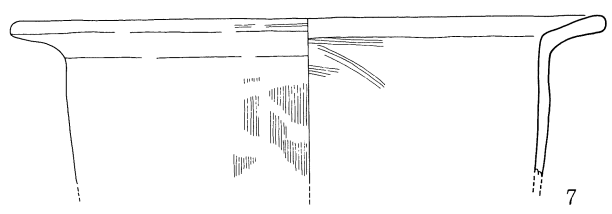
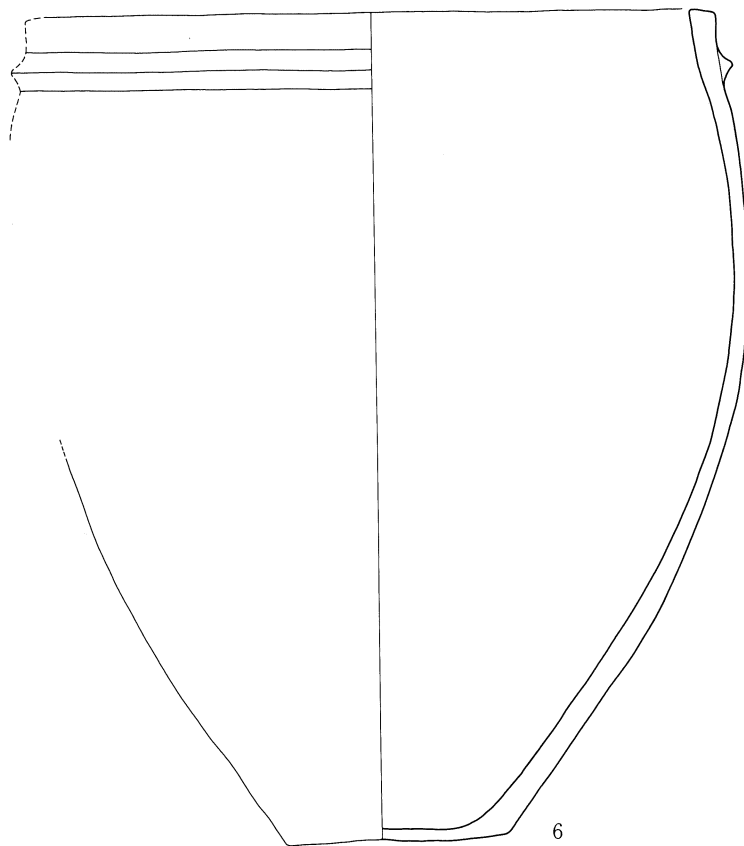
第79図 成田尾遺跡34号土坑実測図(1/30)



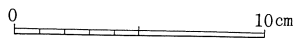
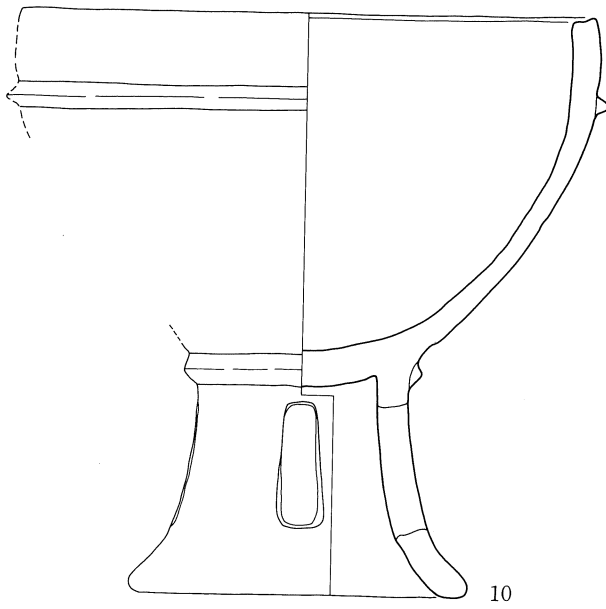
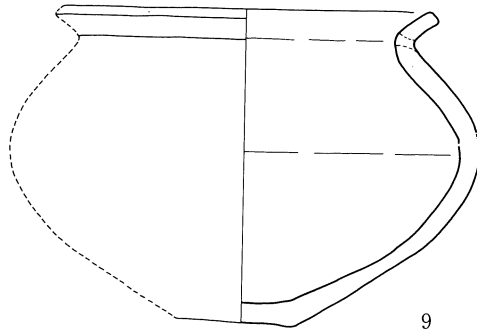
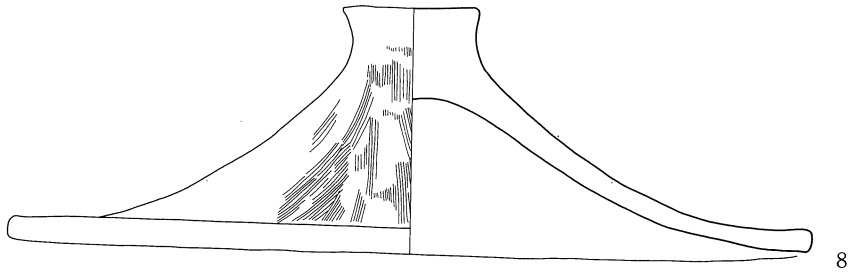
第80図 成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図 (1/3)



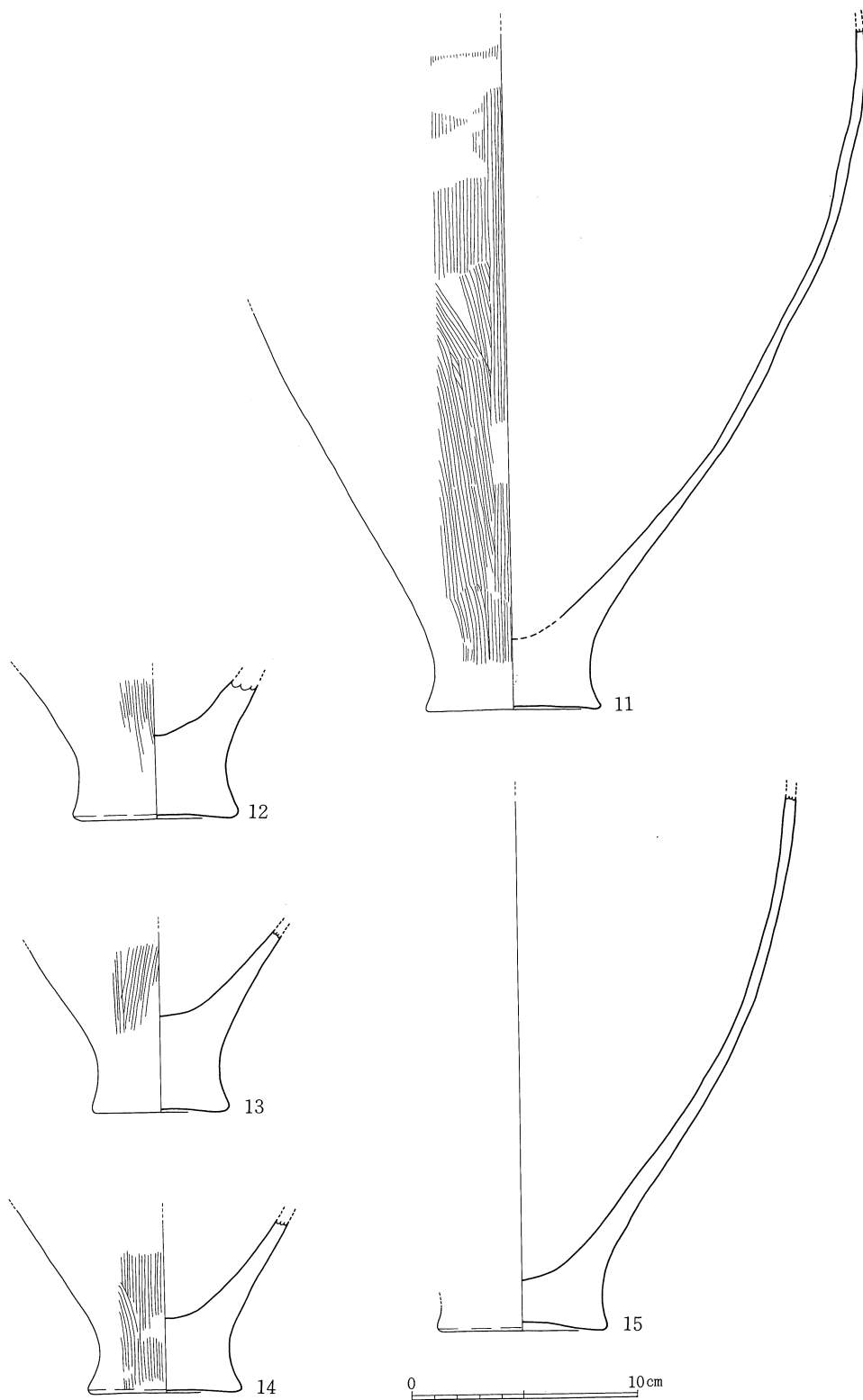
第81图 成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第82図 成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第83図 成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図 (1/3)



第84图 成田尾遺跡34号土坑出土遺物実測図 (1/3)

5は口縁部ゆるく外反し、胴部中央部に二条の断面三角形の刻目突帯を施す。口径28.5cm、底径9cm、器高22.2cmを測る復元完形品である。表裏撫で調整。

6は胴部がやや誇張され、口縁部は内湾気味に立ち上がる考古学的完形品の甕形土器である。口唇は平滑で口縁下に断面三角状突帯を施す。口径27.6cm、底径9cm、器高33cmを測る。表裏共撫で調整。

7は口縁「く」の字を呈し、胴張りのない甕形土器。

8～10はいずれも考古学的完形品である。8は蓋である。口径32.1cm、底径5.4cm、器高9.9cmを測る。表面刷毛目調整を施す。

9は鉢形土器である。口縁は短く屈曲し、胴中央部で最大径となる。口径14.7cm、底径4.8cm、器高12.6cmを測る。

10は脚台付鉢形土器である。凹線状口唇部に断面三角突帯を施し、ボール状の体部を持つ。脚部との境界にも突帯を施し、四方には隅丸長方形の透し孔がある。表裏撫で調整。

11～15は甕形土器の底部である。11～14の表面は刷毛目を残し、内面は撫で調整。15は表裏撫で調整。

ピット内出土遺物（第85～95図）

成田尾遺跡の上段、中段、下段の各調査区より検出されたピット群の総数は数千にも及ぶものである。その内、ピット内より土器片等の何らかの出土遺物が出土したものは約1,400個である。これ等がすべて、何らかの遺構に伴うものとはいえないが、遺物が検出されたピット群はその可能性が極めて高い。

出土遺物

土器

1は貝殻腹縁文を施す壺形土器の胴部上半部である。2の口唇部は半截竹管状の刺突を施し、3、4は竹管状工具で重弧文を施文している。5は鋸歯状文。6の突帯上には半截竹管状施文工具での刺突文が認められる。7の頸部には特徴的な断面「M」字状の突帯文が施されている。

8、9は壺形土器である。8の口唇部や口縁下の突帯には刻目を施す。9は直角に立ち上がる頸部が長く、口縁部でゆるく外反する。胴部は球形に誇張され、最大径は胴中央部にある。口唇部は半截竹管状の刺突を施し、胴部は横走、縦走する半截工具による沈線区画内を上・下向きの重弧文で飾る典型的な文様である。口径16.5cm、底径8.1cm、器高28.2cmを測る。

10は壺の外反口縁部であり、口径約33cmを測る。口唇部は跳ね上げ状を呈する。表面は横、縦の暗文様のヘラ研磨痕が残る。

11は壺の頸部～胴部、12は甕の胴部～底部である。胴部に一条の突帯が巡る。

13～15は口縁下に刻目突帯を施す下城式土器である。口辺部の変化には微妙な相違がある。

16、17の「く」の字屈折口縁下に断面三角状の突帯が巡る。口唇部は跳ね上げ状を呈する。



第85図 成田尾遺跡 Pit内遺物出土位置図 (1/500)

18の器壁はやや厚く、平坦部を持つ口縁下には断面三角形の突帯が巡る。

19～21は口縁部「く」の字に外反する甕である。

22は鋤先状口縁である。23は鉢形土器。

24は穿孔を施す把手部で25、26はミニチュアの土器である。

27a～30までは奈良時代末～平安時代の初め（8世紀後半～9世紀前半）頃に比定される土器群である。

27aは口径19.8cm、器高19.2cmを測る丸底である。表裏撫で調整。

27bは輪状撮みを持つ土師器の蓋である。径14.1cmを測る。

28～30は甕形土器である。29は内湾気味の口縁部で口径22.1cm、器高24cmを測り、下脹れの体部を呈する。内面は指頭状の圧痕、表面は縦長で粗い条痕が目立つ。

31～40は底部片である。31は揚げ底である。甕形土器の底部が大半であるが、35、38～40は壺の底部であろう。

土器片加工品

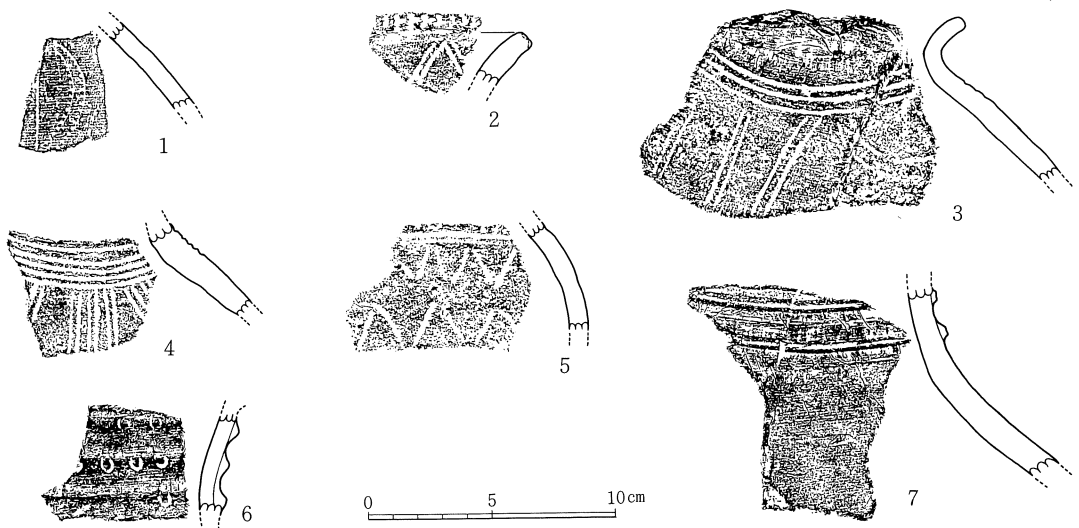
41、42は円形を呈する土器片加工品である。

土器片の周縁は研磨されている。

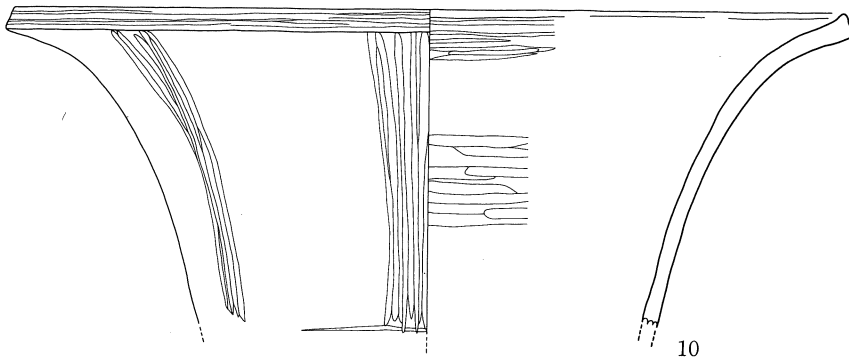
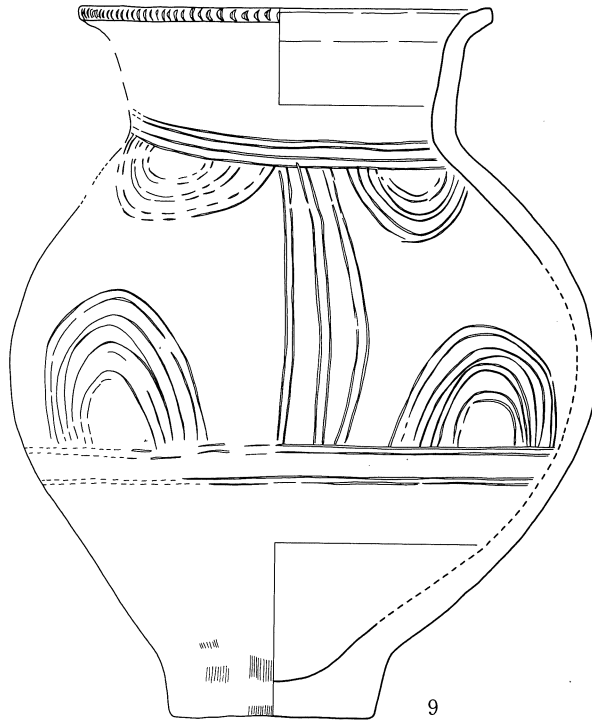
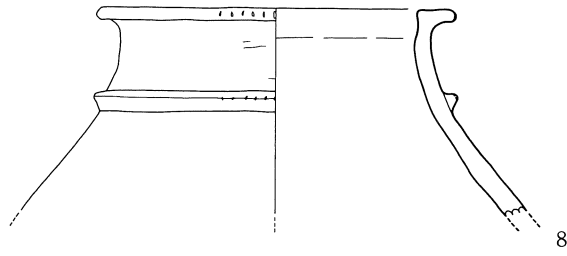
石器

43～55は石鏃である。いずれも凹基式石鏃ではあるが、その大きさや形態等が変化に富む。一般的には粗雑な作りが多い。45はチャート製、52は珪化木製、53はサヌカイト製の他は全て姫島産黒曜石製である。

56は両端が尖頭状を呈する。楔形石器であろうか。姫島産黒曜石製。

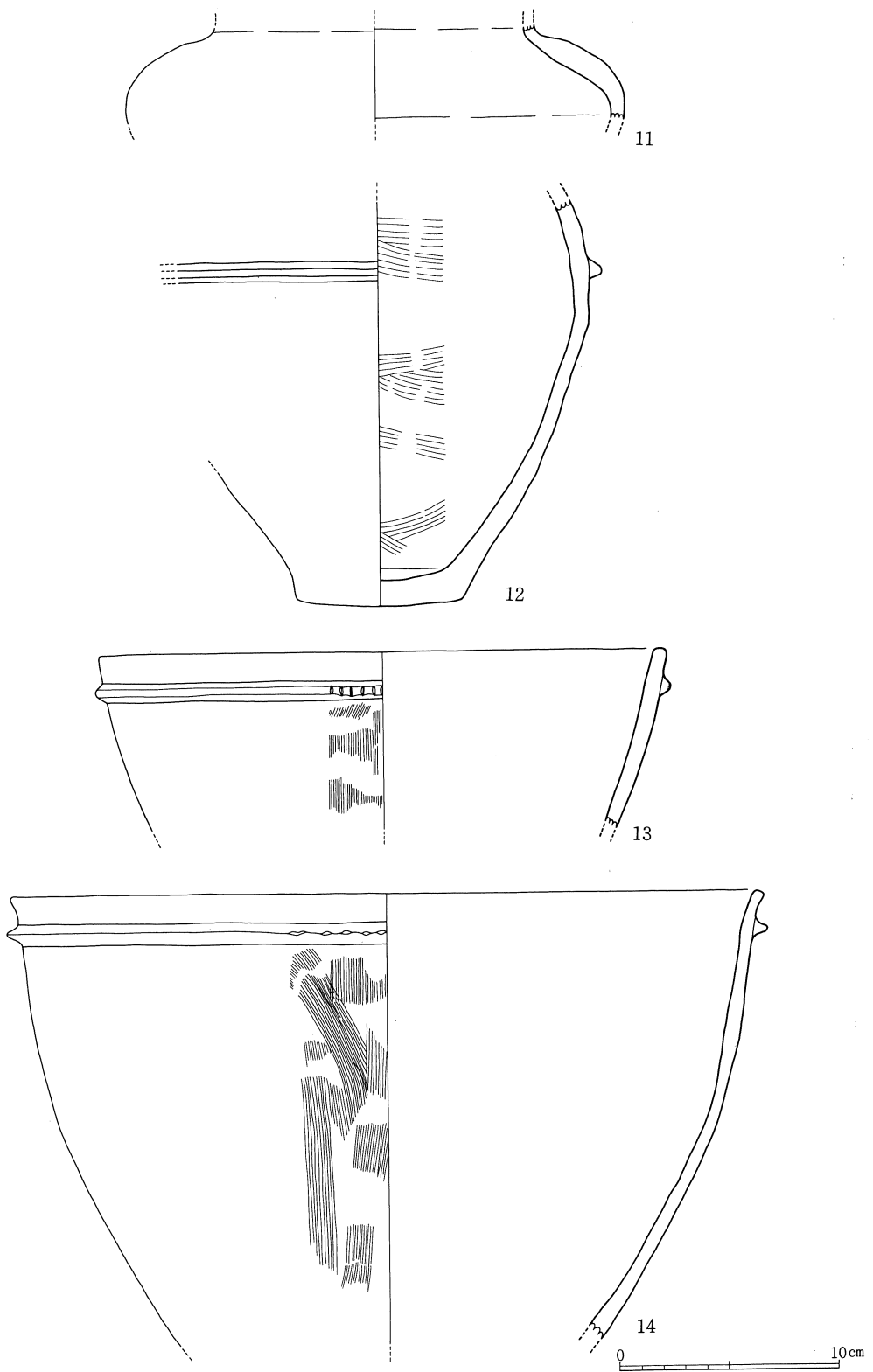


第86図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)

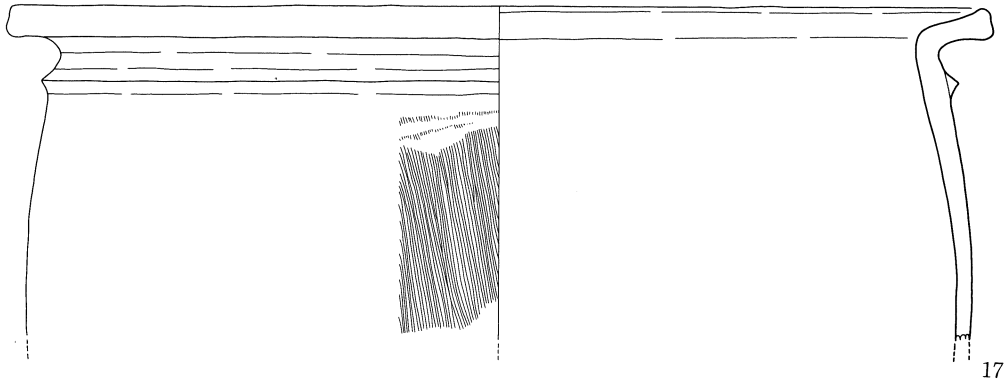
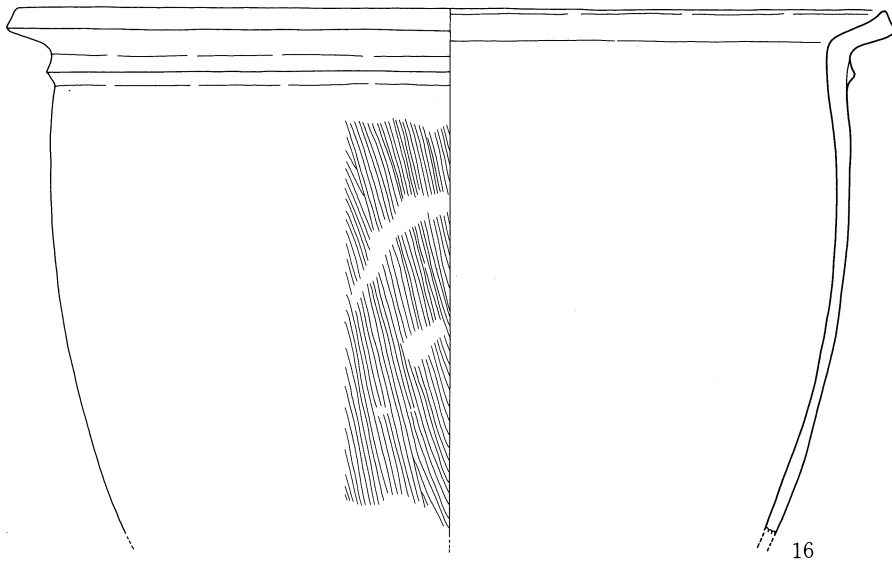
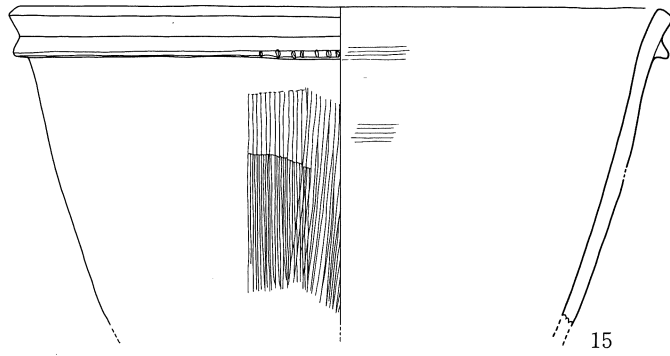


0 10cm

第87図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)

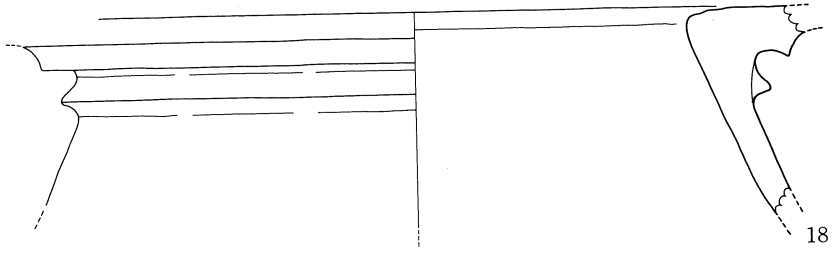


第88図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)

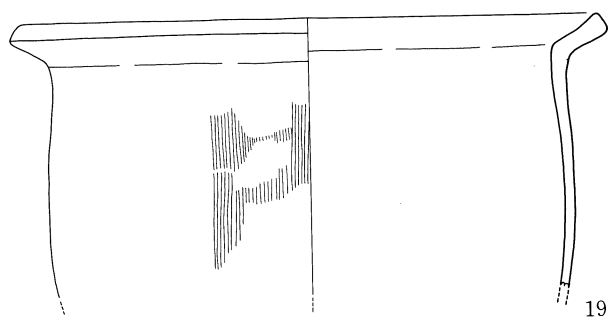


0 10cm

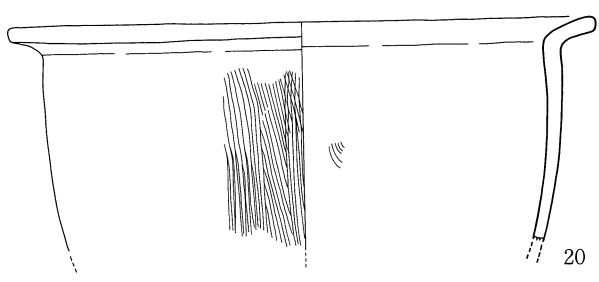
第89図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)



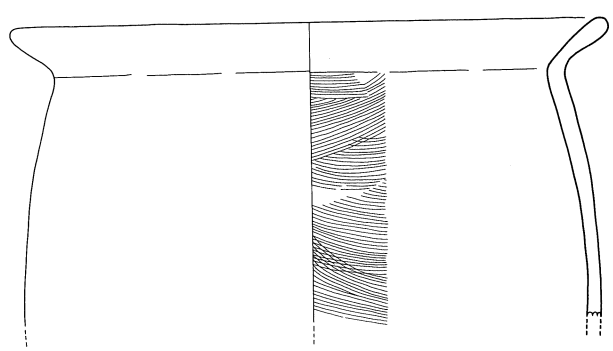
18



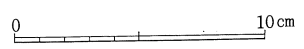
19



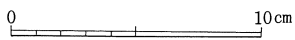
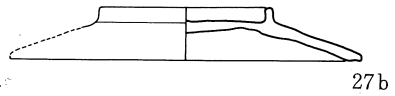
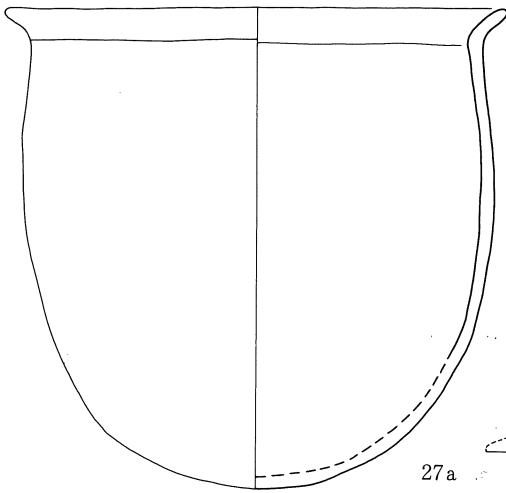
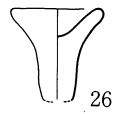
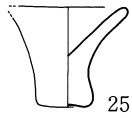
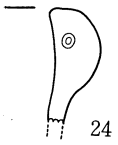
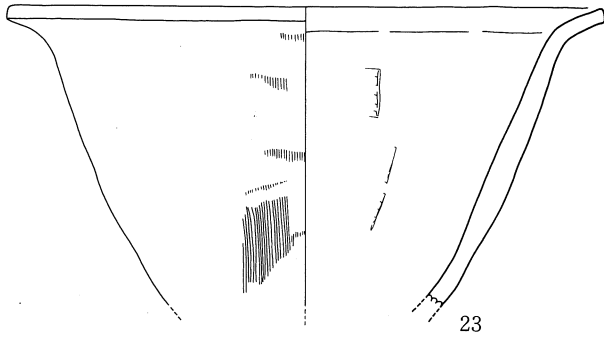
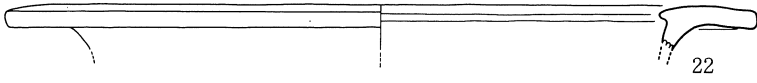
20



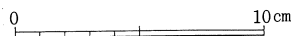
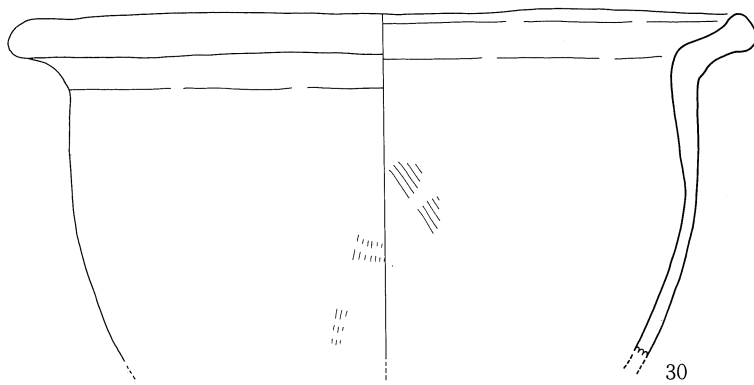
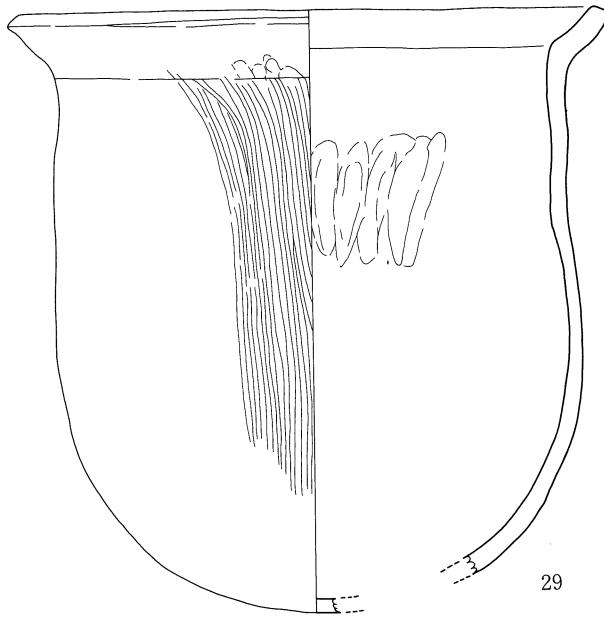
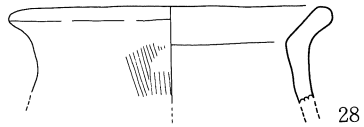
21



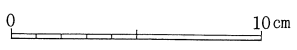
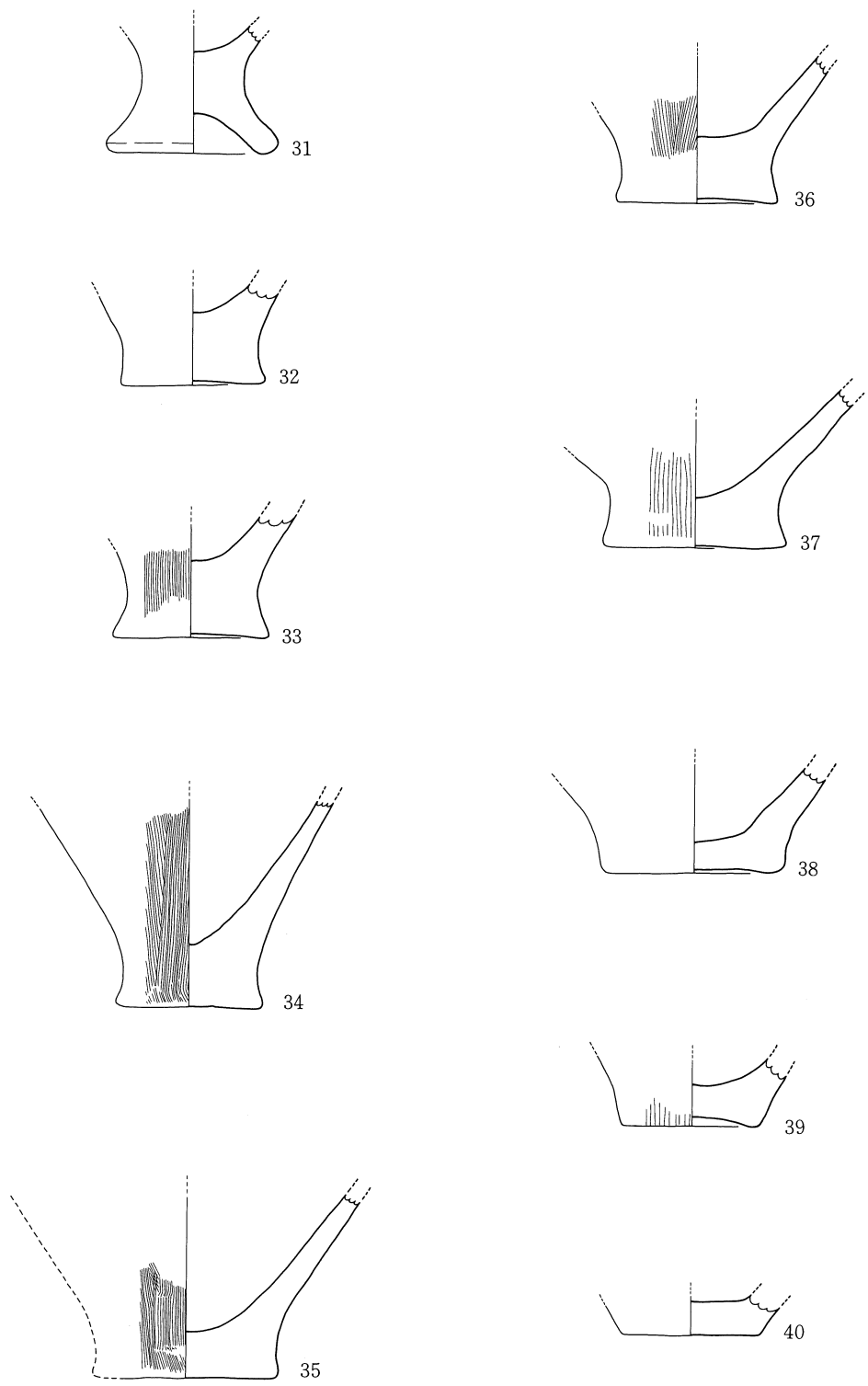
第90図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)



第91図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)



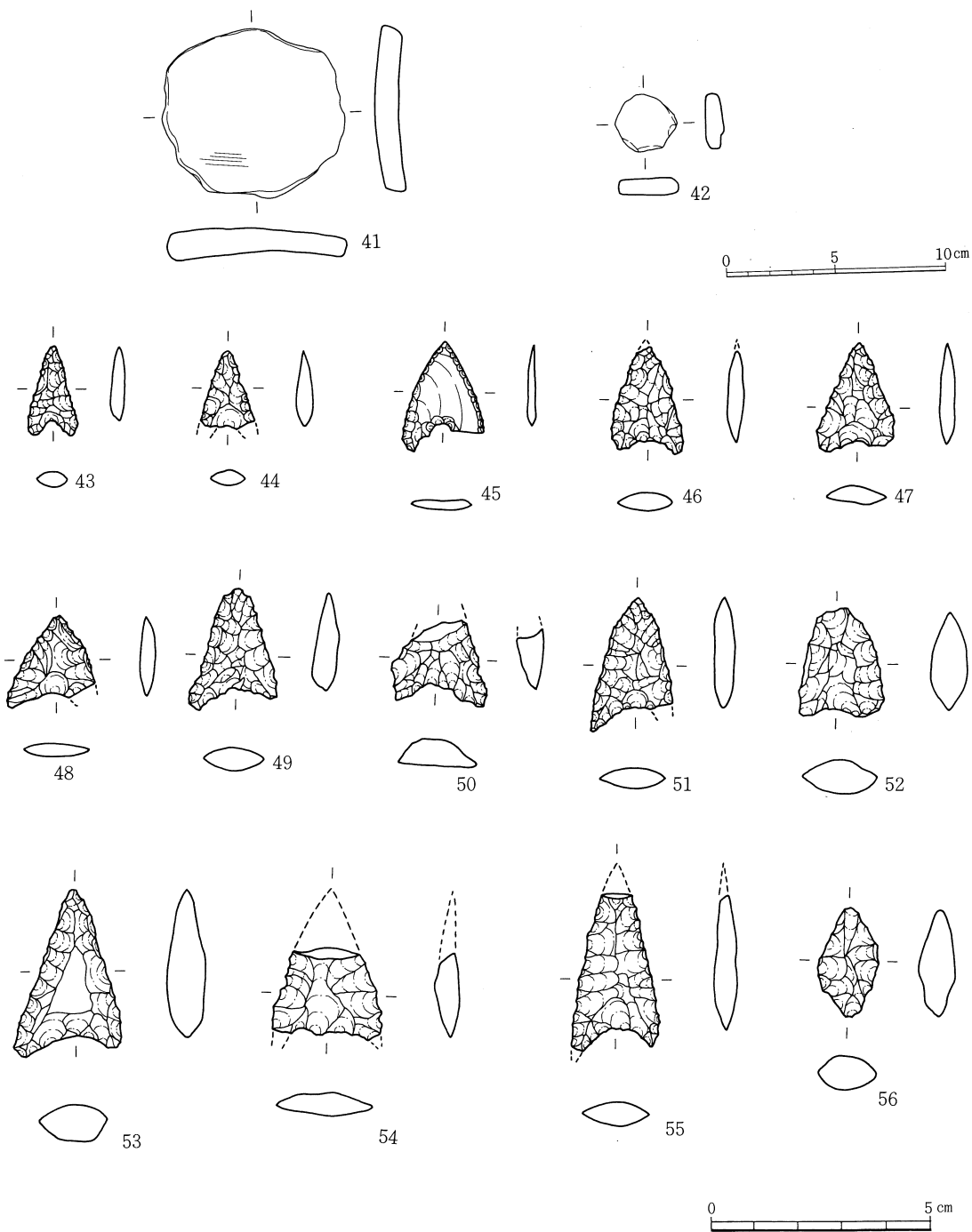
第92図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)



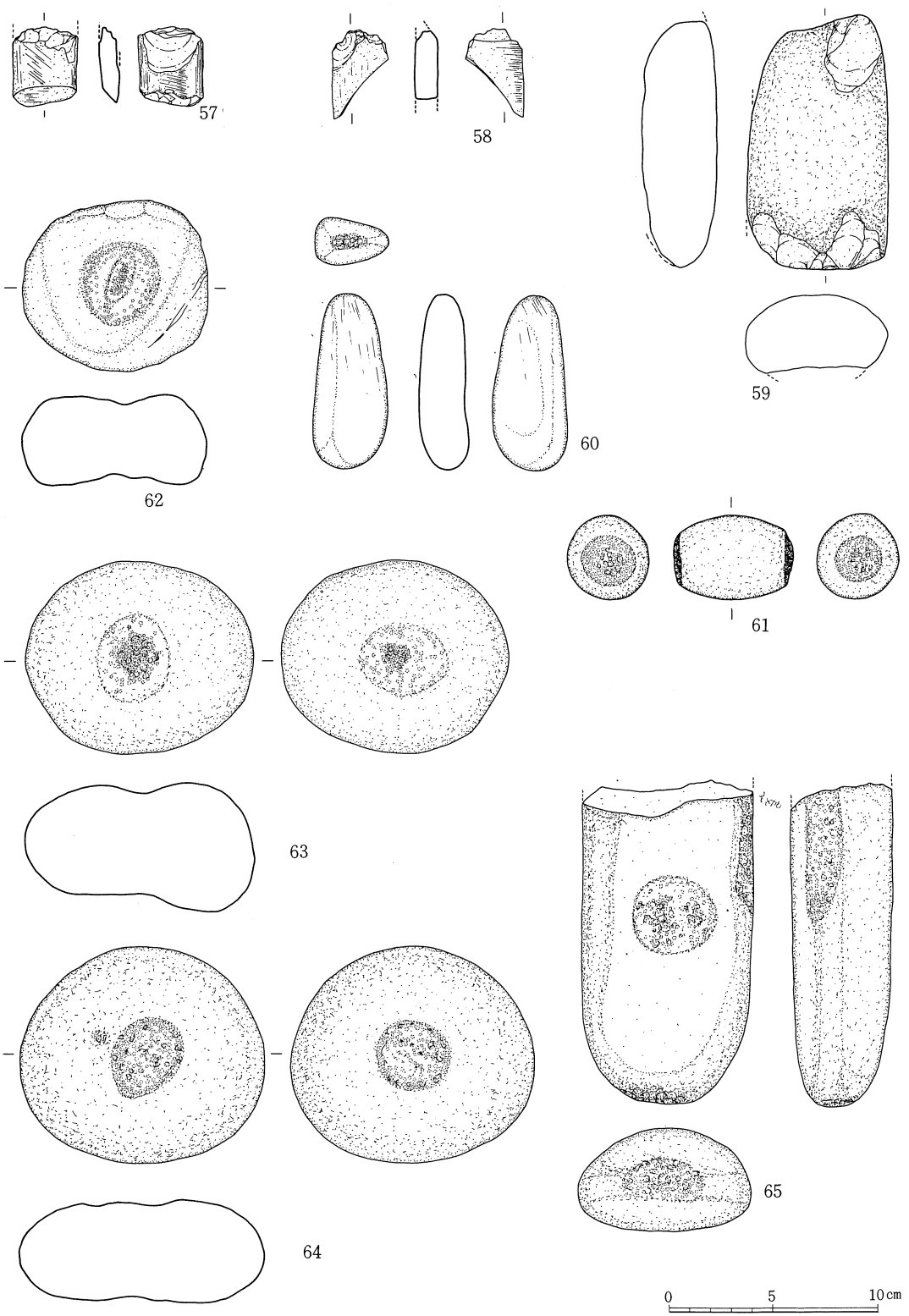
第93図 成田尾遺跡 Pit内出土遺物実測図 (1/3)

57は表裏に研磨削痕を残す片刃石斧の刃部片である。安山岩製。

58は方柱状片刃石斧の基部である。頁岩製。



第94図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3・2/3)



第95図 成田尾遺跡 Pit 内出土遺物実測図 (1/3)

59は大型蛤刃石斧の破損体部である。刃部に何度かの再生剥離を残す。

60は自然礫の両面に研磨擦痕を残し、先端部も擦痕を残すものである。用途や機能等は不明である。

61は小さな楕円状の礫の両端に敲打痕を残す敲石である。両端部が平坦になるまで使い込まれた石器である。

62～64は楕円状の拳大の河原礫の両面が凹んだ凹み石である。長い間の敲打による結果である。

65は棒状の自然礫の先端部、平面部、側縁部に敲打痕を残す敲石である。

包含層出土遺物（第96～114図）

1～6の口縁部は壺形土器を主体とし、変化に富む形態を呈する。

7～10は口縁下に刻目突帯を一条施文する甕形土器である。7は蓋として使用されたものかもしれない。10は口唇部にも刻目を施文。

11～14は口縁部が「く」の字に屈折し、13、14は跳ね上げ状を呈する。

15、16は跳ね上げ状を呈し、口縁下に断面三角状突帯を施文する。

17aはゆるく外反する口縁部を呈す。17bはミニチュアの土器。口径3.9cm、器高2.7cmを測る。17cは穿孔のある把手部。

18は口径7.2cm、底径4.8cm、器高10.2cmを測り円筒形に近い。19は小型の壺形土器体部である。

20、21は鋤先状口縁を呈する高坏の坏部片である。

22は小型の壺である。胴部上半に円形貼文、屈折胴部には断面「M」字突帯が特徴である。

23は「コ」の字の突帯を施す、扁球形の体部を持つ脚台付壺である。体部と長方形の透し孔を持つ脚部との境には三角突帯が巡る。

24～29は体部と脚部の境部である。24、26、28、は境部に三角突帯が巡る。

30～32は脚部片である。32には隅丸長方形の透し孔がある。

33は赤色塗彩した器台である。

34は壺形土器の頸部片である。器表面には2箇所原始絵画のような線刻文が認められる。左側の唐草文のような渦巻文は棟の先端の飾りであろうか。右側は長方形に対角線状の線刻があり、人物を象徴したものかどうかは判らない。内面の頸部から口縁部にかけては断面三角形の突帯が曲線的に配されている。弥生前期末頃の所産である。

35～39は壺形土器の口縁部から胴部の破片である。いずれも貝殻腹縁文を押圧し、鋸歯文や木葉状の文様を構成している。35は口縁内面に肥厚帯を持ち、貝殻腹縁文で松葉様の文様と口唇部の刺突文が特徴である。

40、41は三角突帯文と弧状の沈線文を併用する。

42～46は半截竹管状の工具で横線文や重弧文を併用する壺の胴部片である。

47、48は太い粘土を貼り付け、2箇所穿孔を持つ把手部である。48は赤色塗彩土器。

49、50は弱い鋤先状口縁を呈し、口唇部には鋸歯状文が施されている。49の口縁部には貼り付け円文が残る。

51、52の口縁部は「く」の字に垂れ下がり、鋸歯状文や波状文が施文されている。

53～55は奈良時代末～平安時代初めの土器類である。内湾気味の口縁部に、心持ち下脹れの体部を持つ。8世紀後半～9世紀前半頃の所産であろう。

56～136は底部片である。いずれも平底及び心持ち揚げ底状を呈する。56～116は甕形土器の底部。117～136は壺形土器の底部である。

土器片加工品

137～148は土器片の周縁を磨り削り、歪な円形状に整形された土器片加工品である。大きさは直径3cm～7.8cmまで大小があり、重さも7g～82gの幅を持つ。

装飾品

150、151は碧玉製の管玉である。150は長さ1.3cmで幅8mm。151は長さ7mmで幅8mmを測る。穿孔した穴は150に比べ151はより細い。

石器

149は流紋岩製のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、一辺に刃潰し加工を施す。旧石器時代の所産である。

152～180は石鏃の完形及び破損片である。152は平基式の他は全て凹基式タイプに属する。石鏃は大きさや形態等にもバリエーションが豊富である。一般的に粗雑な作りであり、173が安山岩製の他は全て姫島産の黒曜石製である。

181～184は剥片の一端に加工を施す削器及び尖頭器類である。石材は姫島産黒曜石製。

185、186は石包丁の剥片である。両方とも表離研磨され、一辺を刃部とする。185は2つの穿孔が認められる。

187は方柱状片刃石斧の基部片である。研磨削痕が平坦面に横走する。

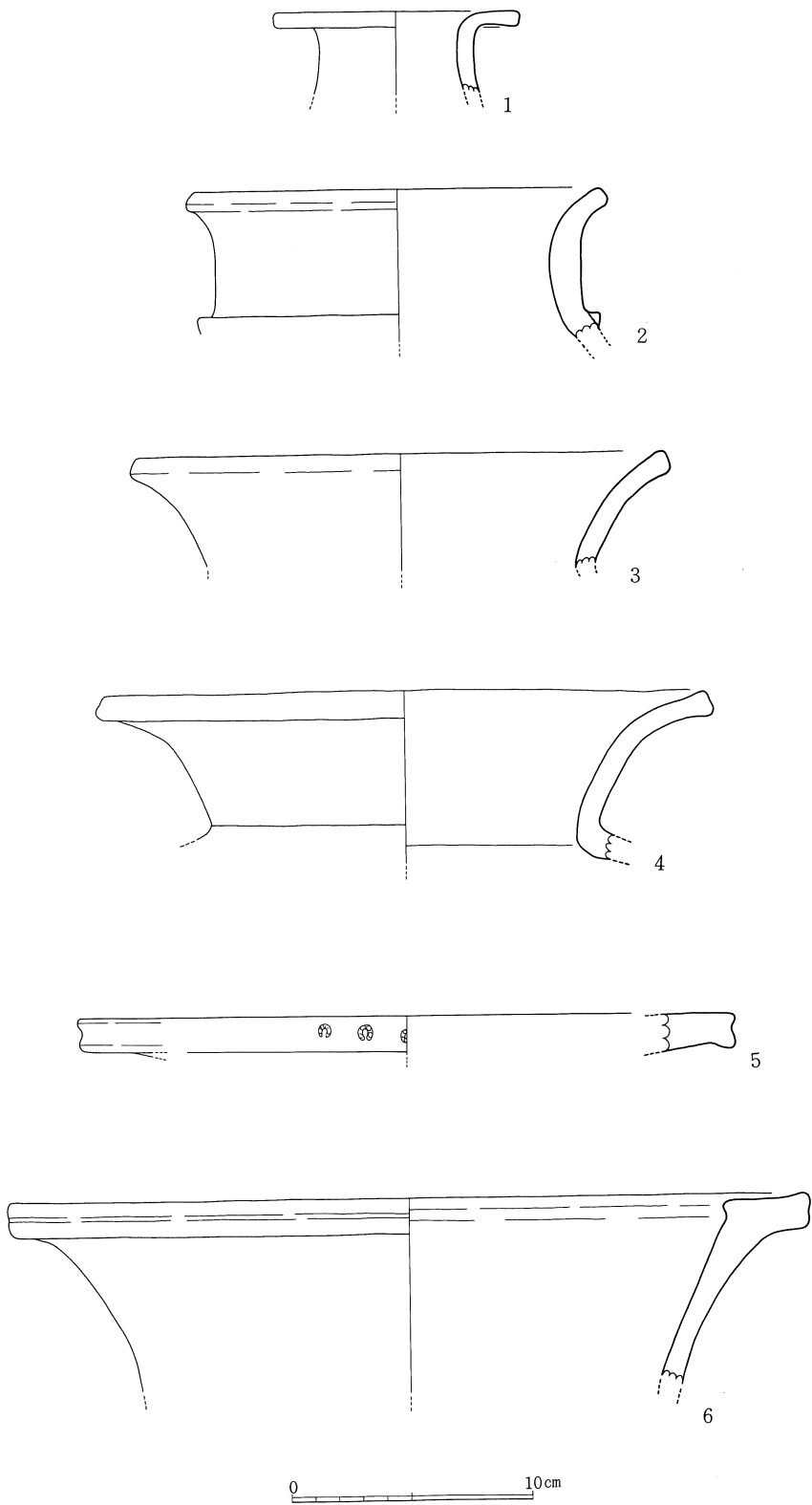
188、189は扁平片刃石斧である。表裏面及び側面に研磨削磨を残す。

190は定角式の石斧。191～193は磨製石斧である。191は大型石斧の基部、192、193は蛤刃石斧である。

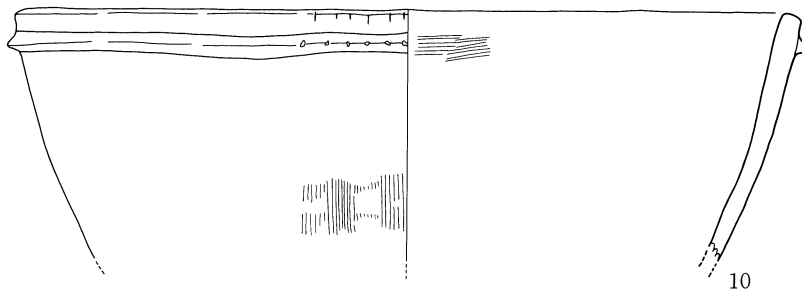
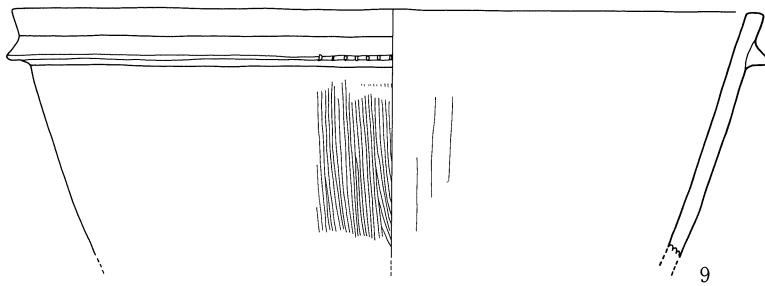
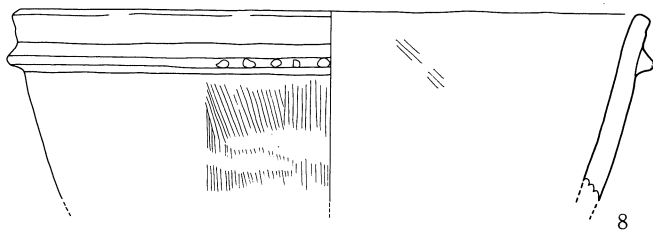
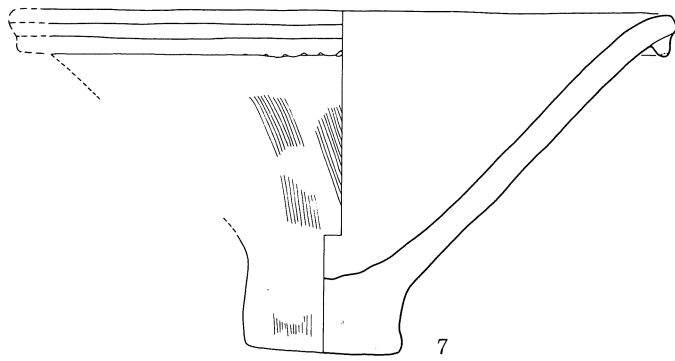
194は断面紡錘形を呈し、両辺の一部を心持ち打ち欠いたものである。石剣の未製品であろうか。

195は扁平な河原礫の表裏面を研磨し、先端基部にも研磨削痕を顕著に残す。石刀等の未製品であろうか。用途や機能は不明である。

196は河原礫を研磨して表裏、側面等を磨り削った用途不明の石器である。砥石かもしれない

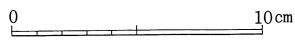
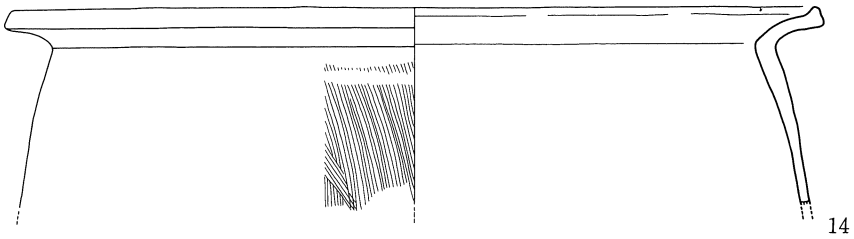
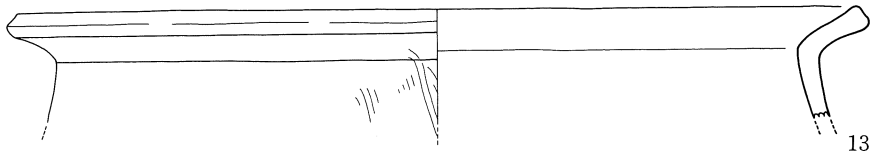
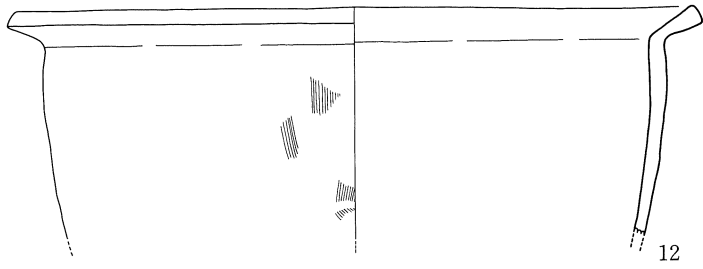
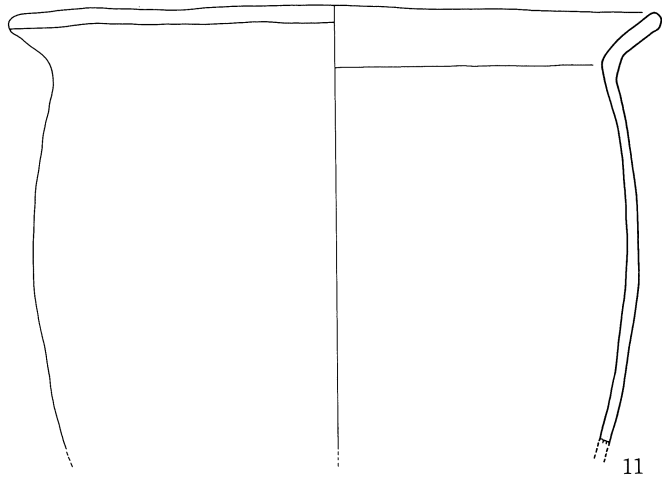


第96図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)

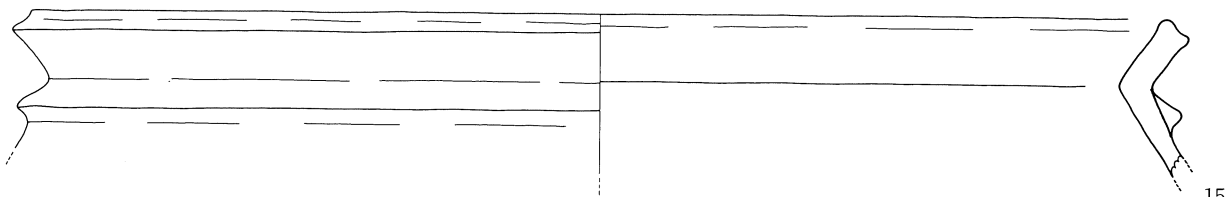


0 10cm

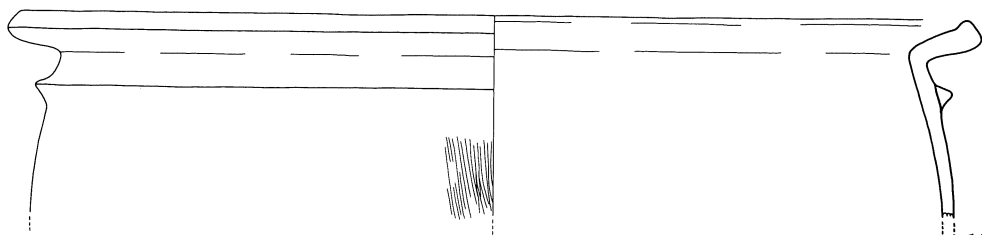
第97図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



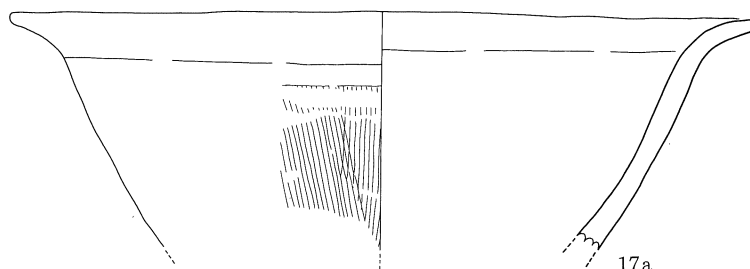
第98図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



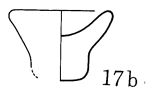
15



16



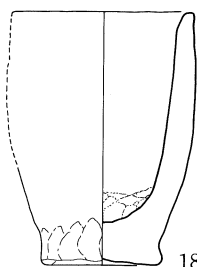
17a



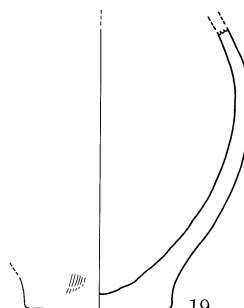
17b



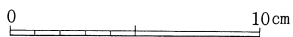
17c



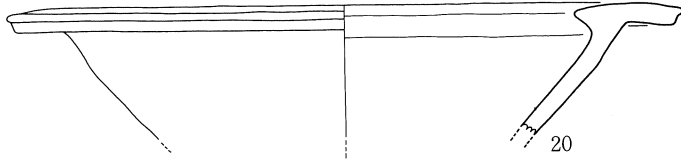
18



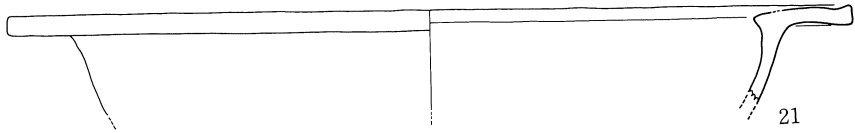
19



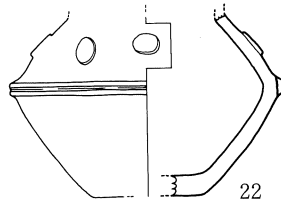
第99図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



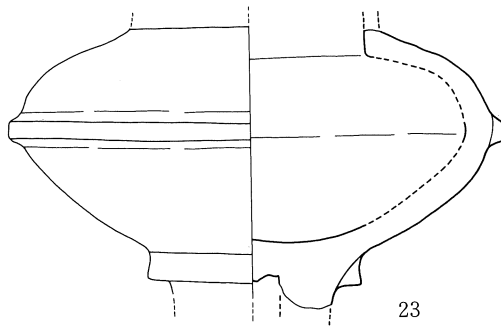
20



21



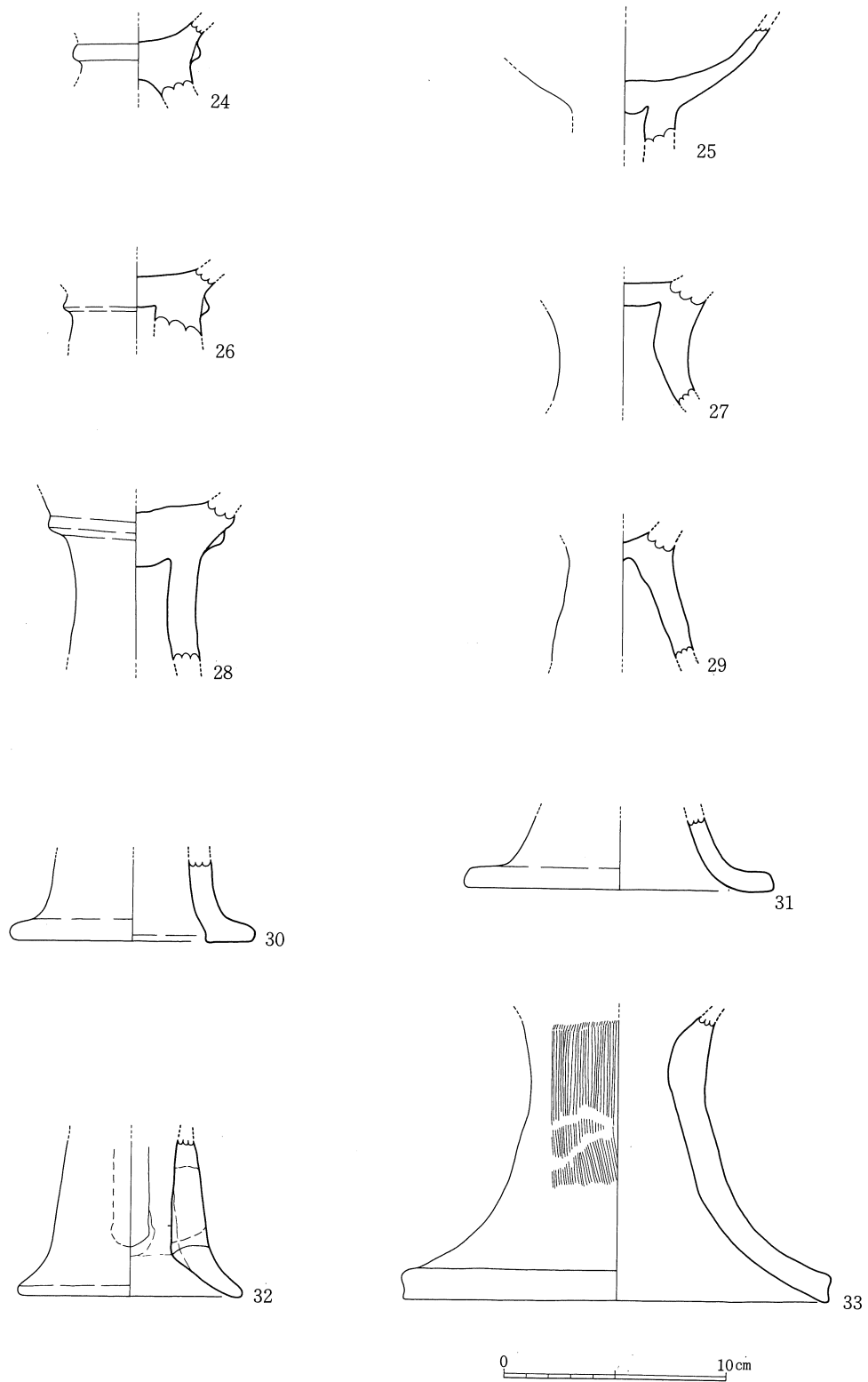
22



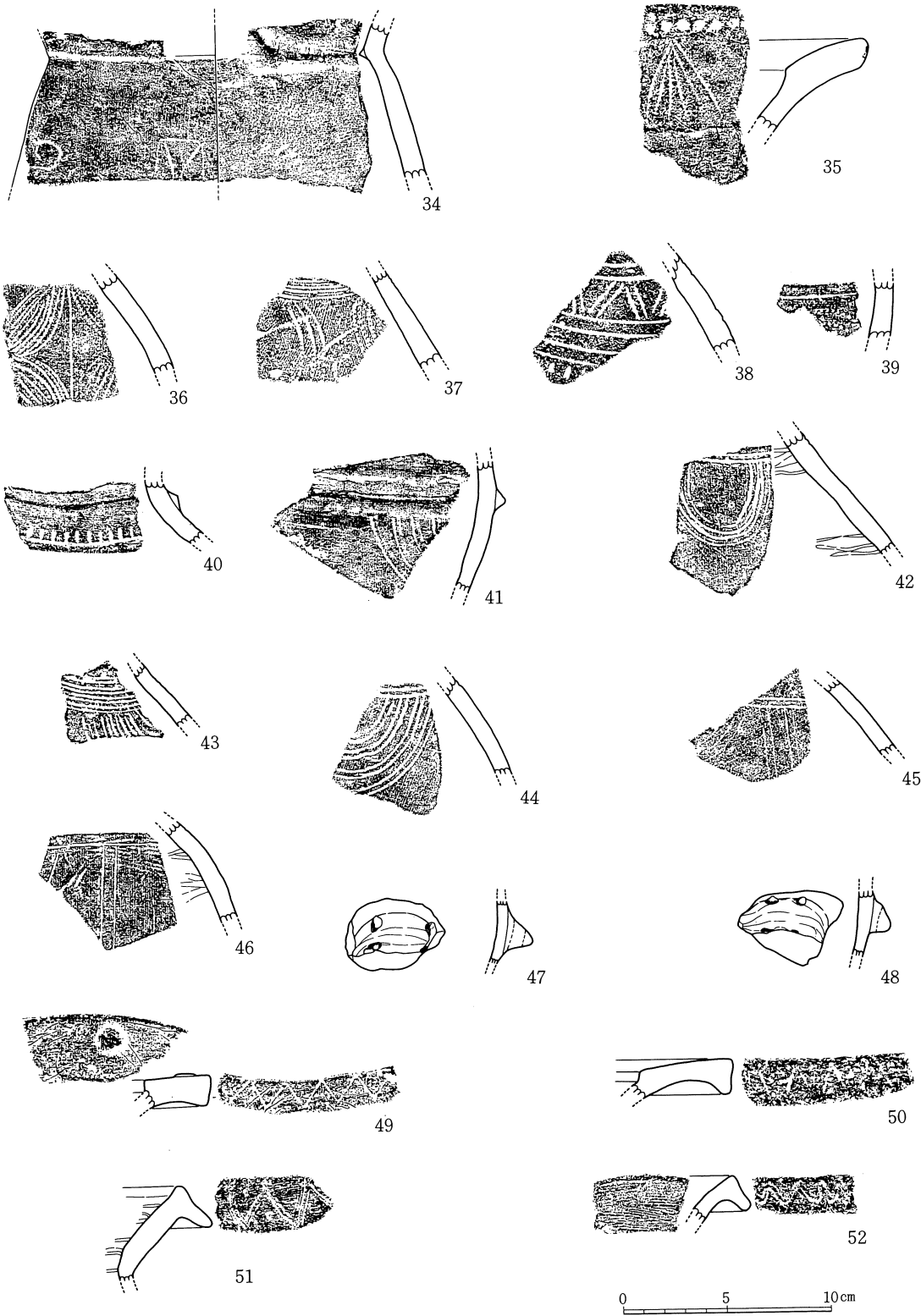
23



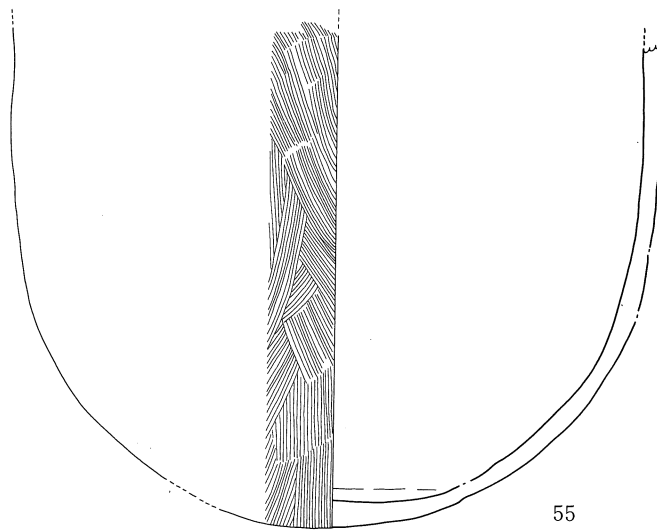
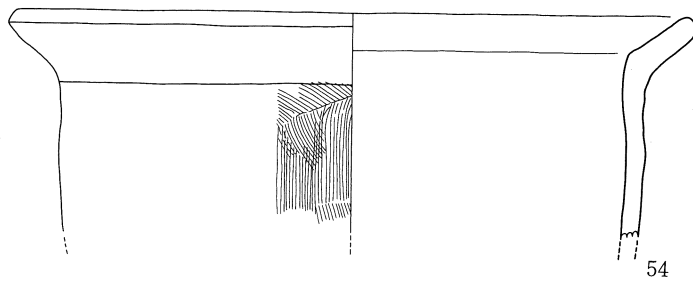
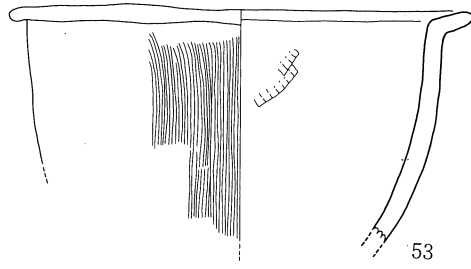
第100図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



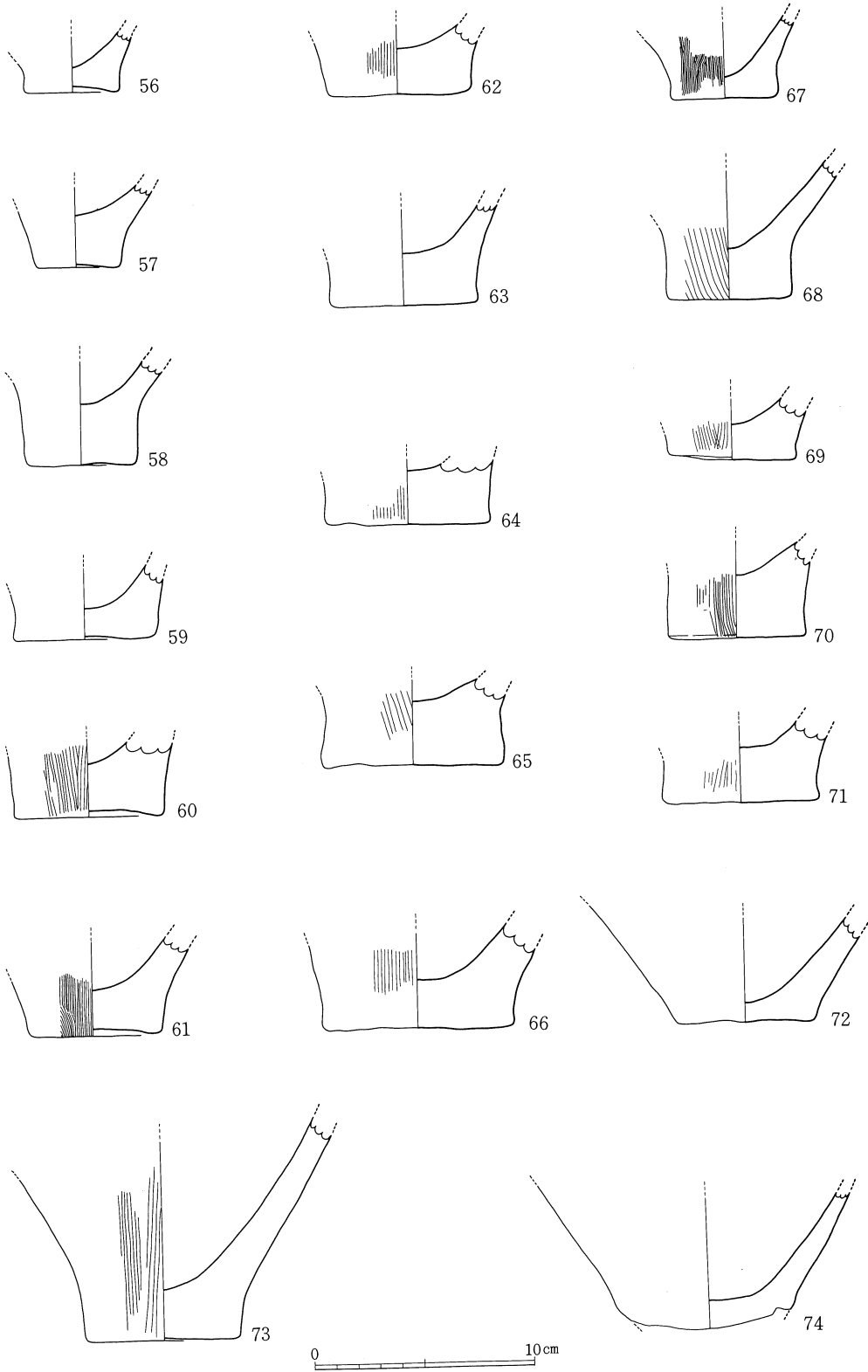
第101図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



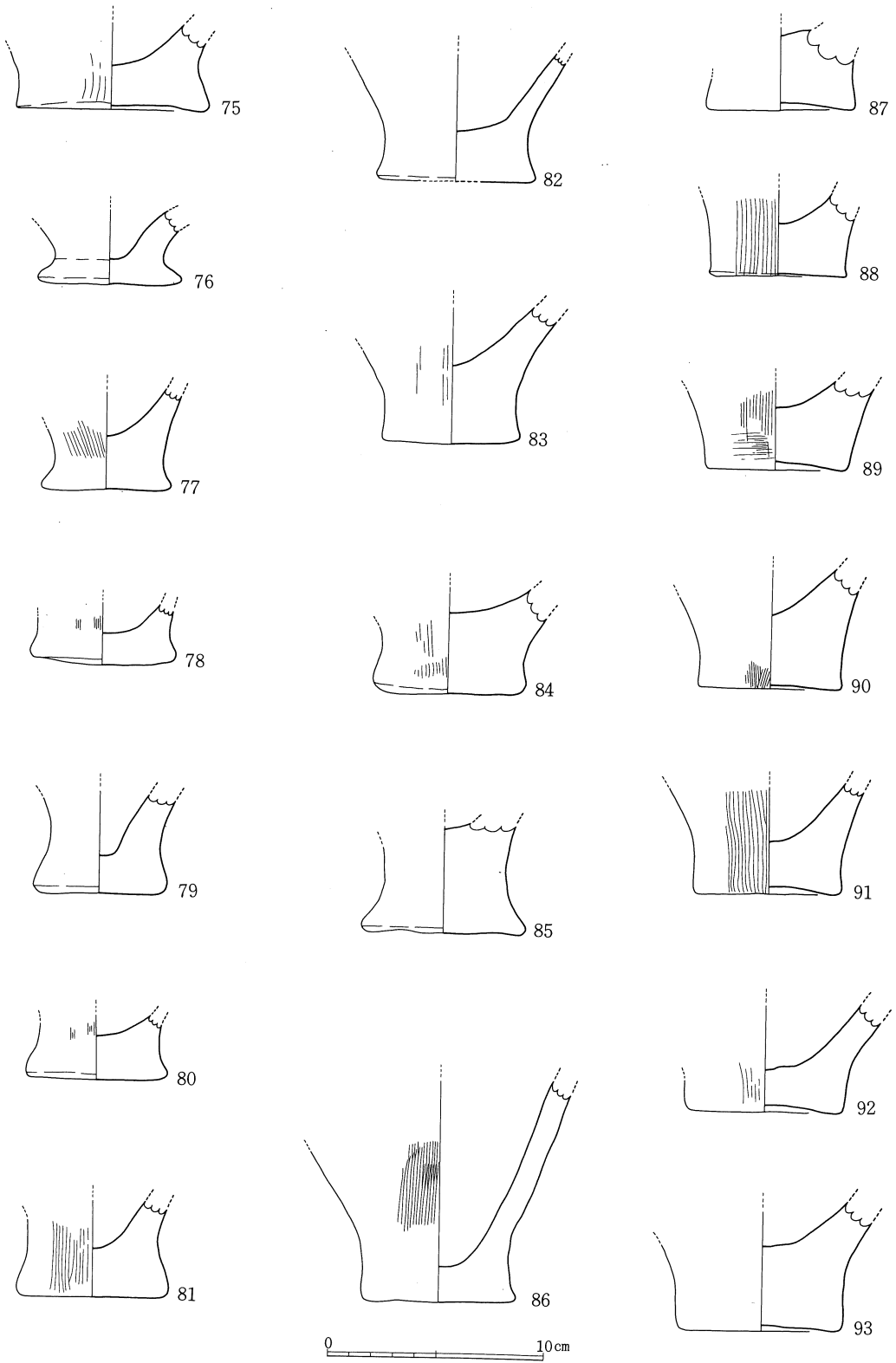
第102図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



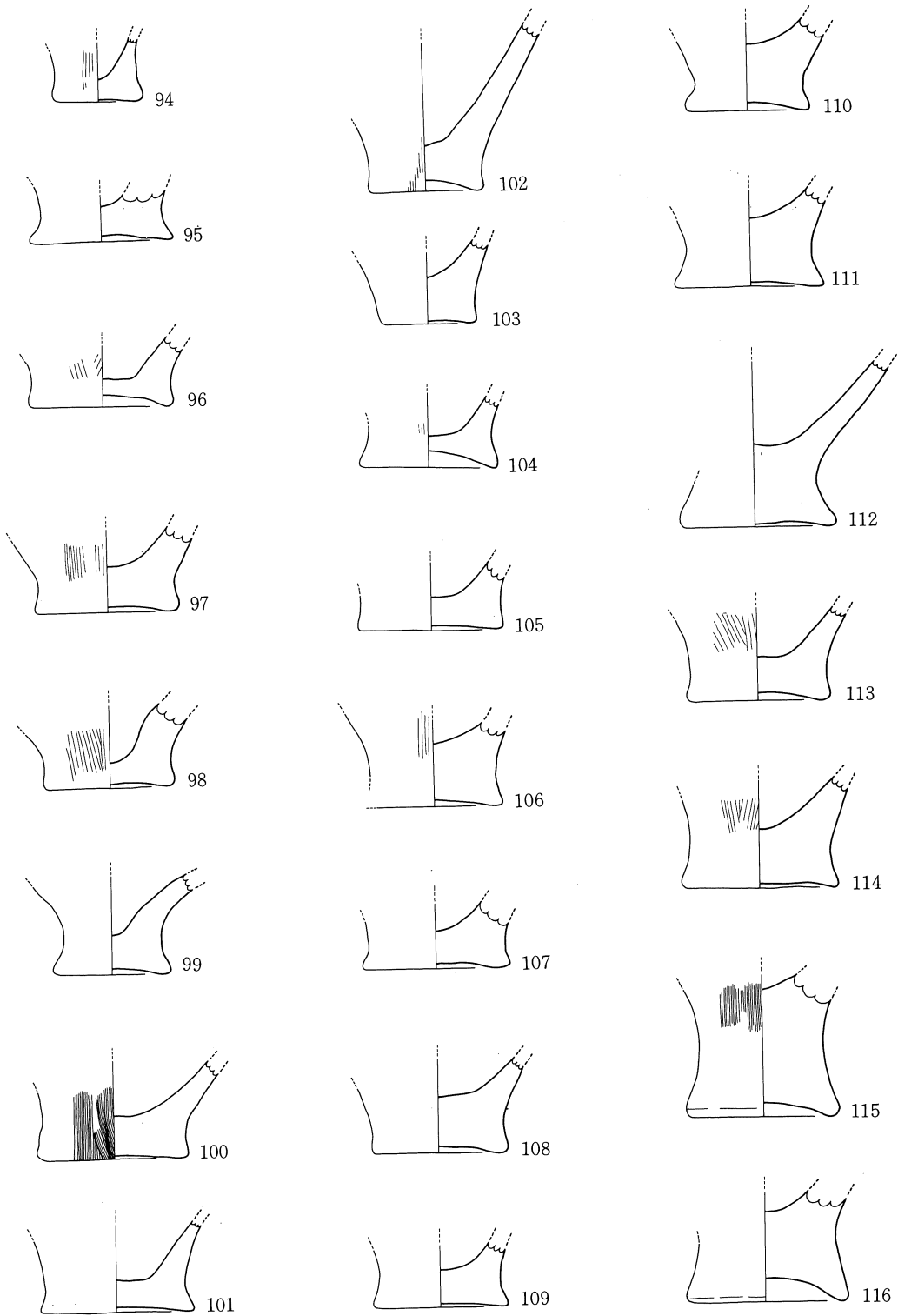
第103図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



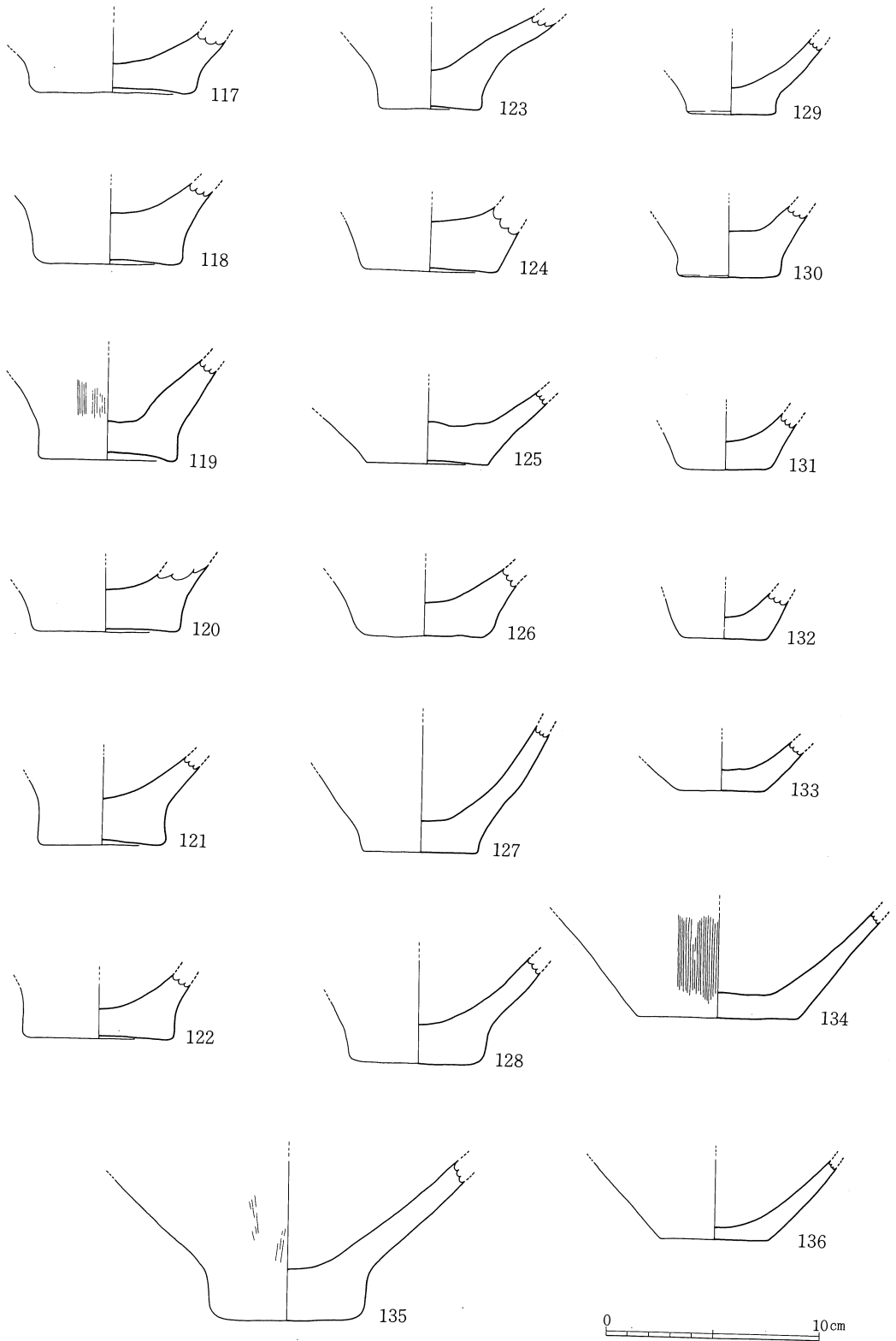
第104図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



第105図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



第106图 成田尾遺跡包含層出土遺物実測图 (1/3)



第107図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)

いが断定はできない。

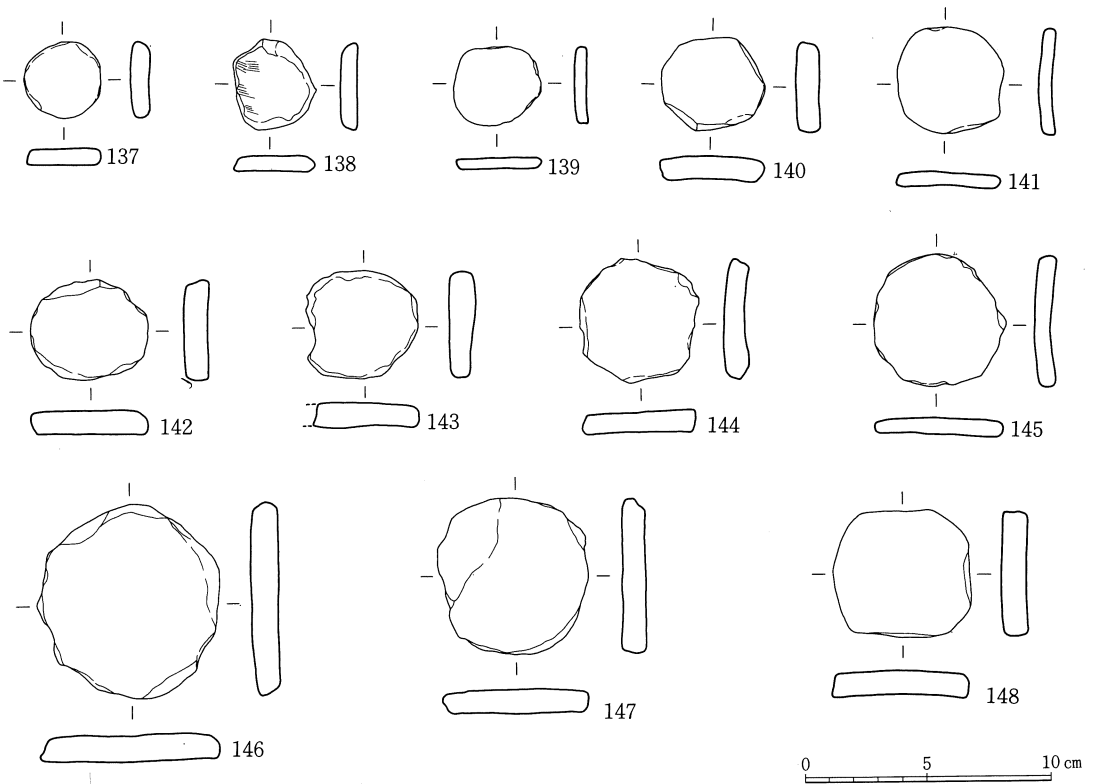
197~200は凹石である。拳大の河原礫の表裏中央部は敲打により凹み、断面は藕状を呈する。

199、200は側面にも敲打痕を残す。

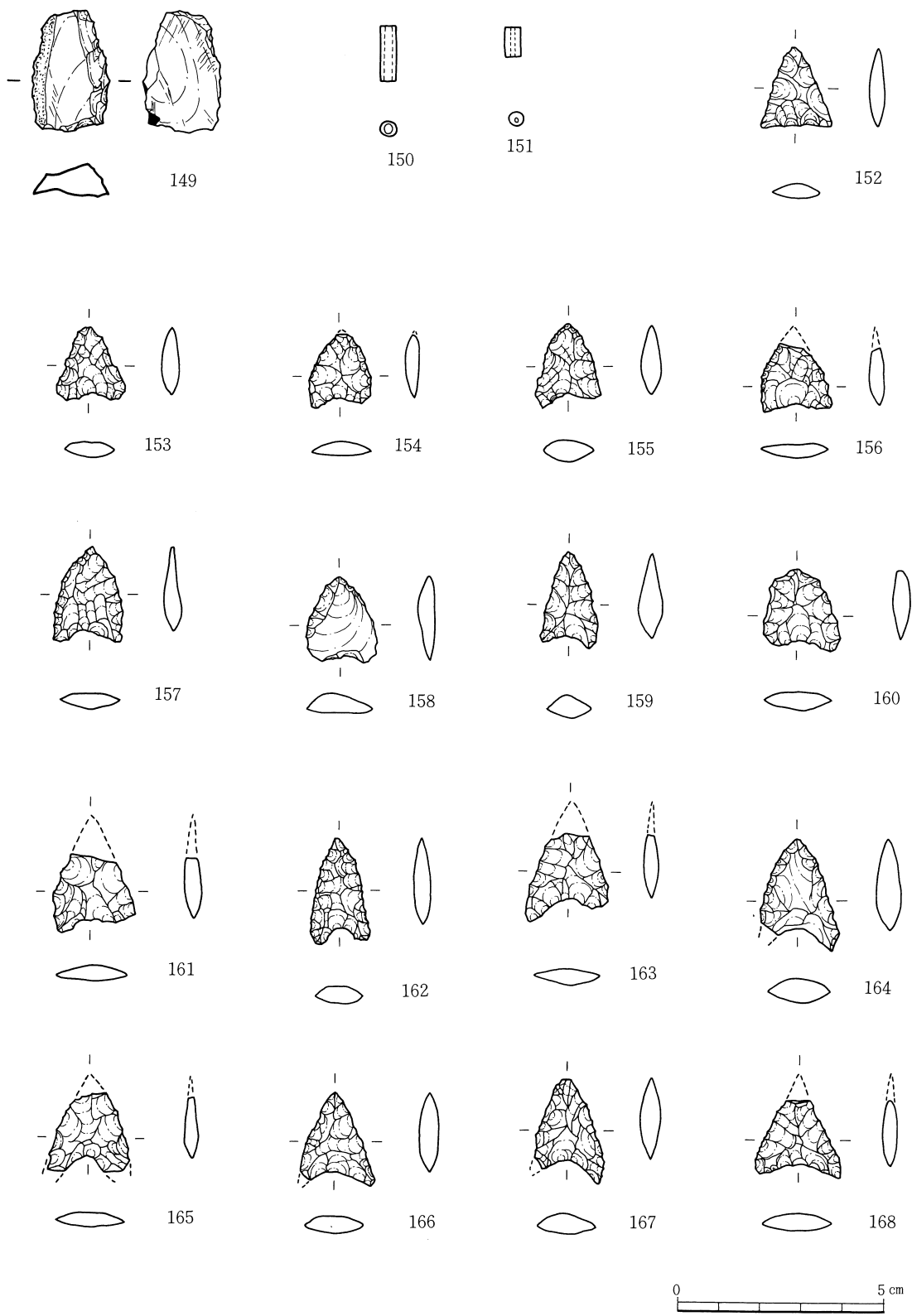
201、202は河原礫の両端を敲石として使用したものである。

203~208は拳大の礫の表裏面及び側面を敲石として使用している。表裏面は凹んでいる。

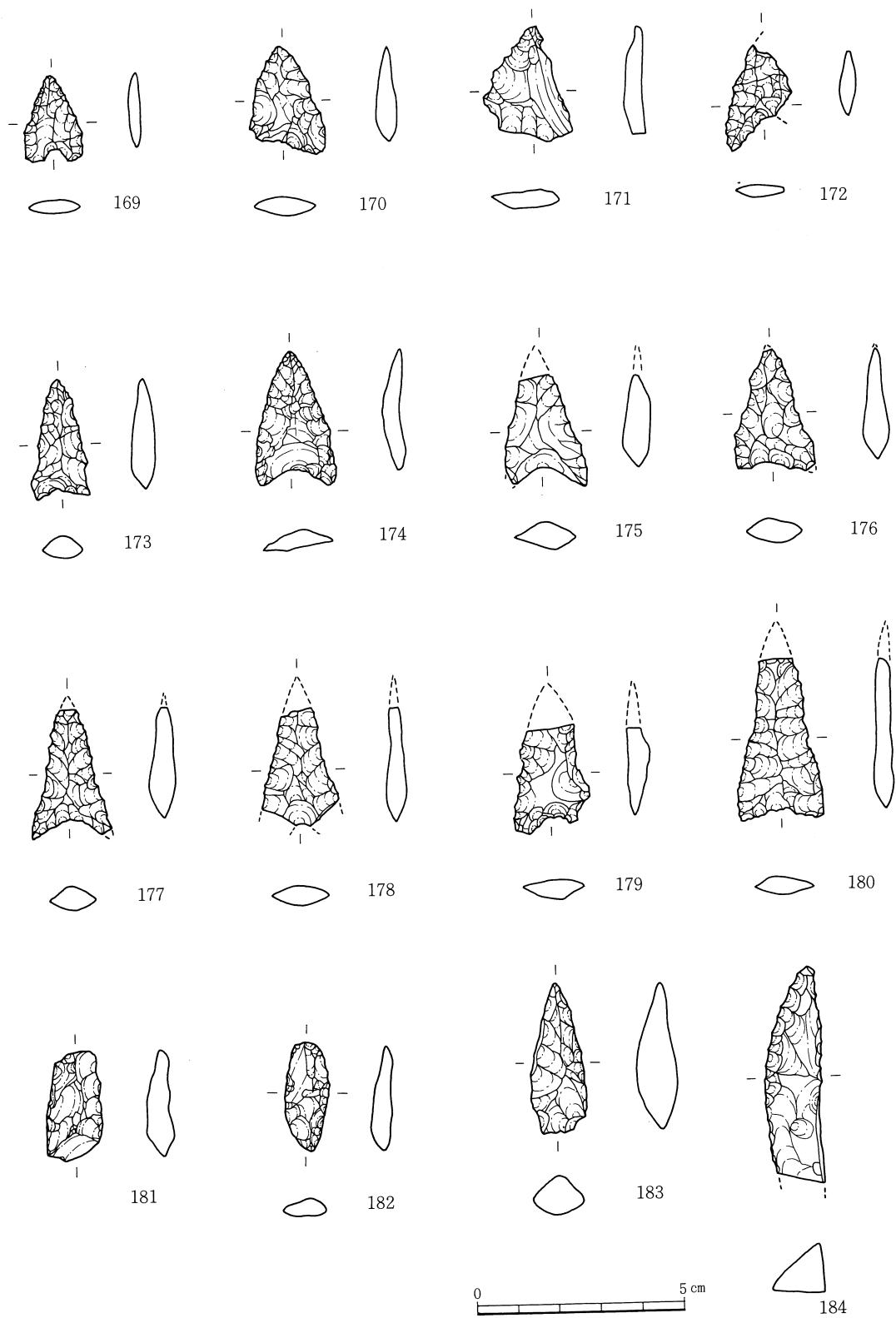
206~208は敲石と磨石を併用した石器である。206は両面、207、208は片面を磨石とする。



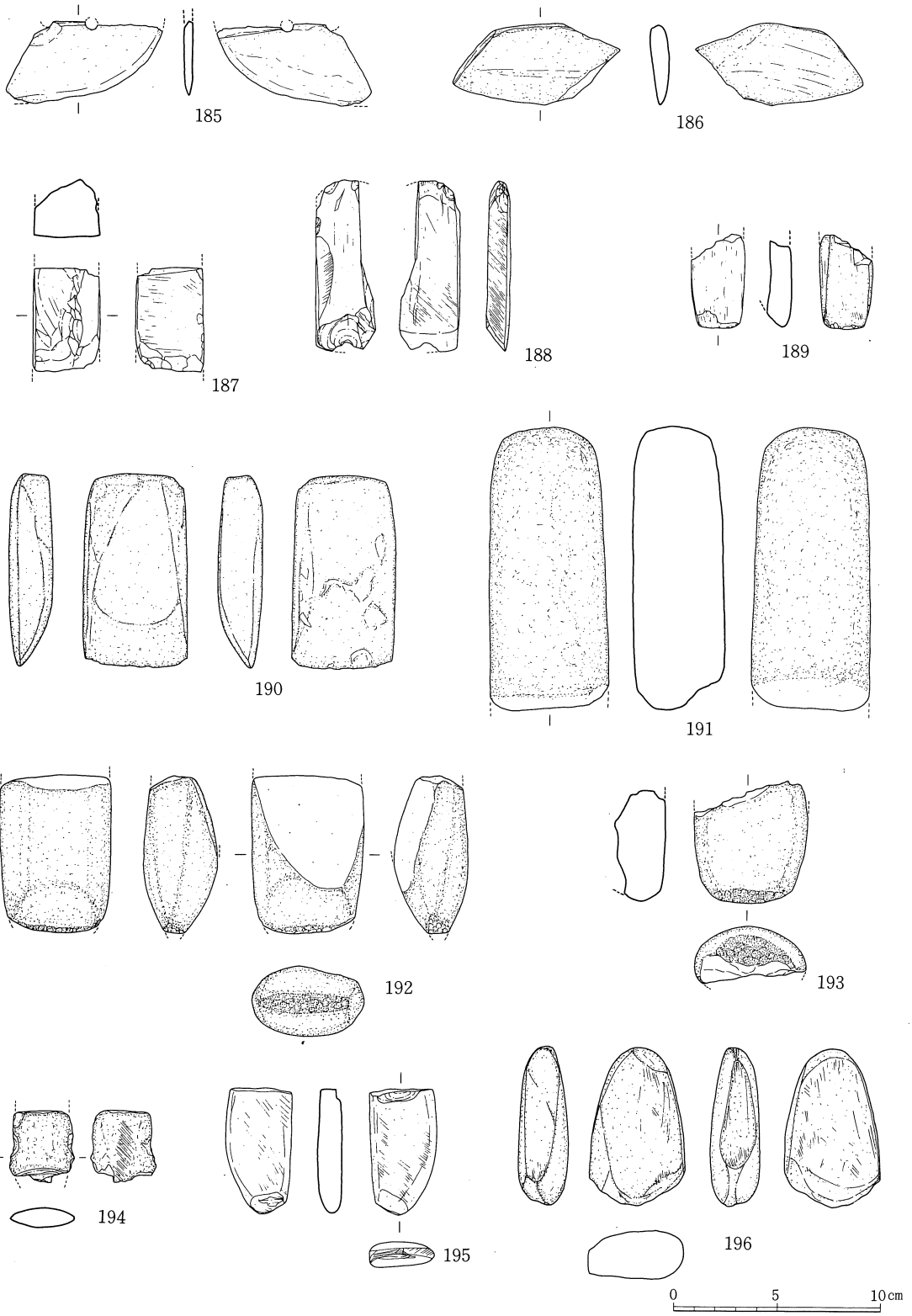
第108図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図(2)



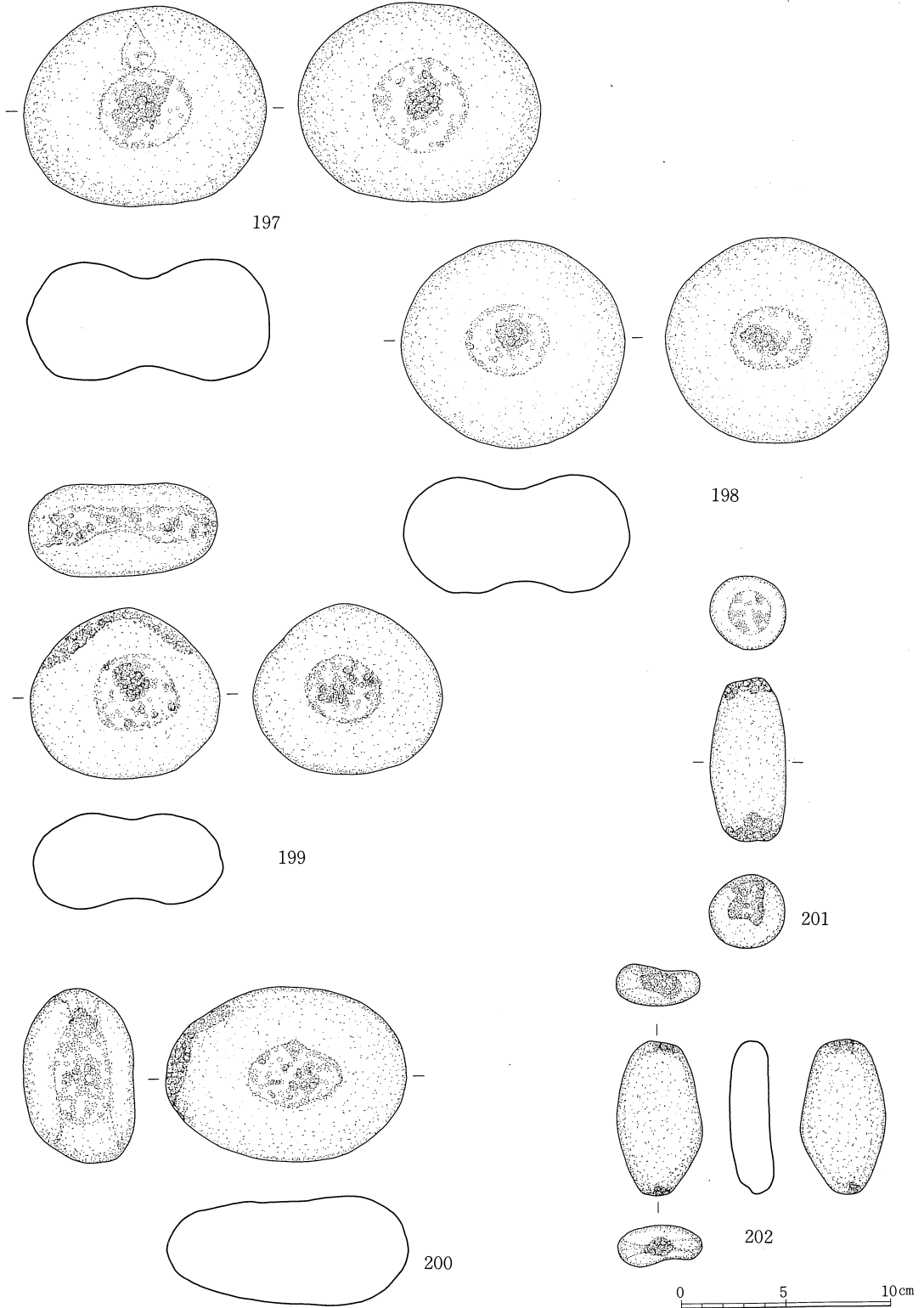
第109図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (2/3)



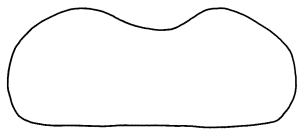
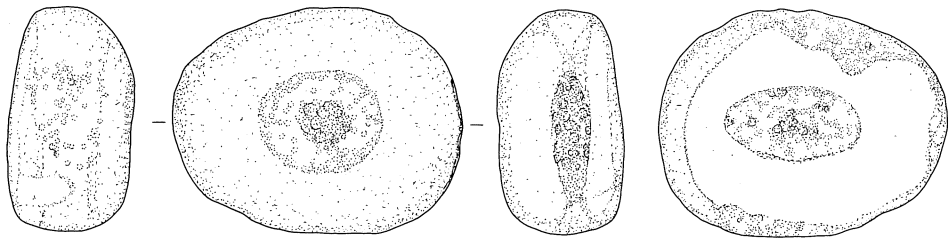
第110図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (2/3)



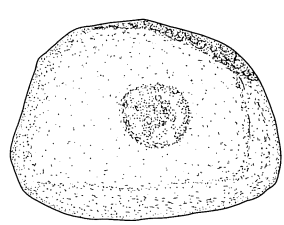
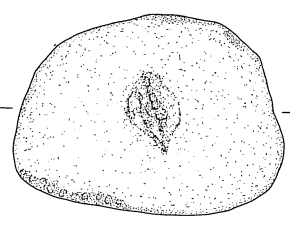
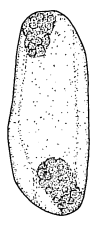
第111図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



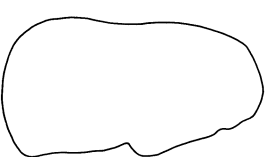
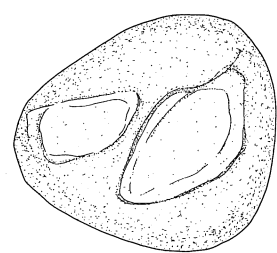
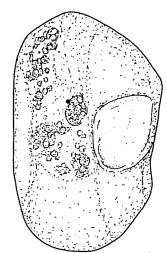
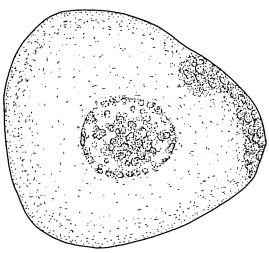
第112図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



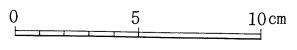
203



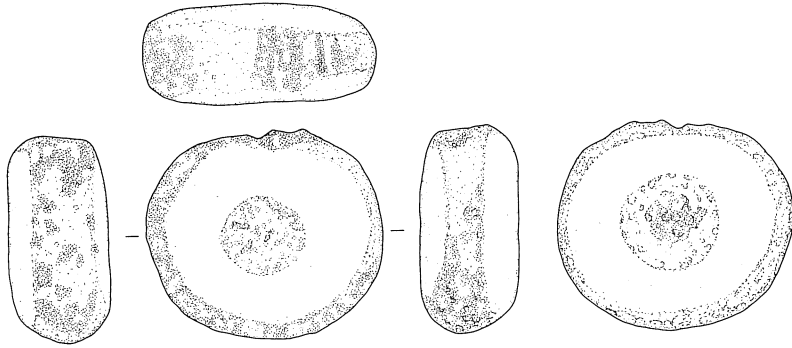
204



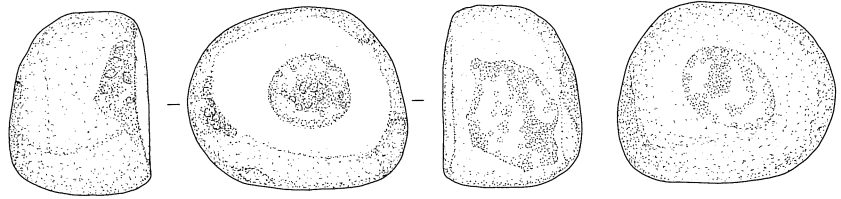
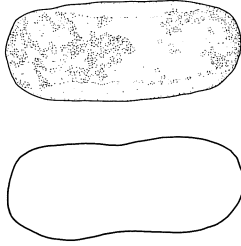
205



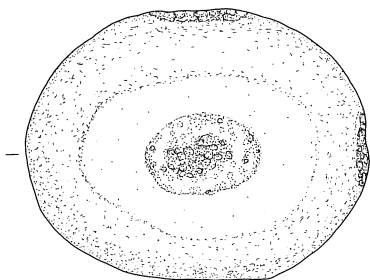
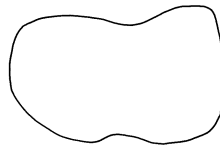
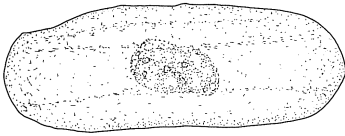
第113図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)



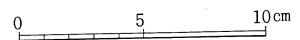
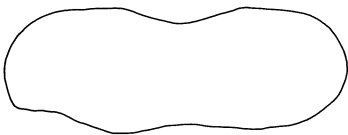
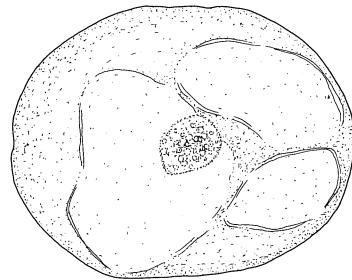
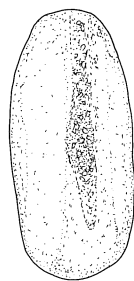
206



207



208



第114図 成田尾遺跡包含層出土遺物実測図 (1/3)

第V章 まとめ

成田尾遺跡は弥生時代中期とした集落遺跡であり、発掘対象面積は約7500平方メートルである。調査区は南面した、標高43m～52mの緩い丘陵状の斜面部であり、後世の段々畑で中・下段の削平は著しく、遺構の残存は上段の約3500平方メートルの範囲を中心とする。しかし、遺構の残存状態は悪く、その殆どは柱穴を残すのみであり、遺構の平面プラン等は不明瞭である。出土した遺物も攪乱された表土・包含層等の出土が大半であり、遺構内の一括遺物は少ない。その中でも、34号土坑や2号小児土器棺墓等は土器のセット関係を窺える数少ない事例である。遺物としても下城式の甕形土器と重弧文を施文する壺形土器、はね上げ状口縁、須玖Ⅱ式土器等注目できる資料がある。原始絵画の文様を持つ土器片等も看過しえない。また、姫島産黒曜石を素材とした石鏃等も多数出土している。武蔵町の熊尾遺跡で検出された姫島産黒曜石の多量の石核類も、当該期に相当しており、この時代までは大量に消費していたことが判る。

さまざまな問題点が多いが、ここでは遺構を中心に、その特徴を概観することで簡単なまとめをしたい。

成田尾遺跡からは、円形堅穴が5基、土器棺墓が3基、土坑が36基、柱穴群が多数検出されている。柱穴群は幾つか集中して分布している所があり、これ等は円形堅穴の残影と考えても良い。そして、第3図で示した様に、少なくとも10箇所以上に、この様な分布範囲を指摘できる。

円形堅穴は主体穴を約8本～15本程度円形に配置するものである。複数の柱穴が重複しているところをみると、建て替えによる柱の抜き取り、その他の補助柱穴等も存在していたことが推察できる。1号・4号・5号・6号堅穴は直径7m前後であり、堅穴内部の中心には、長軸104～208m、短軸64～128m、深さ16～40mの土坑炉が遺存している。また、1号・5号堅穴プラン北側には方形の張出部があり、1号堅穴の張出部には焼土が遺存していた。火を用いる用途に係わる何らかの遺構であろう。一方、2号堅穴の規模は他の堅穴に較べて大きく、直径14mを測り、柱穴も内側と外側に二重に配置されている。中心の土坑炉は長軸3.44m、短軸2.16m、深さ80cmを測る。2号堅穴の面積は一般のものより約4倍もあり、その位置も丘陵の小高い中心部にあることから、村の公共の集会場か有力者に帰属するものであろう。

堅穴の全体的な分布を俯瞰してみると、丘陵の頂上部よりやや周辺部近くに展開されており、中央部は柱穴の比較的少ない部分が多い。この部分には、1号土坑や5号土坑が展開しており、場の機能を暗示している様相である。つまり、1号土坑や5号土坑は楕円形や長方形を呈し、土坑の外側の四隅には柱穴を伴う。覆い屋付きの特異なものである。その規模は1号が長軸2.8m、短軸1.5m、深さ48cmであり、覆い屋の規模は長軸3.4m、短軸2.3mである。5号は長軸2.61m、短軸1.35m、深さ42cmであり、覆い屋の規模は長軸3.81m、短軸2.16mである。土

坑の機能は厳密には判らないが、覆土は流れ込みの状態を示しており、覆い屋を持つ一種の貯蔵施設と推察できそうである。

つまり、複数の竪穴住居に囲まれた中央広場の片隅には4本柱の覆い屋を持つ貯蔵穴が配置されており、何か公の機能や用途に係る所産と考えられる。一方、各竪穴の周辺部には小さな土坑が遺存しており、竪穴に付設された状況として認識できる。その内、30号土坑はいわゆる袋状竪穴を呈していた。これ等は各竪穴、つまり個人に係わるものとも考えられる。

さてここで、貯蔵施設の位置付けとその変遷を考えてみると、大局的には、貯蔵穴→掘って建てる柱の高床倉庫という変化を遂げるのは周知の事実である。そして、4本柱の覆い屋を持つ特異な貯蔵穴は、その過渡期的な様相の中で位置付けが出来そうである。つまり、4本柱の覆い屋の施設は、その規模や柱間の割合が、弥生後期終末から古墳時代初頭に当たる三重町の陣箱遺跡や千歳村の鹿道原遺跡の並び倉庫的な4本柱の建物、つまり高床倉庫に酷似しているということである。貯蔵穴土坑を除いて、柱穴の配置を現象的に捉えると、4本柱の覆い屋か4本柱の高床倉庫かは判断ができないほどである。この事からすなわち、いわゆる貯蔵穴→4本柱の覆い屋施設を持つ貯蔵穴→4本柱の高床倉庫という変遷過程が類推出来るのである。

さて一方、小児棺墓は3墓検出されている。これ等は、竪穴の集中する南側の縁辺部に点在しており、住居のすぐ周辺部に埋葬された可能性を暗示している。もちろん、各竪穴出土遺物との厳密な比較検討によらねばならないが、小児用の土器棺墓は墓域を構成することはなく、各々の竪穴の領域内に手厚く埋葬された状態として把握することができる。これは、小児墓制の一つの形態を示唆していると言えよう。

以上のように、遺構の構造とその分布の概要を瞥見することで簡単なまとめに代えたい。



図版 1 成田尾遺跡発掘風景(西側より)



図版 2 成田尾遺跡発掘状態(東側より)



図版 3 成田尾遺跡遺物出土状態



図版 4 成田尾遺跡遺物出土状態



図版 5 成田尾遺跡遺物出土状態



図版 6 成田尾遺跡遺物出土状態



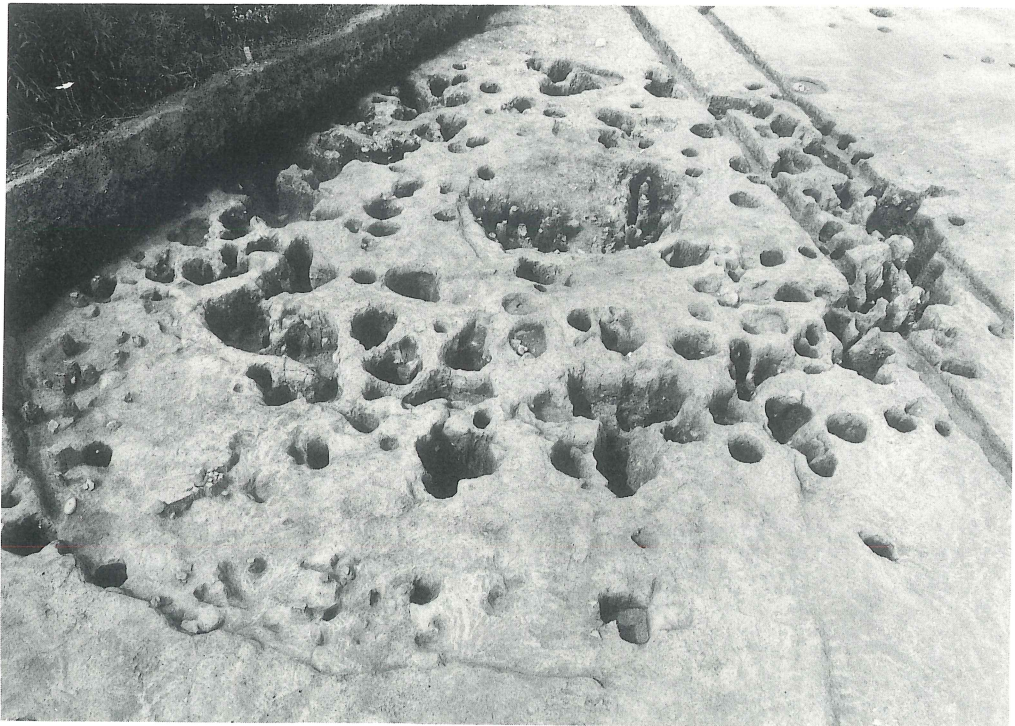
図版7 成田尾遺跡1号竪穴(東側より)



図版8 成田尾遺跡1号竪穴(東側より)



図版9 成田尾遺跡 2号竪穴(北側より)



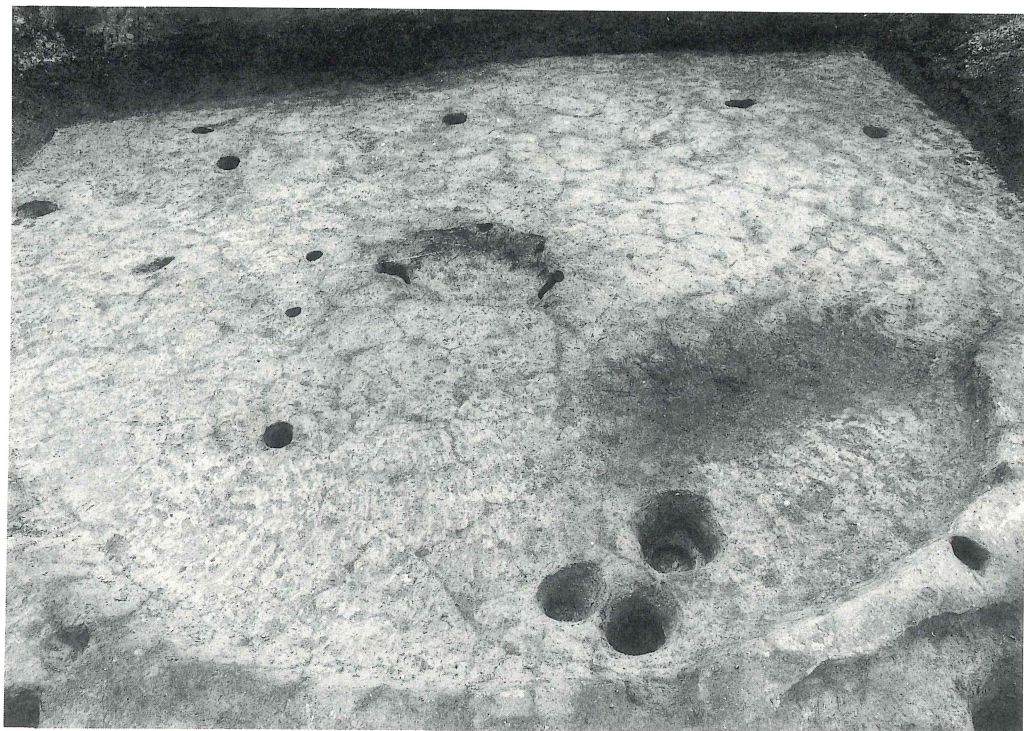
図版10 成田尾遺跡 2号竪穴(南側より)



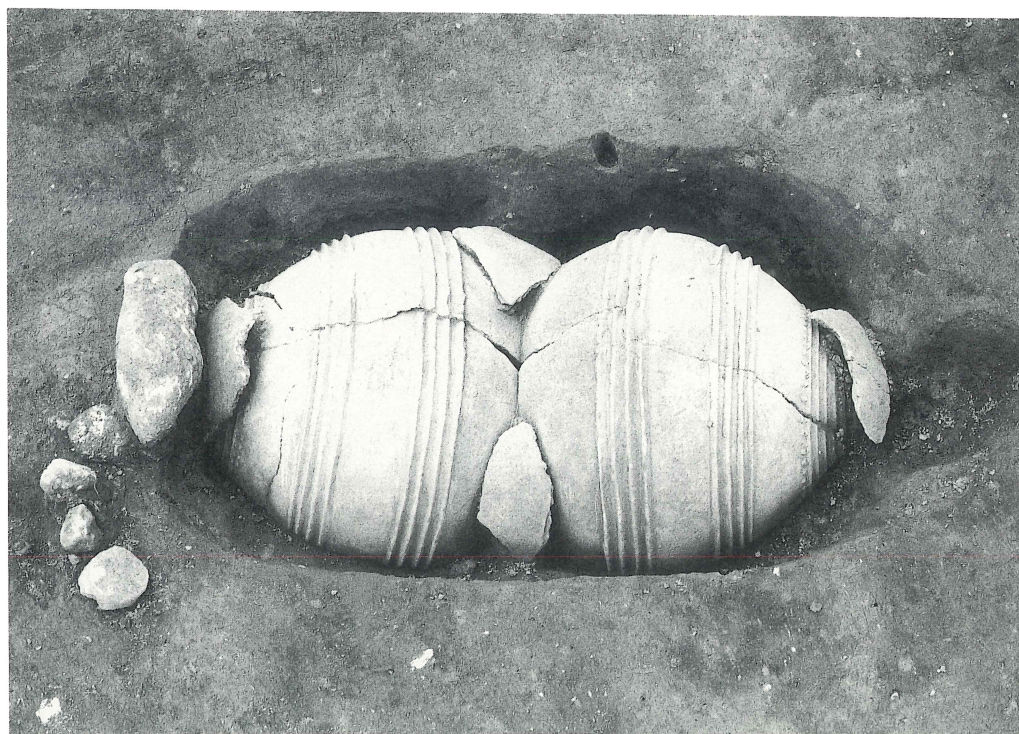
図版11 成田尾遺跡 5号竪穴発掘状態(東側より)



図版12 成田尾遺跡 5号竪穴発掘状態(西側より)



図版13 成田尾遺跡6号竪穴(北側より)



図版14 成田尾遺跡1号小児土器棺墓(北側より)



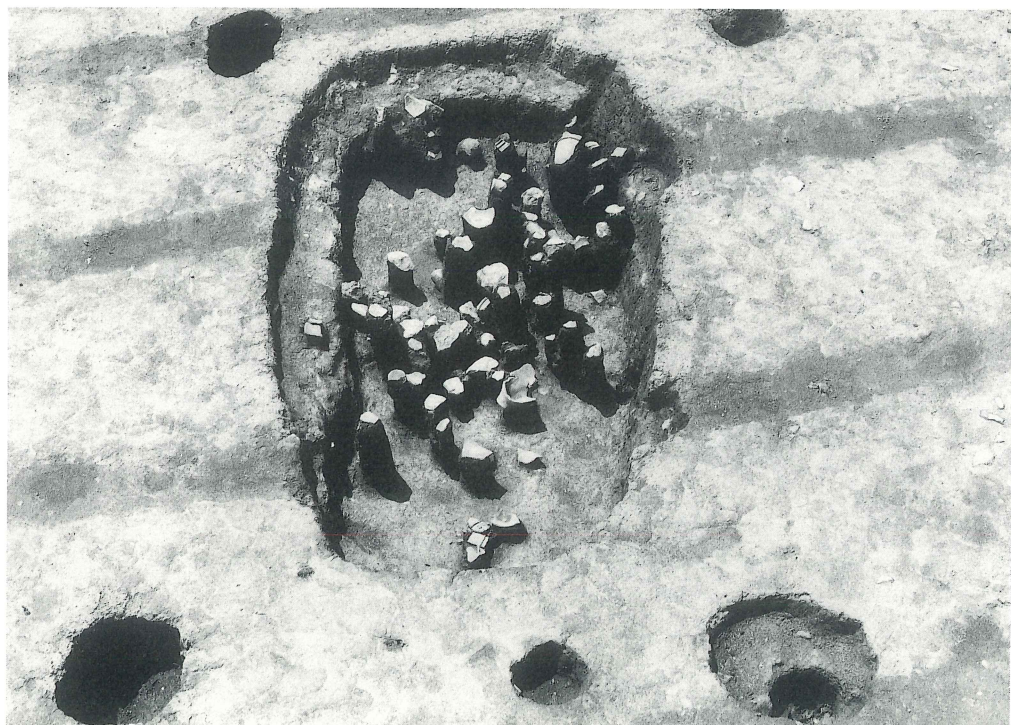
図版15 成田尾遺跡1号小児土器棺墓(北側より)



図版16 成田尾遺跡2号小児土器棺墓(南側より)



図版17 成田尾遺跡4号小児土器棺墓(南側より)



図版18 成田尾遺跡1号土坑(東側より)



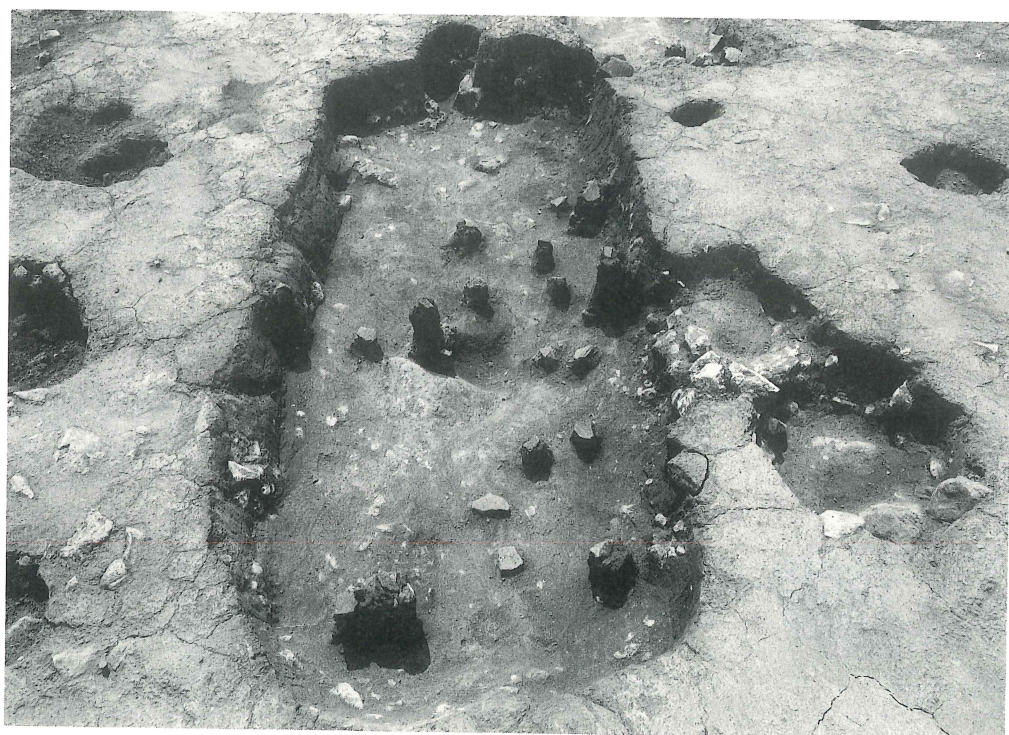
図版19 成田尾遺跡 5号土坑(東側より)



図版20 成田尾遺跡 5号土坑(東側より)



図版21 成田尾遺跡 6号土坑(南側より)



図版22 成田尾遺跡 9号土坑(東側より)



図版23 成田尾遺跡11号土坑(南側より)



図版24 成田尾遺跡12号土坑(南側より)



図版25 成田尾遺跡13号土坑(北側より)



図版26 成田尾遺跡15号土坑(南側より)



図版27 成田尾遺跡17号土坑(北側より)



図版28 成田尾遺跡17 a号土坑(北側より)



図版29 成田尾遺跡17 b、17 c号土坑(北側より)



図版30 成田尾遺跡19号土坑(北側より)



図版31 成田尾遺跡28号土坑(南側より)



図版32 成田尾遺跡29号土坑(南側より)



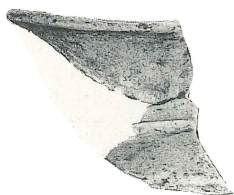
図版33 成田尾遺跡30号土坑(南側より)



図版34 成田尾遺跡34号土坑(南側より)



1

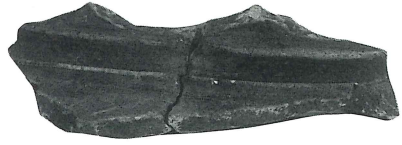
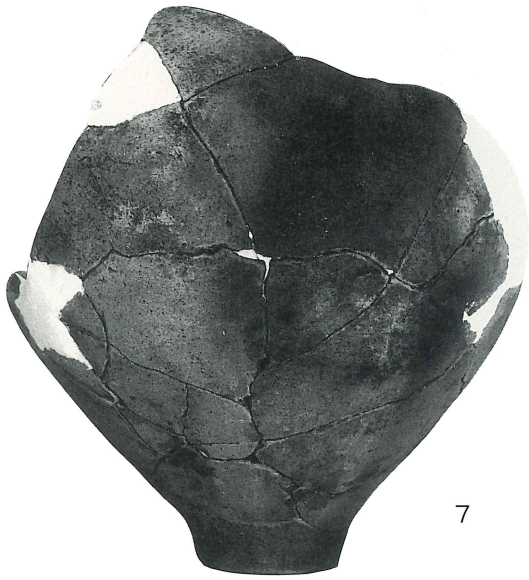


5



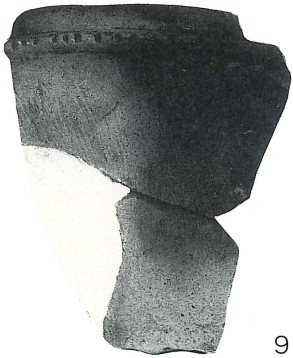
6

図版35 成田尾遺跡 1号竪穴出土遺物



8

7



9



10

图版36 成田尾遺跡1号豎穴出土遺物



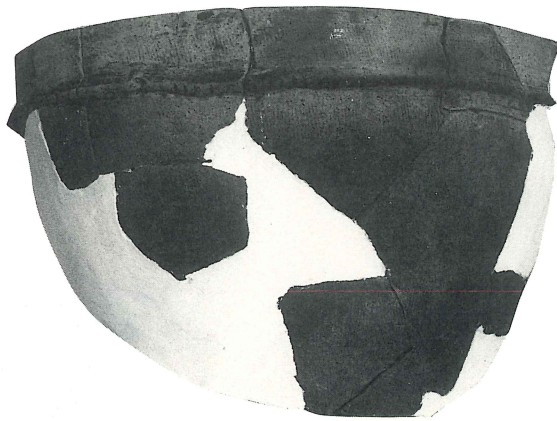
12



13



14

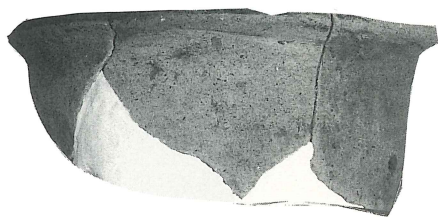


17

图版37 成田尾遺跡 1号豎穴出土遺物



18



19



25



21



26



28



30



31



33



34

图版38 成田尾遺跡1号竖穴出土遺物



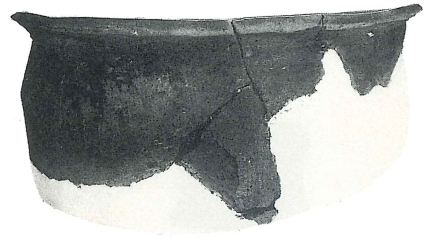
2



3



5



7



10



11



13



14

图版39 成田尾遺跡2号竖穴出土遺物



15



21



17



18

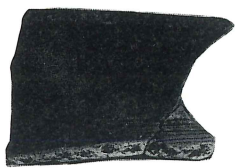


19

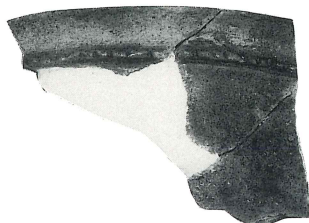


20

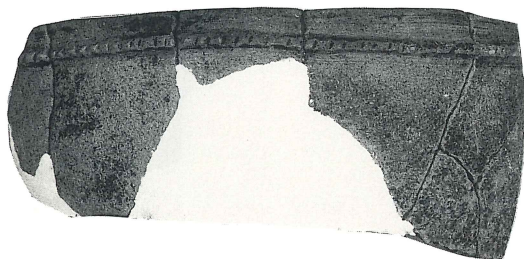
図版40 成田尾遺跡2号竪穴出土遺物



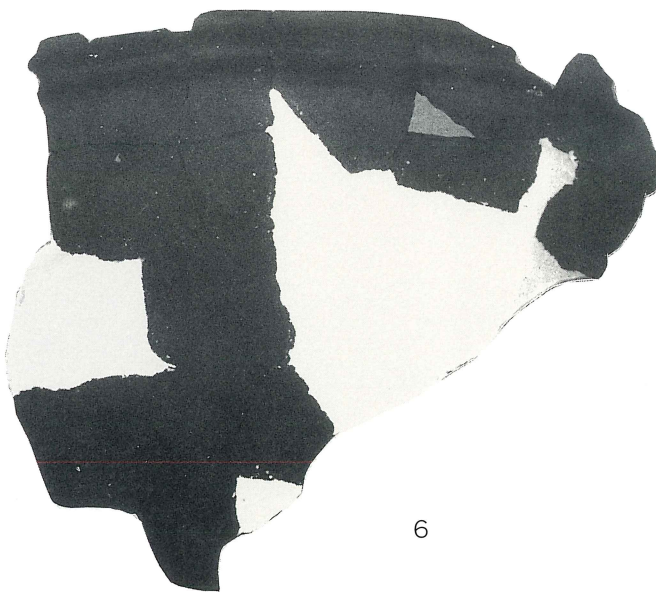
1



4

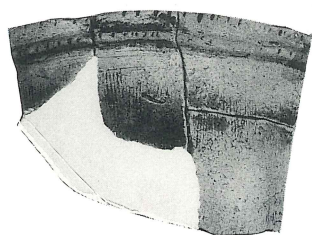
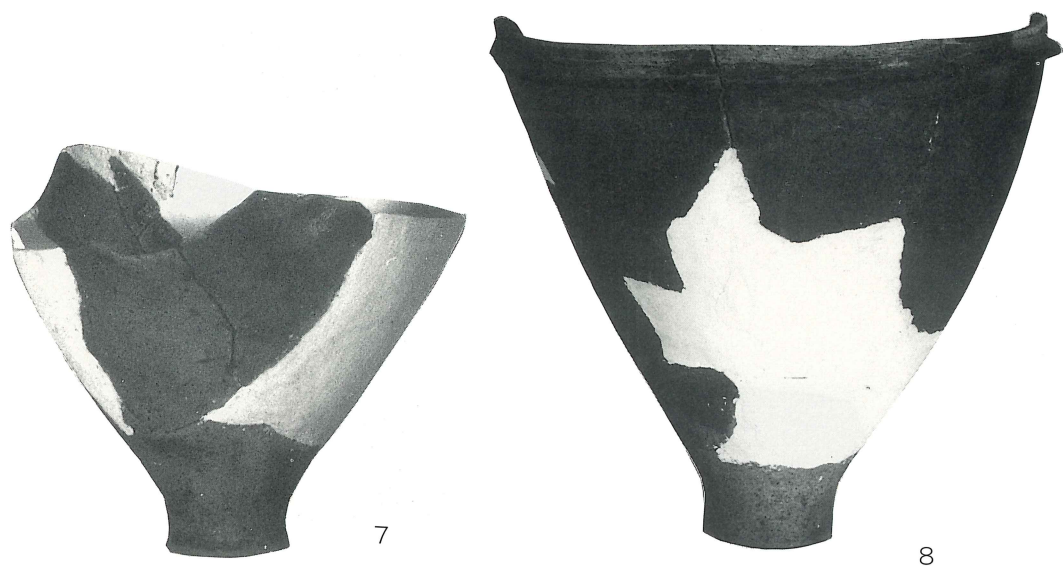


5

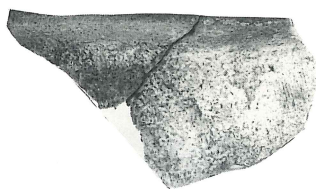


6

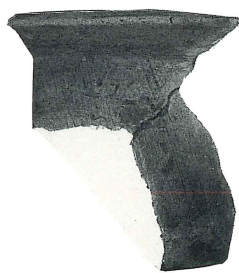
图版41 成田尾遺跡 4号豎穴出土遺物



9



11



12



13

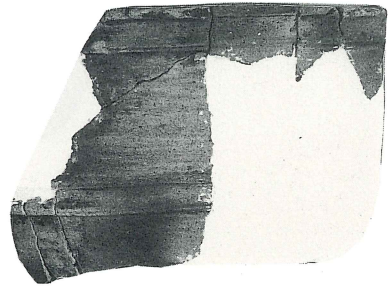
図版42 成田尾遺跡4号竪穴出土遺物



14



15



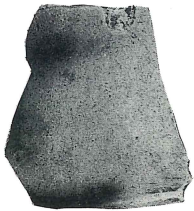
16



17



19



18



21



20



22

図版43 成田尾遺跡4号竪穴出土遺物



23

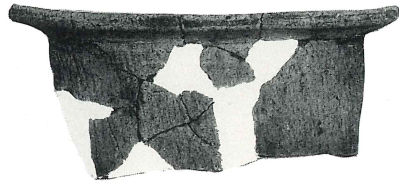


24

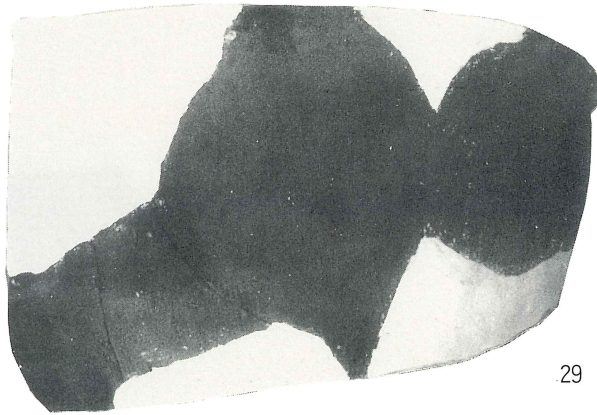


25

图版44 成田尾遺跡4号豎穴出土遺物



28



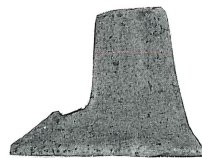
29



32



36



38

図版45 成田尾遺跡4号竪穴出土遺物



1



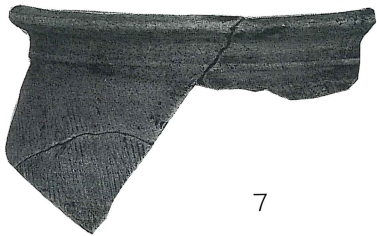
2



3



6



7



11

図版46 成田尾遺跡6号竪穴出土遺物



1

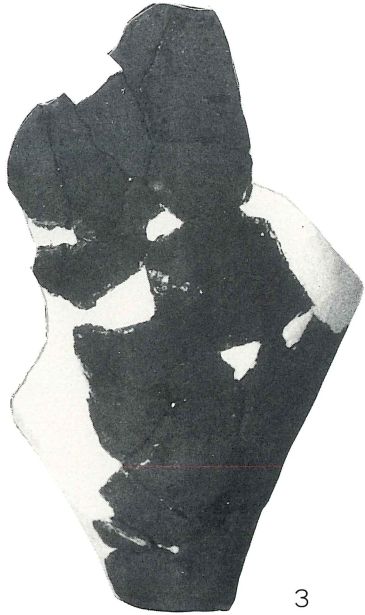
図版47 成田尾遺跡1号小児土器棺墓土器棺



1

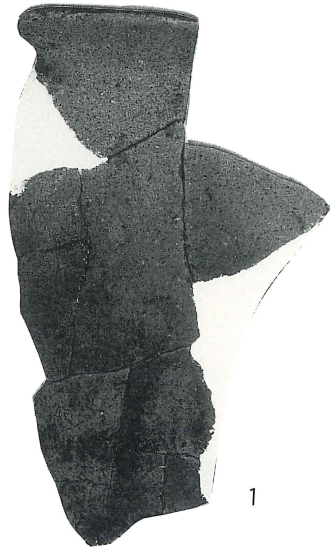


2



3

図版48 成田尾遺跡2号小児土器棺墓土器棺



1



3



5

図版49 成田尾遺跡4号小児土器棺墓土器棺(1)、1号土坑(3.5)出土遺物



1



2

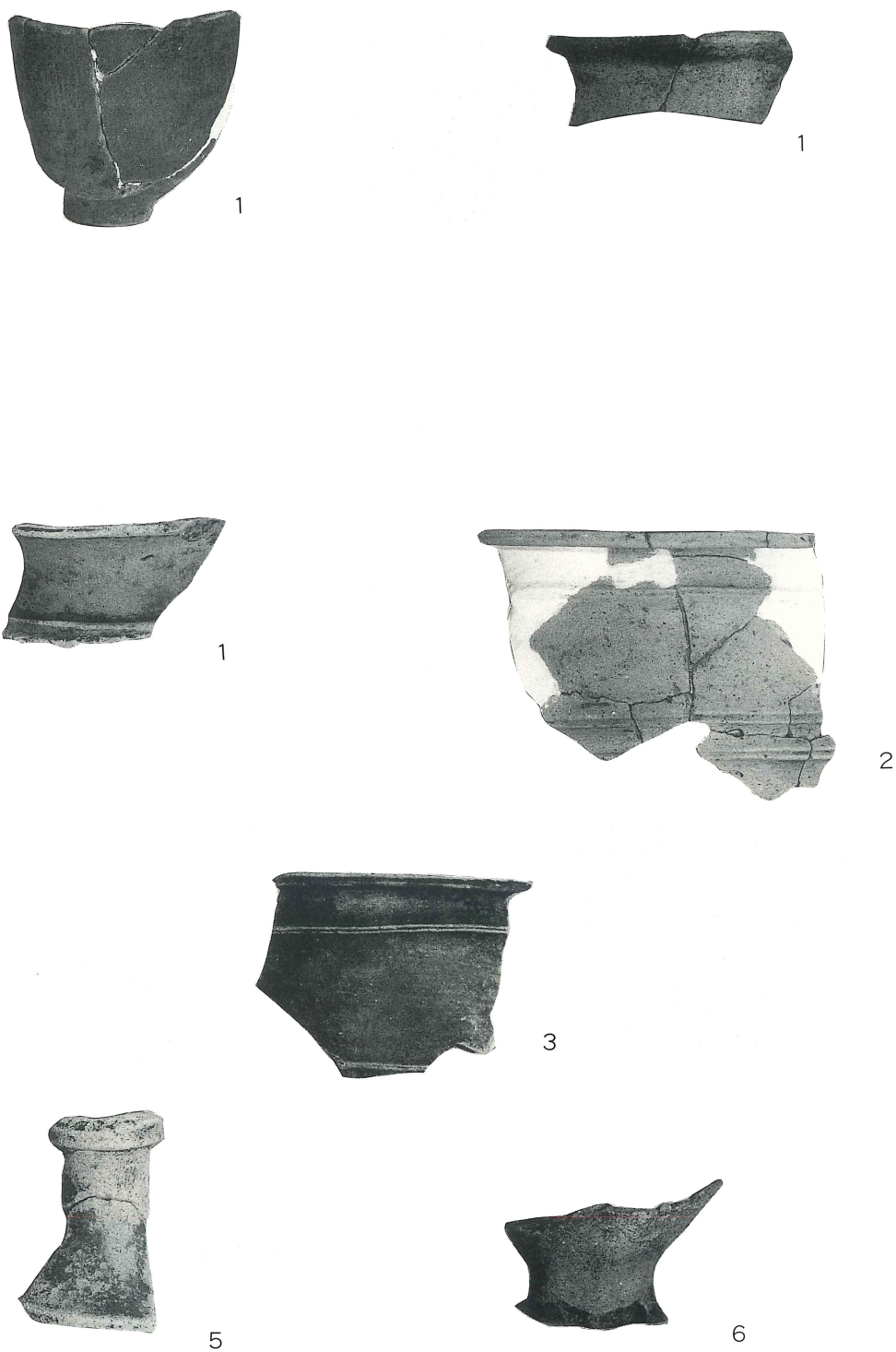


3

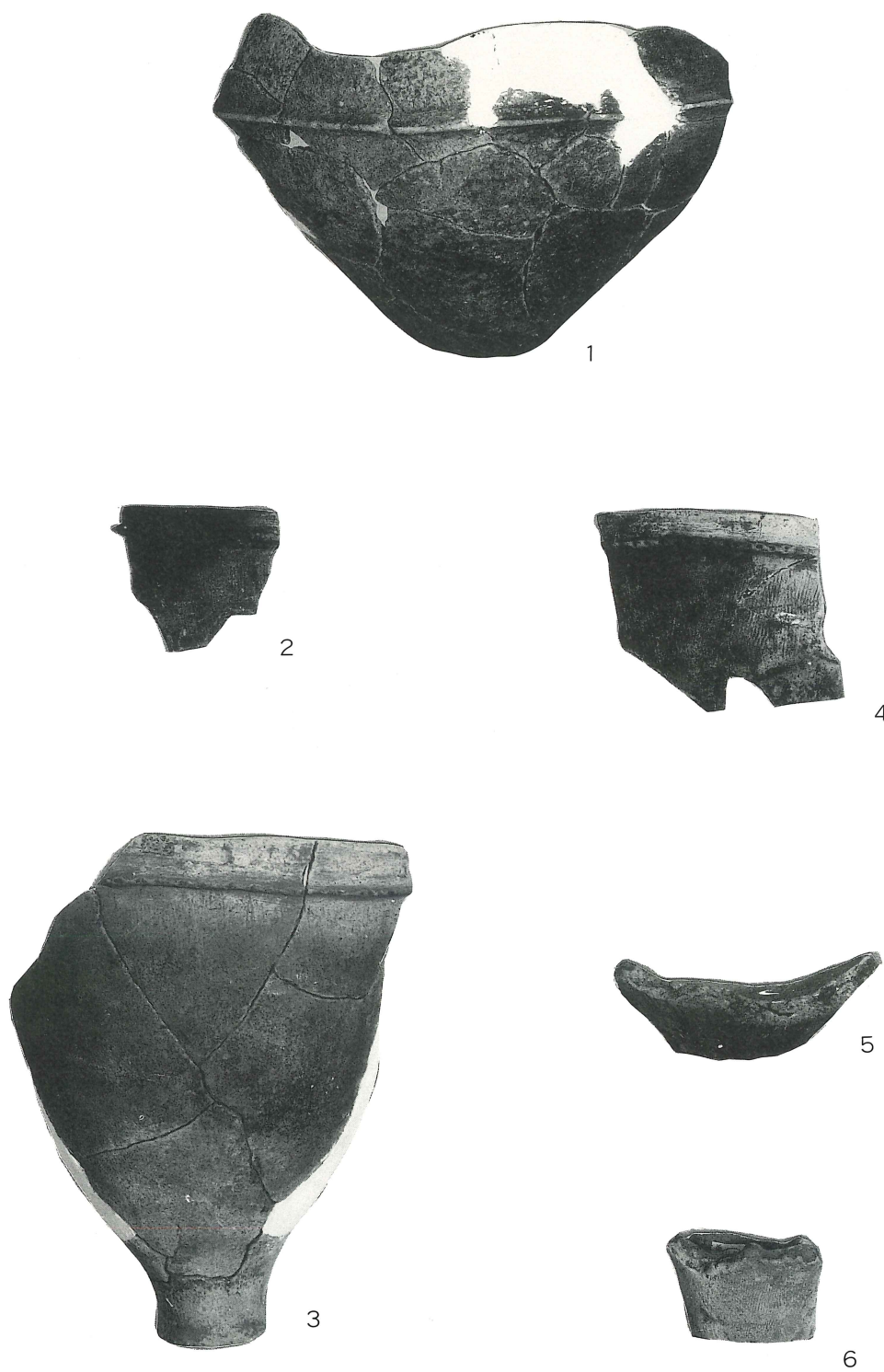


4

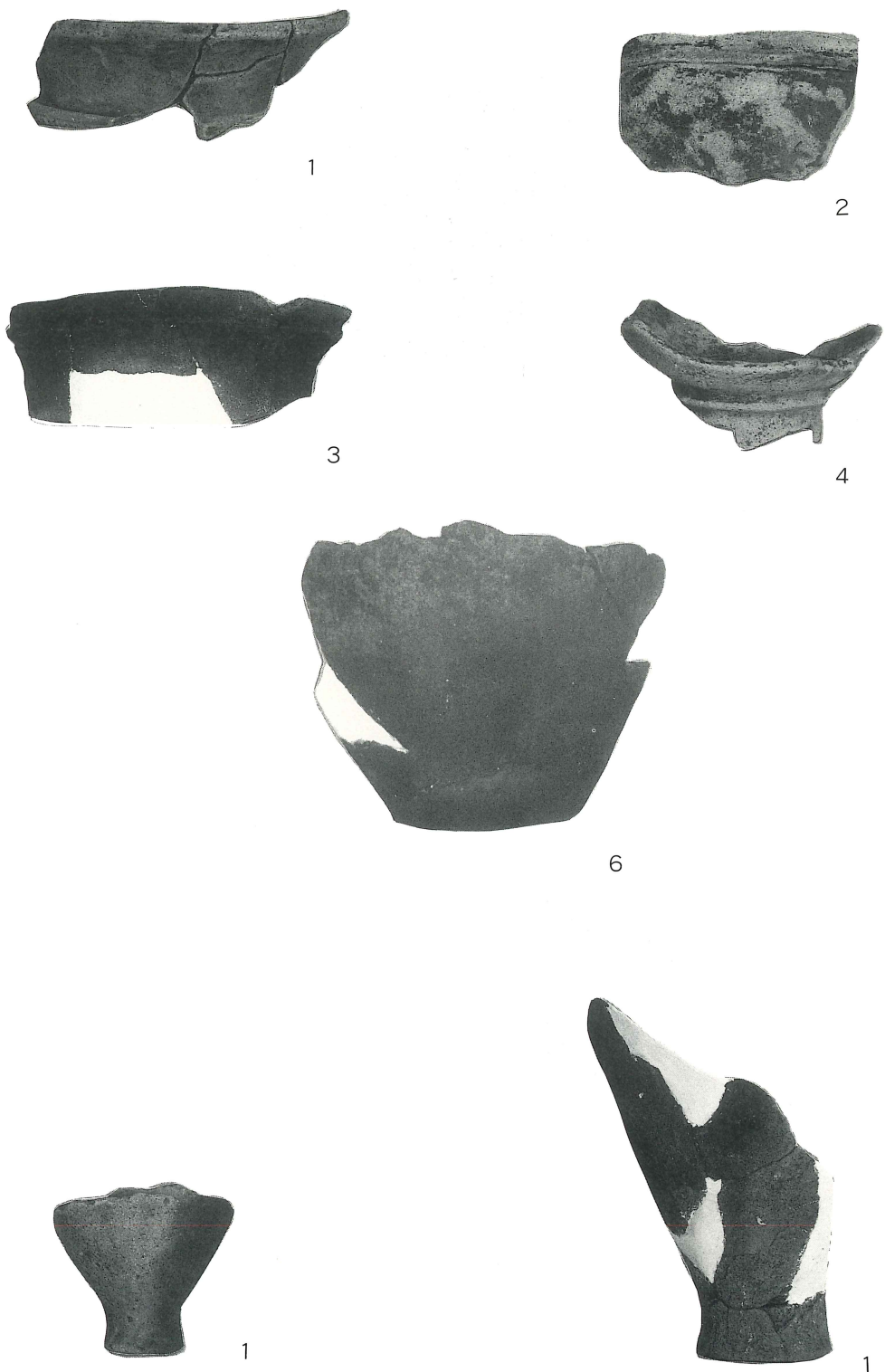
図版50 成田尾遺跡5号土坑出土遺物



図版51 成田尾遺跡 8号土坑(左上1)、13号土坑(右上1)、17号土坑(1~3、5、6)出土遺物



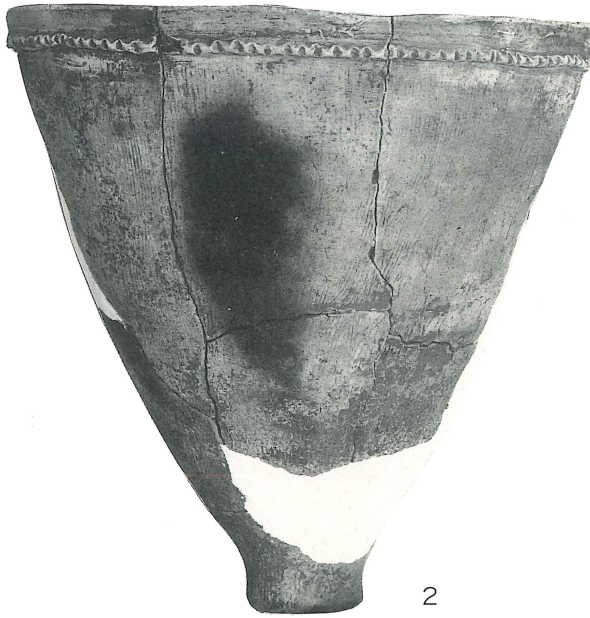
图版52 成田尾遺跡19号土坑出土遺物



图版53 成田尾遺跡28号土坑(1~4.6)、29号土坑(左下1)、30号土坑(右下1)出土遺物

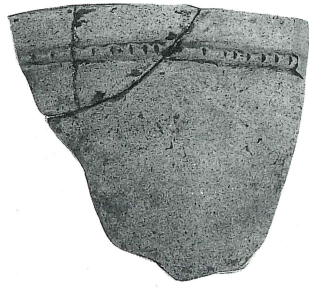


1



2

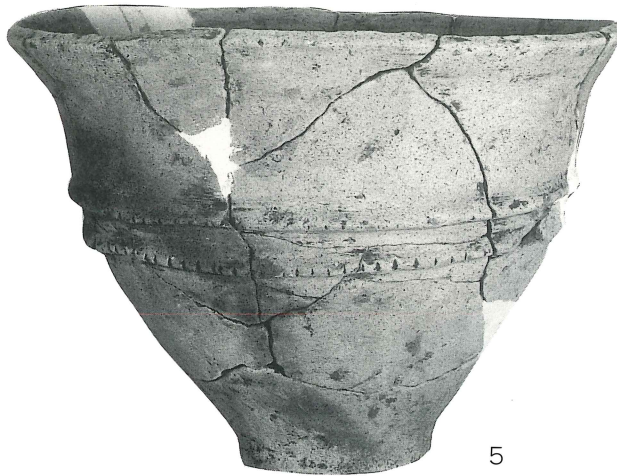
图版54 成田尾遺跡34号土坑出土遺物



3



4

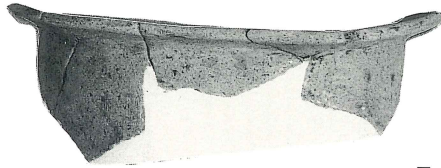


5

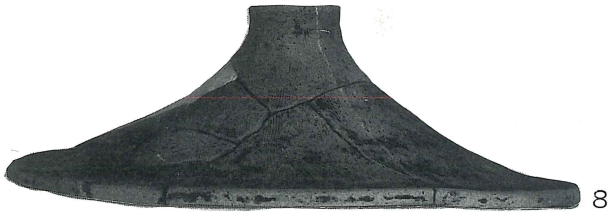
图版55 成田尾遺跡34号土坑出土遺物



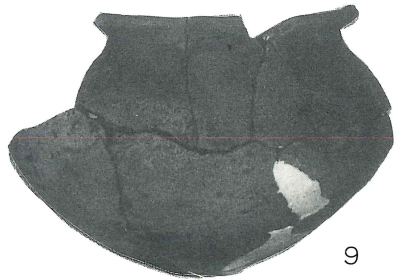
6



7



8



9

図版56 成田尾遺跡34号土坑出土遺物



10



11



12



13



14



15

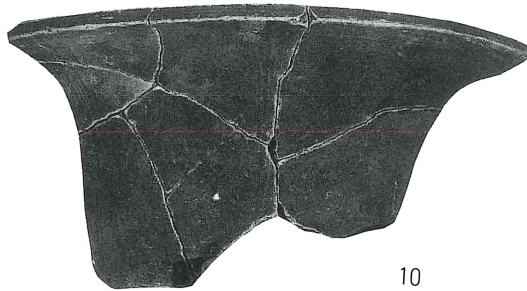
図版57 成田尾遺跡34号土坑出土遺物



8



9



10

図版58 成田尾遺跡 pit 内出土遺物



11



12



13



14

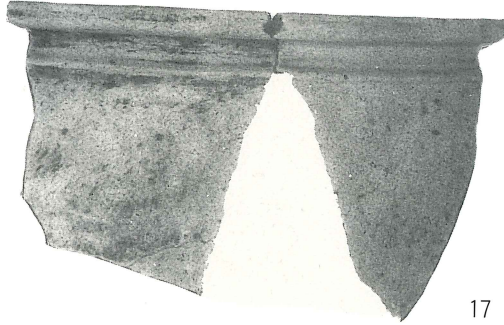


15

図版59 成田尾遺跡 pit 内出土遺物



16



17



18



19



20

図版60 成田尾遺跡 pit 内出土遺物



21



23



29



36



37

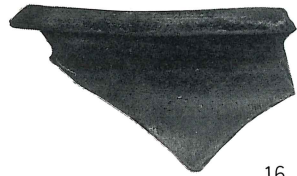
図版61 成田尾遺跡 pit 内出土遺物



图版62 成田尾遺跡包含層出土遺物



15



16



17



18



19

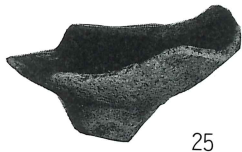


22



23

図版63 成田尾遺跡包含層出土遺物



25



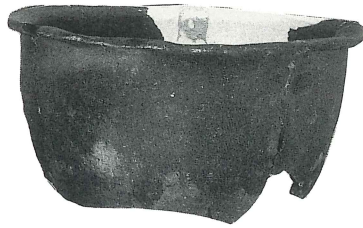
31



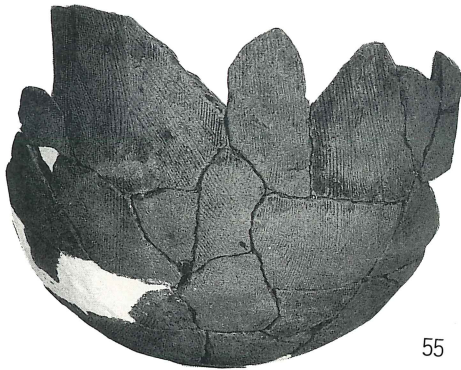
32



33



53



55



74

図版64 成田尾遺跡包含層出土遺物